



桃家
善帖

天



大令

天保八丁酉年
載旦

四木の

竹やつく意乃

初日影

太白堂

孤月



春興

寂色の障子紙と名す椿哉

孤月

丙申
歳暮

年の市出ぬにて志はし詠めたり 全



東君

忍原りの細きつらとそ秋の葉

金陵亭
千尋

うさしくまかそ月のむらさき

孤月

あそみの乃浦浦ささく空あそく

白甫



芳天

引きこく馬くくもさあむ

曆軸

餅のりひきくもく人むま婦

全

千尋



青帝

去るものさしりのくあつ物ほほ

中世のしをくくくくくく山

ゆきと弦を流るるすのふあを

恬和館

雅量

孤月

静江



春色

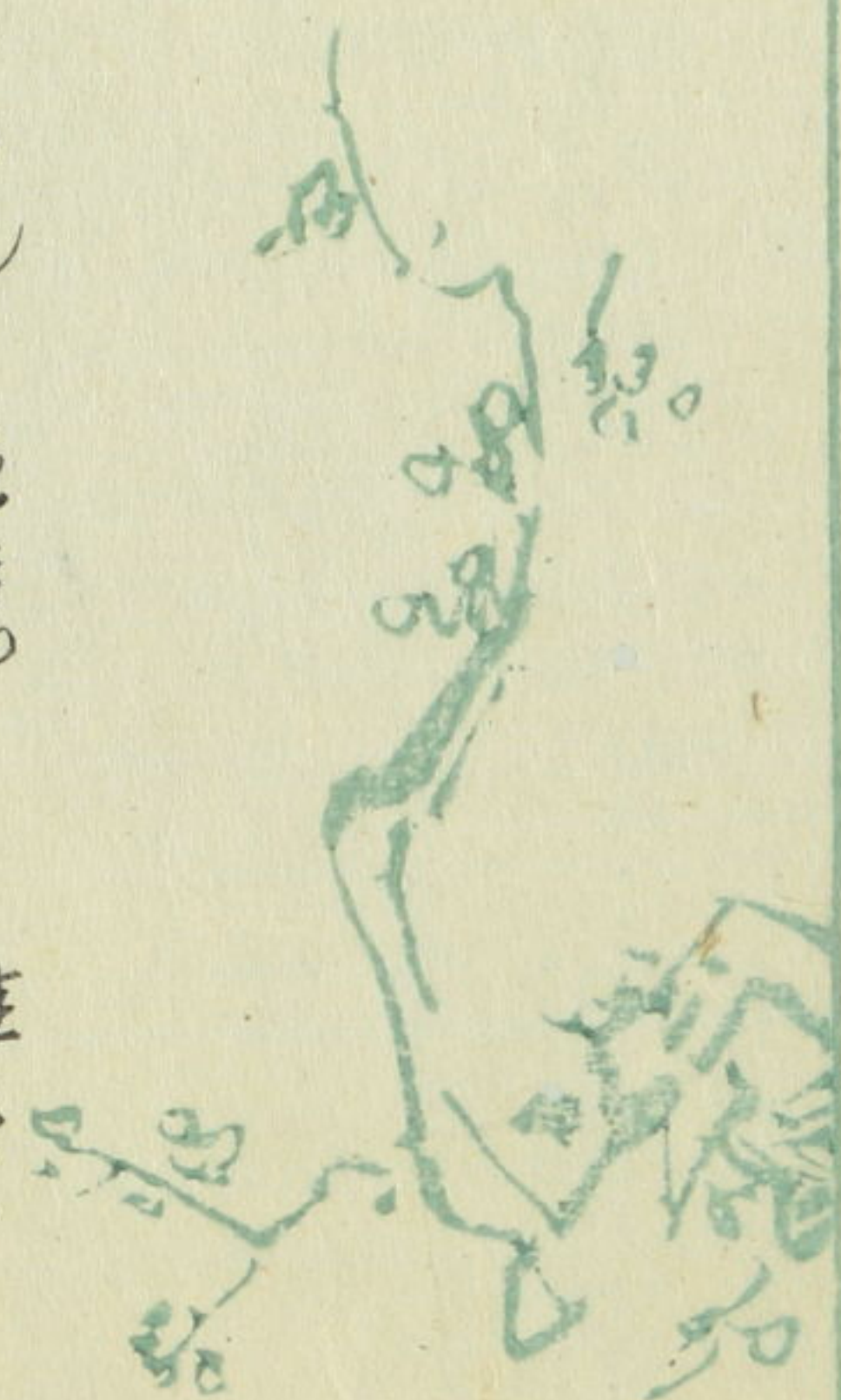
あけぼのの霞にうらみあふれぬ

雅量

歳蘭

あけぼのの梅にうらみあふれぬ

全



月三

上日

あけぼのの霞にうらみあふれぬ

白堂

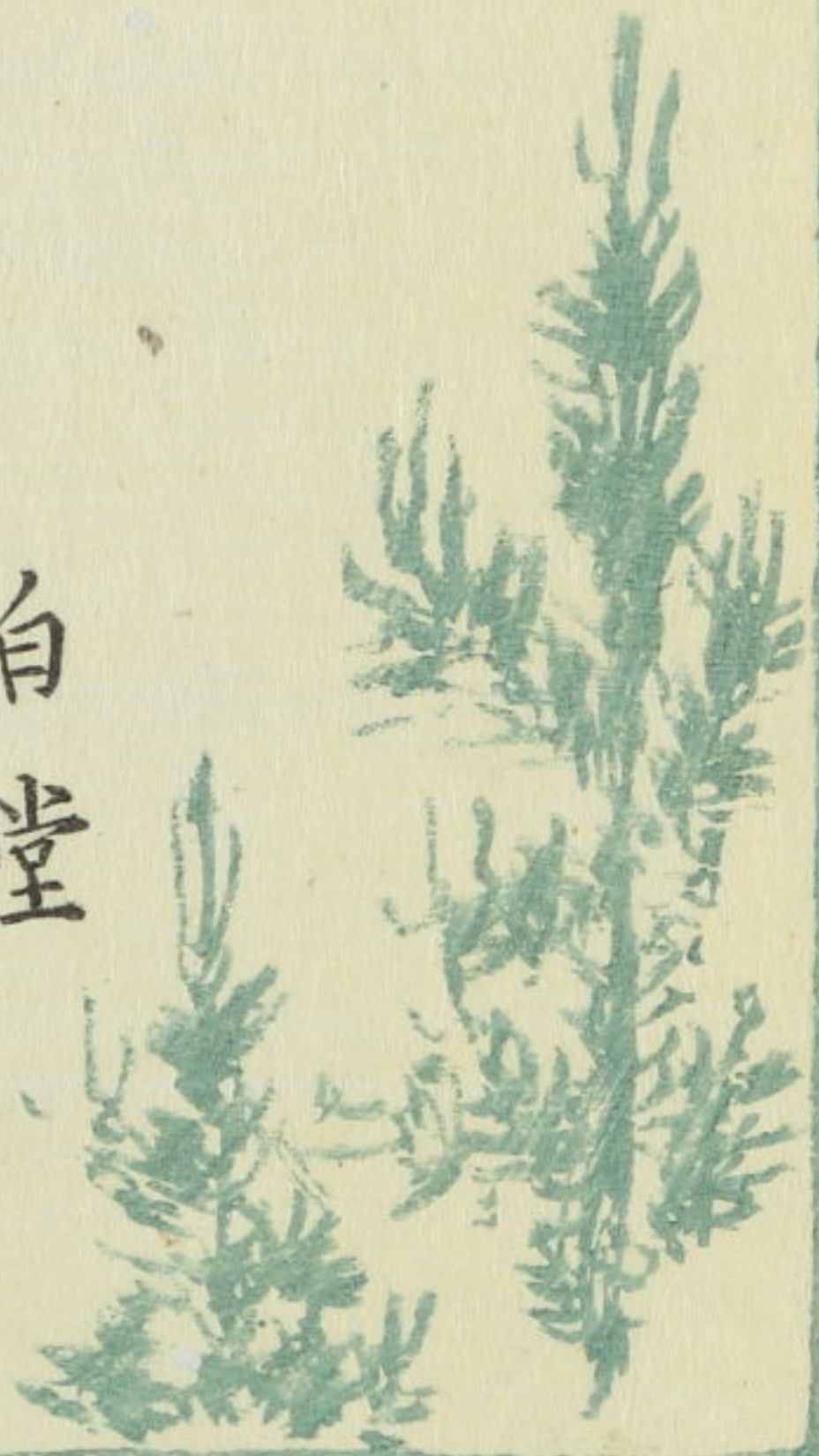
桃雨

あけぼのの霞にうらみあふれぬ

孤月

あけぼのの霞にうらみあふれぬ

静江



月三

韶光

峯の梅咲く人おぼろのまよひ

柳白



晚冬

鶯のまき鳥か啼ぬ年忘れ

全

聖節

初らそも越つては乃白くそな

挑京堂

喜駒

峯と知る毎のゆくみ

孤月

是くしきそを自憐々

守月



和景

梅折れを折柳と増く自如

嘉福

第月

念入く淡く暮るる月夜

全



新正

雪の屏の松も花を初る

惟精館

修月

心家の春告る

孤月

川流るる雪の詞書

東之



春光

去年の地を後へて

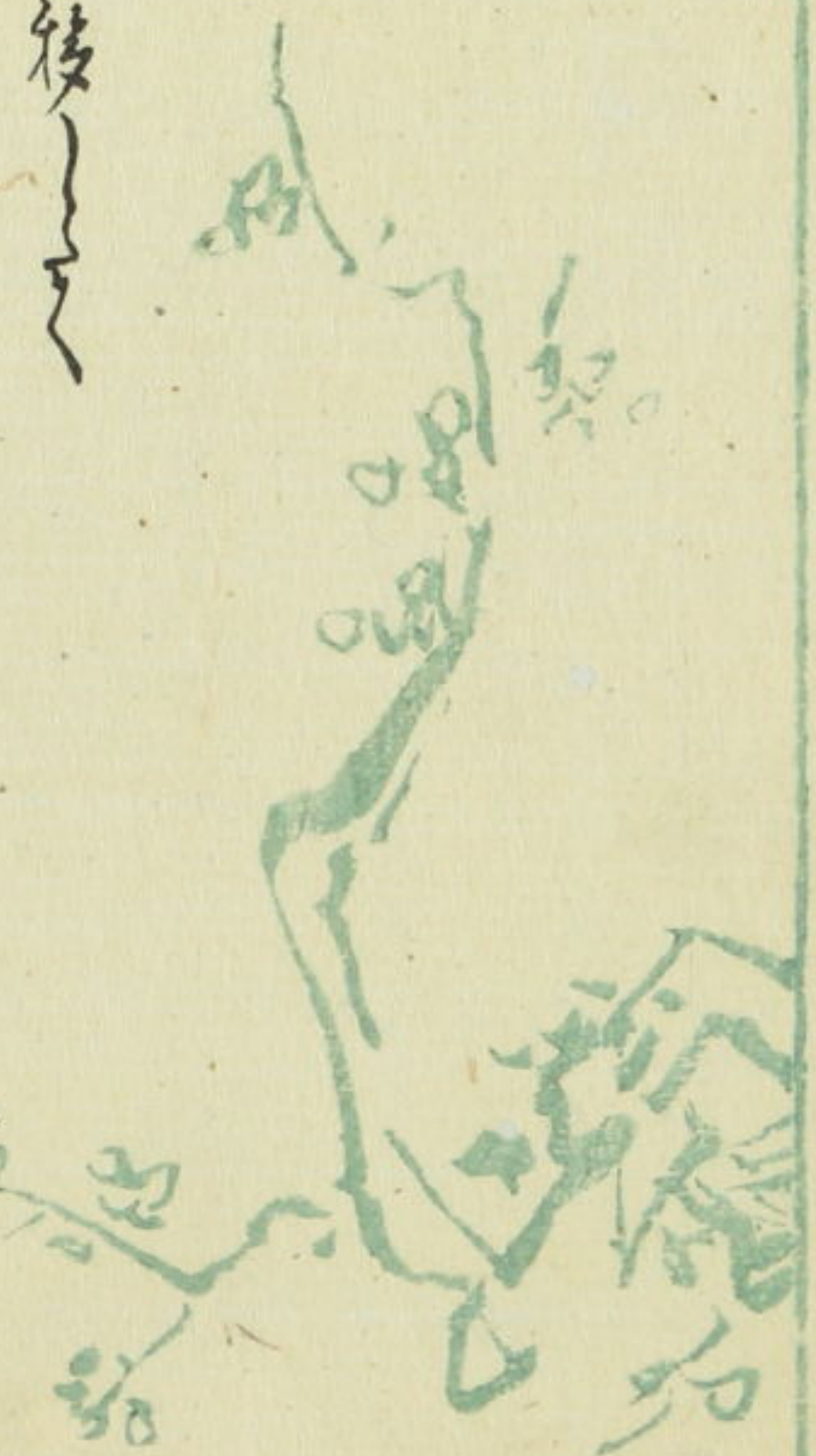
遊少泉つゝふか梅を極まり

修月

三冬

海をまの隅よりまじはる中

左



花晨

いん雪の白き鏡りし花の色

松堂

普翠

雪やまんと朝の雪をて

孤月

凍るる時計の根付あまた

孤中



淑景

柳り橋とくさるふもををきか

人さる子妻のさるのりさるるぬ

一志

太歳

少里乃海うらやち年のさる

全



青帝

やさしく風を吹く

太晴堂

古笠

鳴きわたるむす秋の

孤月

京のつゆをきく

兔咽



春色

春の柳の枝一に痛くもたす

古筆

歳蘭

歳蘭の花はあつたての香り

全



和清

冬は雪を待たせ

光風樓

有志

うさぎの足は雪の煙をくもる

柳の影は雪の煙をくもる

孤月

柳の影は雪の煙をくもる

幾丈



天霖

月代の利ひより梅乃をぬ

有志

年備

年のりや美しき心はまなす

全



唐詩

改旦

減りし多や一り持てぬ

桃知堂

文狂

雪の人のあはれを並ぶ

孤月

遠くは海をよの独をつらする

守月



亭十一

芳天

春の心とてさくらさくらの人を思

文程

曆軸

ちよとてゆきもきり雪そりの甘

全



佳節

晴き一雨毎くやそく紅色

桃集堂

素琴女

起終ゆきより恵方清く

孤月

雪消る色をみく投入く

白甫



春色

春風吹く枝を揺る梅の白く如

素心



季冬

海山乃物まをゆるり解の音

全

新正

あまの常玉ももえりし

桃有堂

遊我

初日の色を家の障子より

孤月

古き好ちらふと春の空を

白甫



春光

春の光をさす花の影の海

遊我



三冬

おとふくまの影の海をさす

全

三元

掌子のそとに海をぬ福来子

桃芳堂

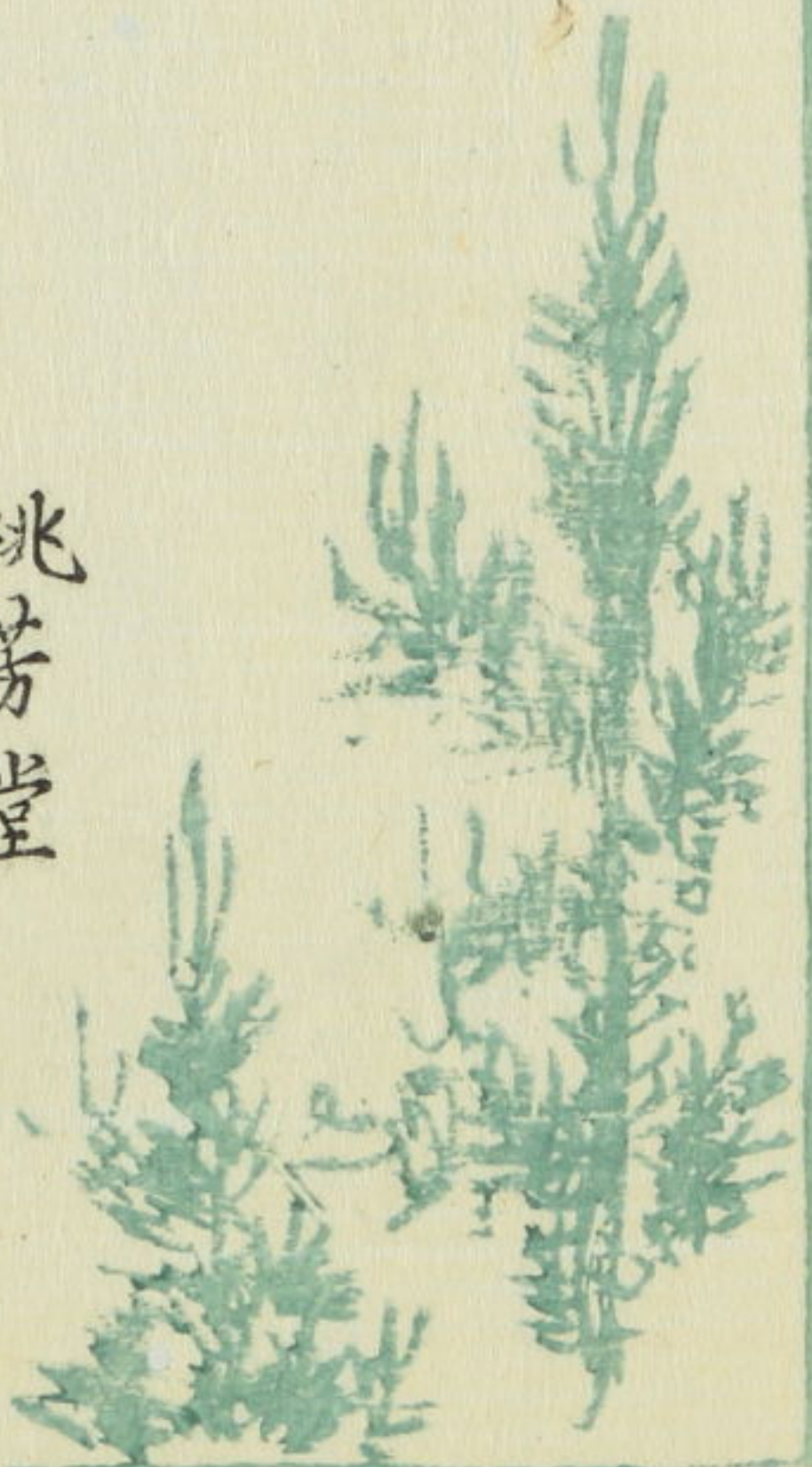
遊絲女

名海のそとに海をぬ福来子

孤月

海をぬく厨へ人をうつりしそと

静江



駘蕩

風のちよこりふんゆりりまのせ

遊絲女

晩冬

空よりまゝ人よめあはる御まゝ

全



尾七三

三始

暖乃香も酒さく福さく

太鮮堂

李仙

旅をよけし雲をくわむ

孤舟

湖鏡の沈くを海鏡ゆ

湖石



序十五

芳天

蘇我のまきまきふの年

李仙

曆末

氏神くゆや長兄のあは

全



迎陽

加勢まきまきふの研

楊園館

榮絲

あまの神くゆの梅の香

孤月

ひるまの浪のまきまきふの研

右園



淑景

初よりくまをまきく柳の家

曆軸

春を待つ心くつろく夕陽乃咽

紫絲



空

改旦

えりやんぬふりたる人の解

太甫堂

松衣

くまのくまをぬき還るの歌

孤月

狐島子遠きよのきを泣き

孤中



飛天

乃のつとみよのつきり伸のち

松衣

年備

美くおのしとてしと

全



和清

狩衣のつとみよのつきり伸のち

寶嶺館

嵐月

乃のつとみよのつきり伸のち

孤月

美くおのしとてしと

静江



韶光

昔年之如夢之如夢之如夢之

嵐月

晚冬

秋夕新強ぬ也海舟の峰千灯

全



尾十八

上日

望之也心毎之々之々之々之

寶雲亭

嵐照

空之也其前之也其前之也其

孤月

つるや合ふらき流のうららふ

鬼明



亭十九

和景

落葉の空に九斗の都を映

流雲

太歳

とて雲より山は流るる春を運

念



三十一

聖節

老桐子の中や月をくらり木陰帯

好静堂

桃居

そめさけらるるふせきの能行

孤月

一雲の空に流るる梅のまゝに

有蓋



和景

作山々々々々々々々々々々々

桃居



弟月

桑合のふきあけりや春の音

全

改且

室の隅にひきき力う然

芥園

里川



片の穂の碎きく水も此水

孤月

あつたまのまの石居ありと

其盛

春興

杉の葉をこぼすのうらやめ

里川

除月

竹の葉をこぼすのうらやめ

左

三元

卯のうらやめをこぼすのうらやめ

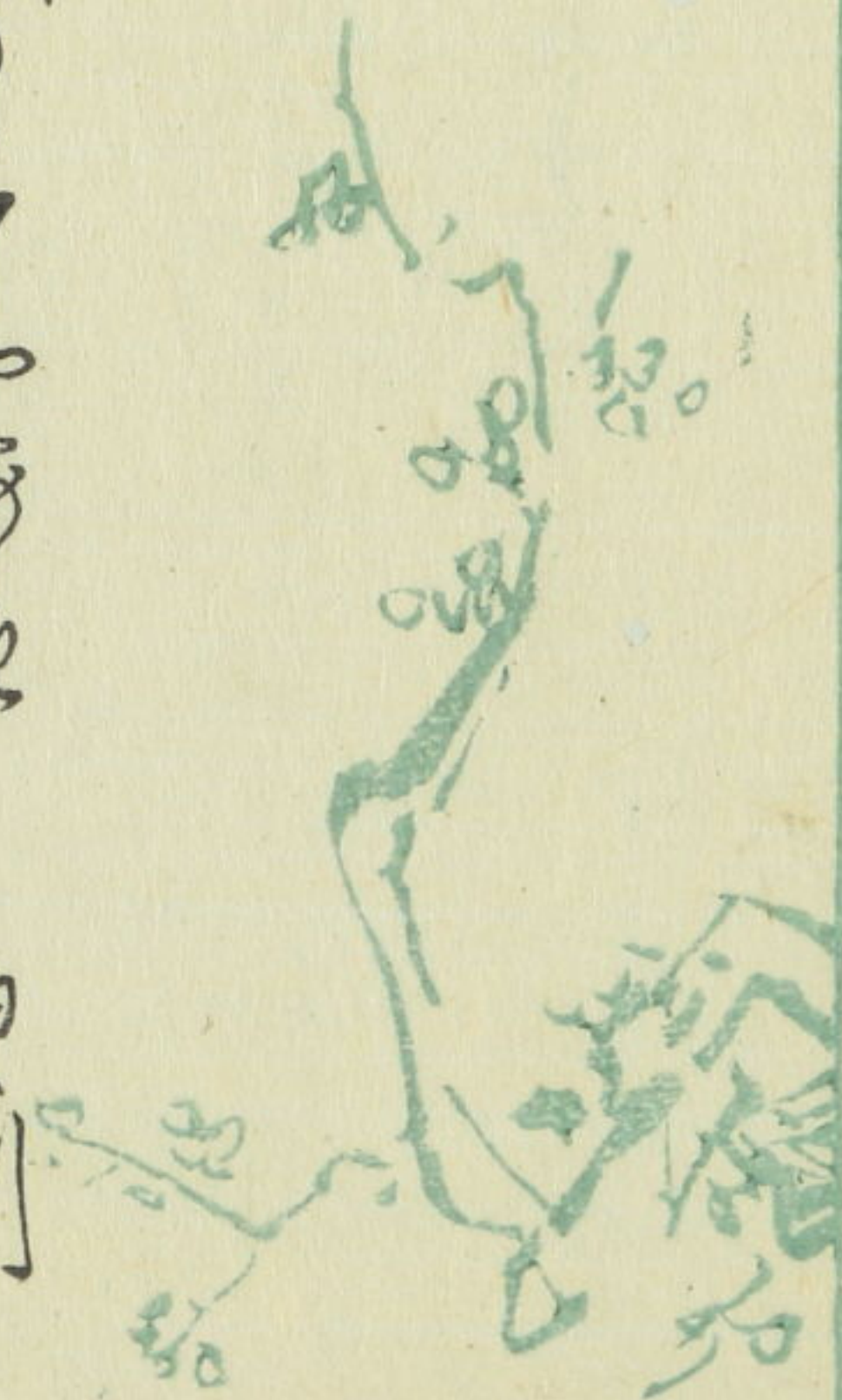
成中之坊
寂照坊
親徳阿

梅乃里のうらやめをこぼす

孤月

龍のうらやめをこぼすのうらやめ

字月



春光

春をなれやりの中を風を門の細

徳阿

年備

二十五年の春の光
のちの子年成るんとの飯 全



解三十一

歳旦載暮春興

おちつゝと旅のよはりの松のうら 都仙

うらうらと淡い心さぬら置るに方

々々子おまじやと行きのむさ 都丸

逢ふに扱はるるり ーと集るる 都丸

うらうらと旅のよはりの松のうら

こり代を染めぬらとーの市乃新

の解や旅のよはりの松のうら 華月

あつた人ものしつゝあつたことおの春 新雨

海山を登りし甲のうらまをさか

花ののきもさあつてしるすか

ちのしつゝのきもさあつてしるすか 花川

さあつた人ものしつゝあつたことおの春

あつた人ものしつゝあつたことおの春

あつた人ものしつゝあつたことおの春 信濃 甲 雀

あつた人ものしつゝあつたことおの春

あつた人ものしつゝあつたことおの春

あつた人ものしつゝあつたことおの春 彦月

あつた人ものしつゝあつたことおの春

あつた人ものしつゝあつたことおの春

あつた人ものしつゝあつたことおの春 波花

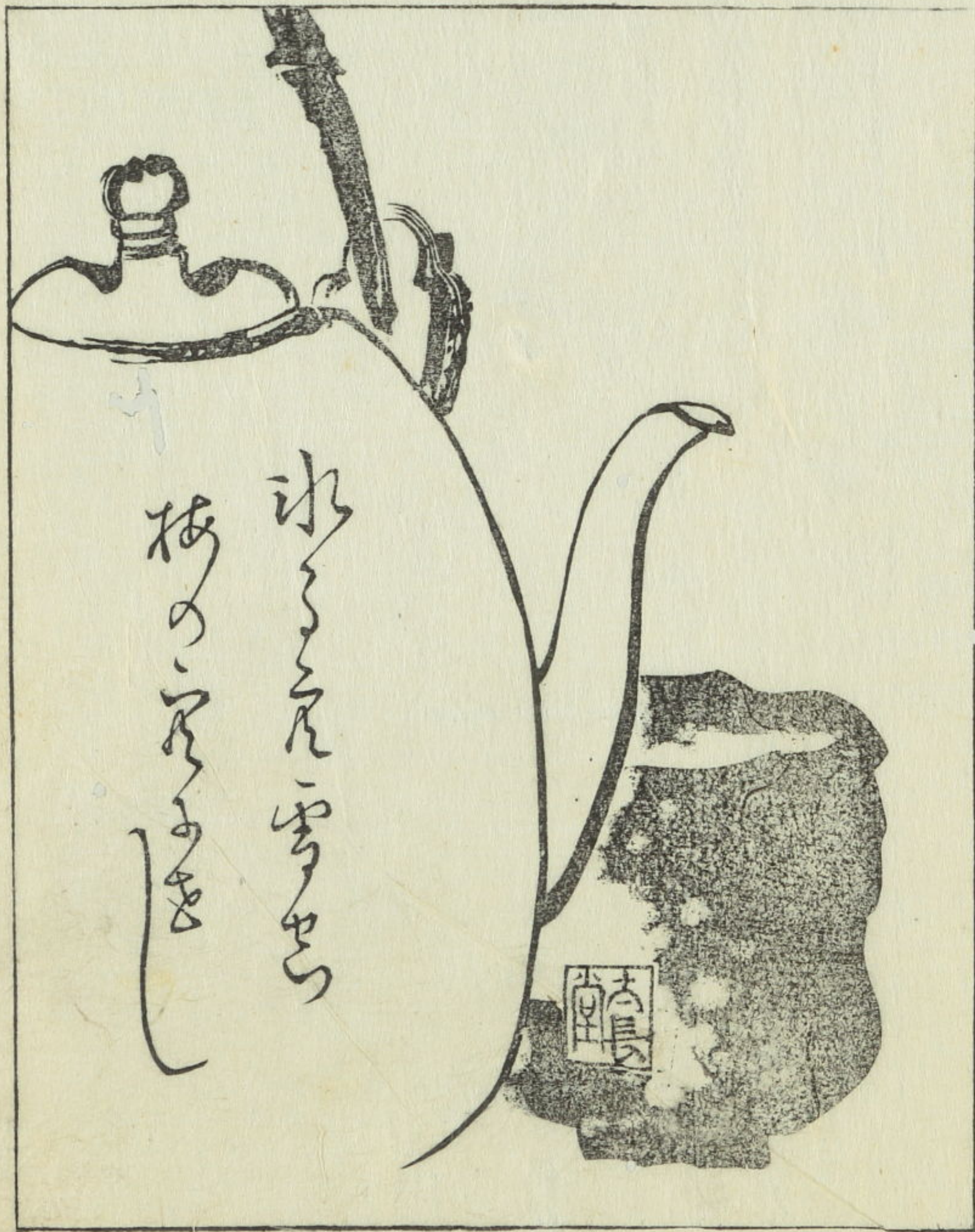
あつた人ものしつゝあつたことおの春

あつた人ものしつゝあつたことおの春

あつた人ものしつゝあつたことおの春 遊月

あつた人ものしつゝあつたことおの春

あつた人ものしつゝあつたことおの春



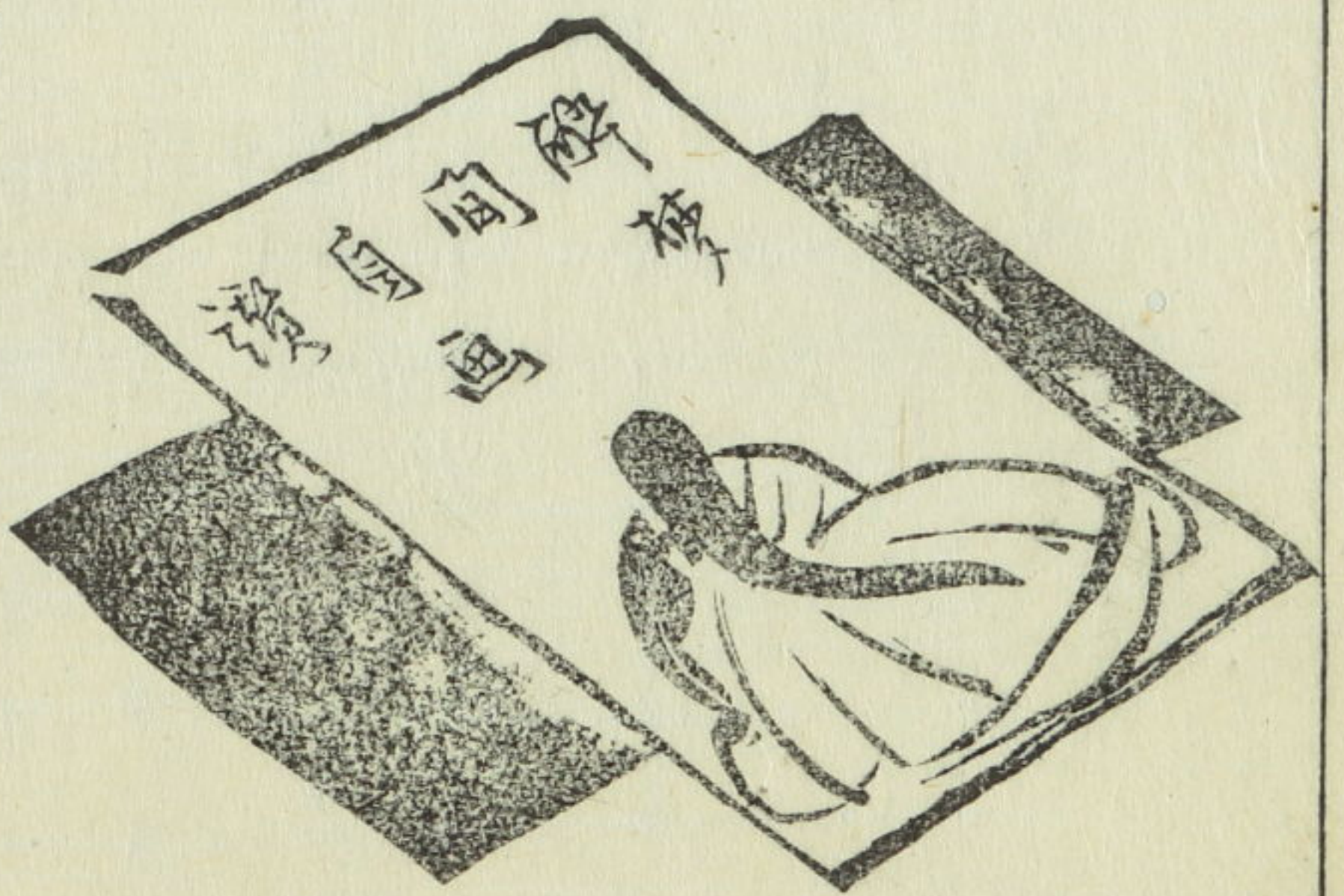
湖文庵桃松

柳
かき

貝汁の
まじり



松を



西の松

くさくさ

木鱗

琴のまや

松の枝

ま

松舎

ま波女

佳節

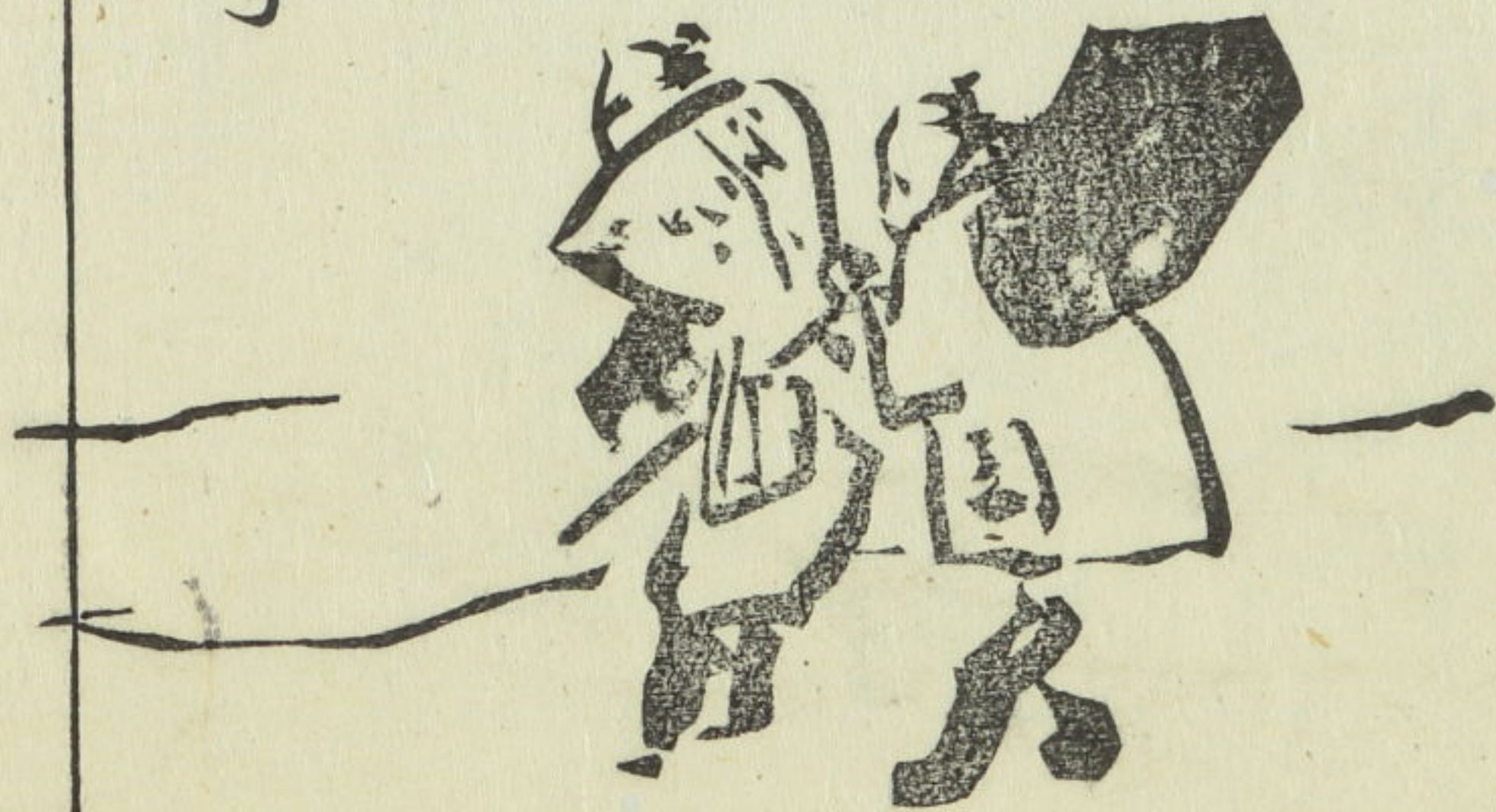
思ひのつらさ

ちよ〜

まぢり

芙蓉館

閑了



まぢり

山田の燈

全

まぢり

あ〜

まぢり

市の人

全



お目くらまし

勢 ちのあき

春乃風

岩加楼

菱山



氏移流

概右堂

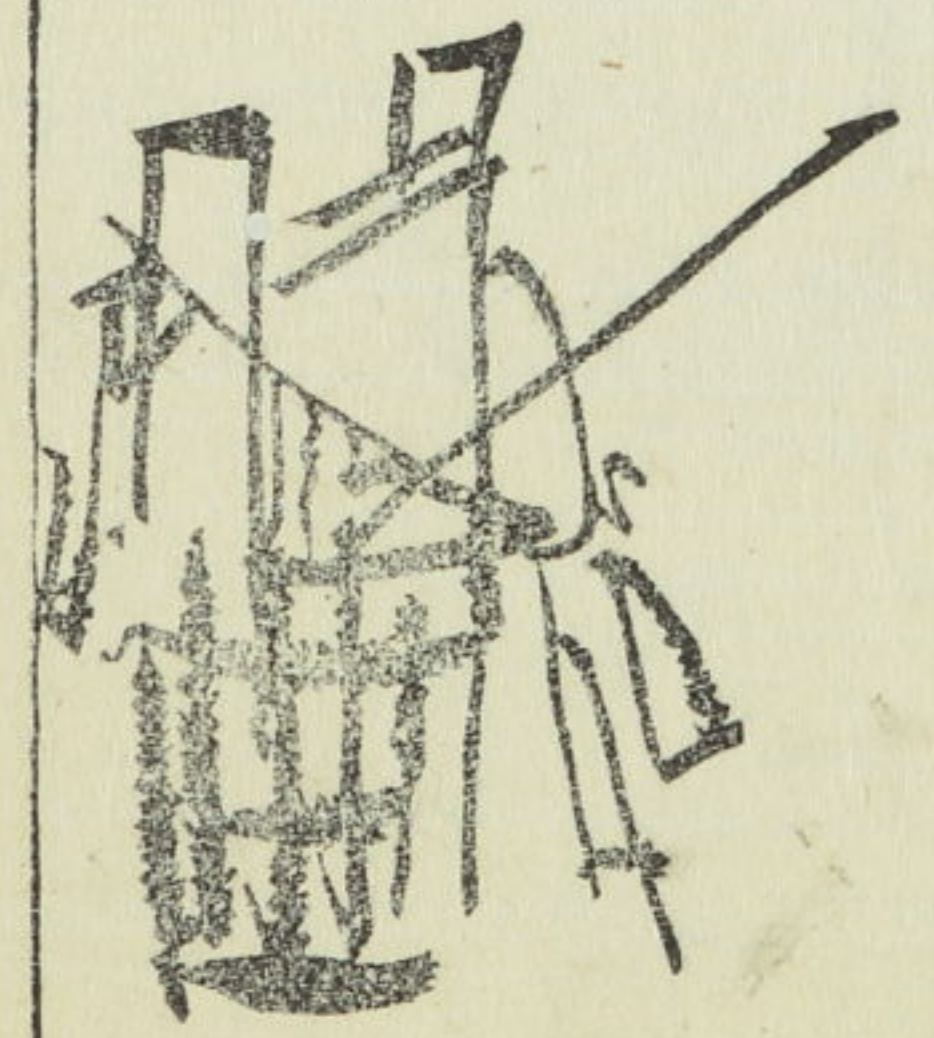
編中

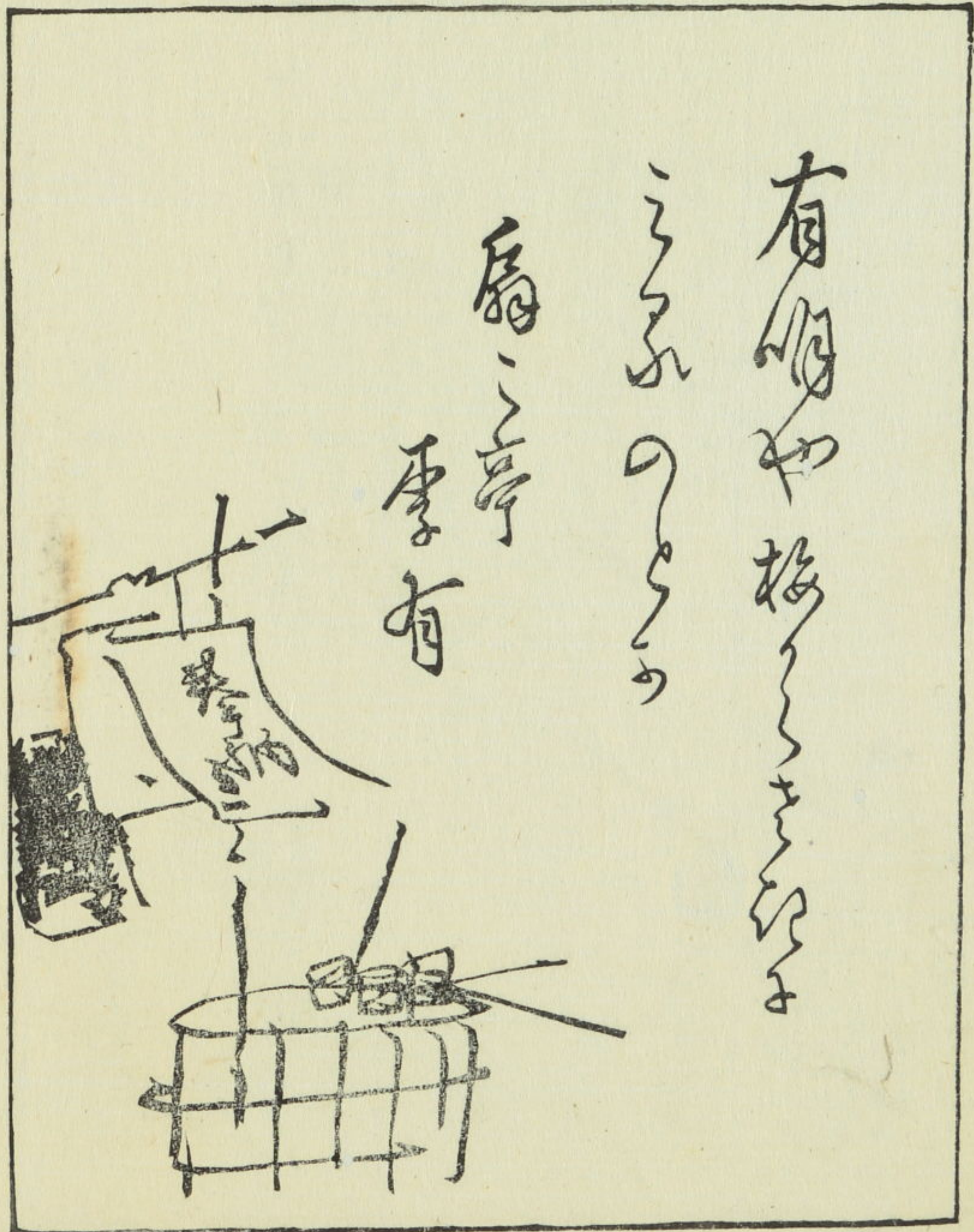
昔のまのころより
おのころより
たまたま
梅雨のころ

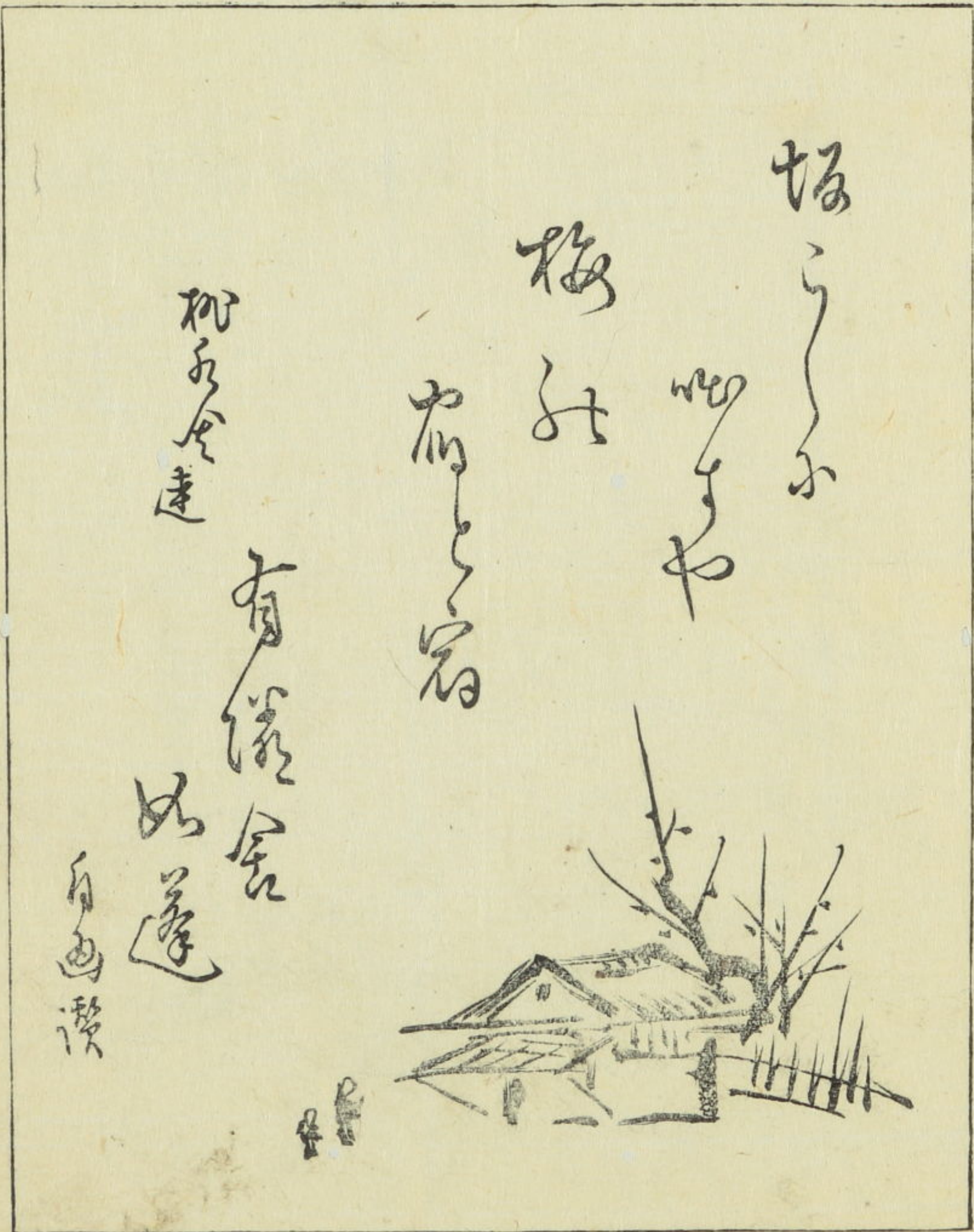
あつた

あつた

あつた







梅
子
不

如
書

梅
子

如
書

柳
水
達

有
儀
舍

如
蓬

白
西
渡



年
一
冬
之
度

舌
帖
一
加

老
木
に
山
鳥
之
交

梅
花
花

八
十
年

東
都
清
之
女

白
西
渡

つのもを

たついで

ほろり

安松

芳志

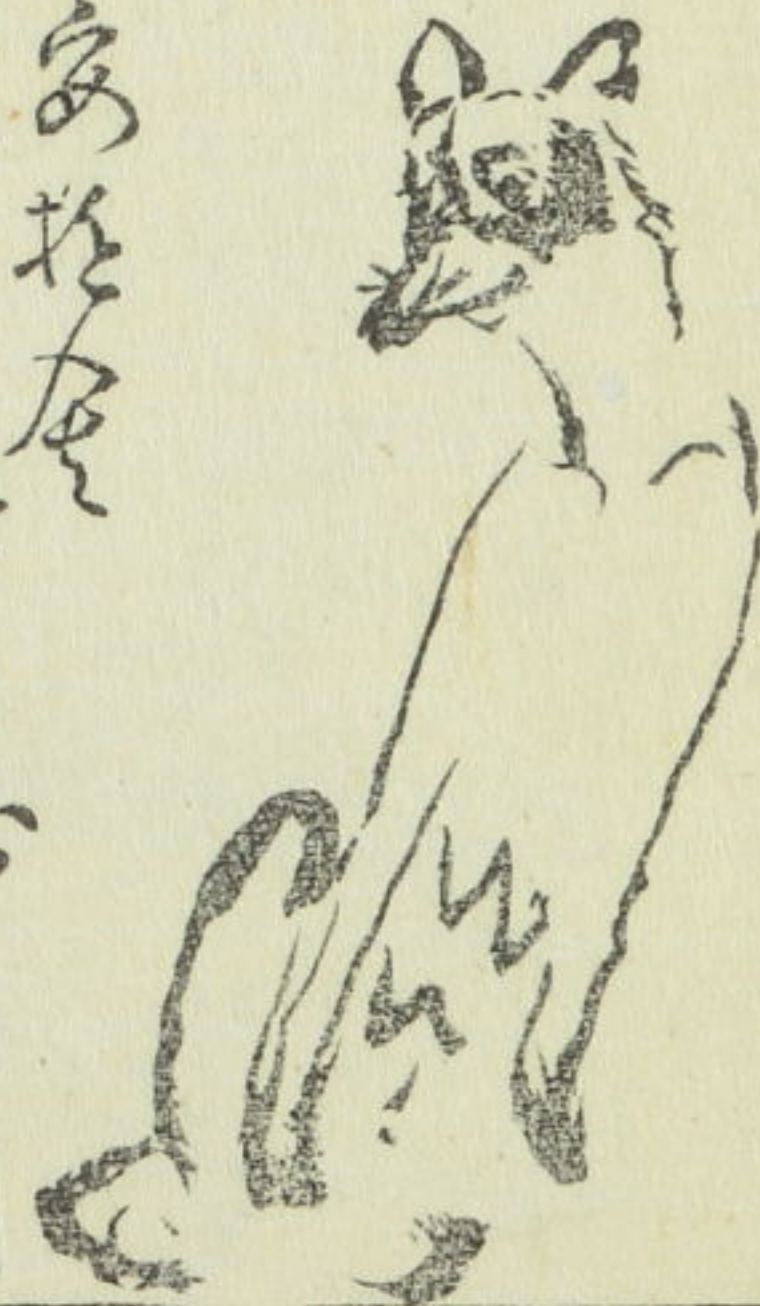
とついで

しついで

左金堂

文少

家可



三

つのもを

左達堂

芳水

つのもを

つのもを

安松

樂月

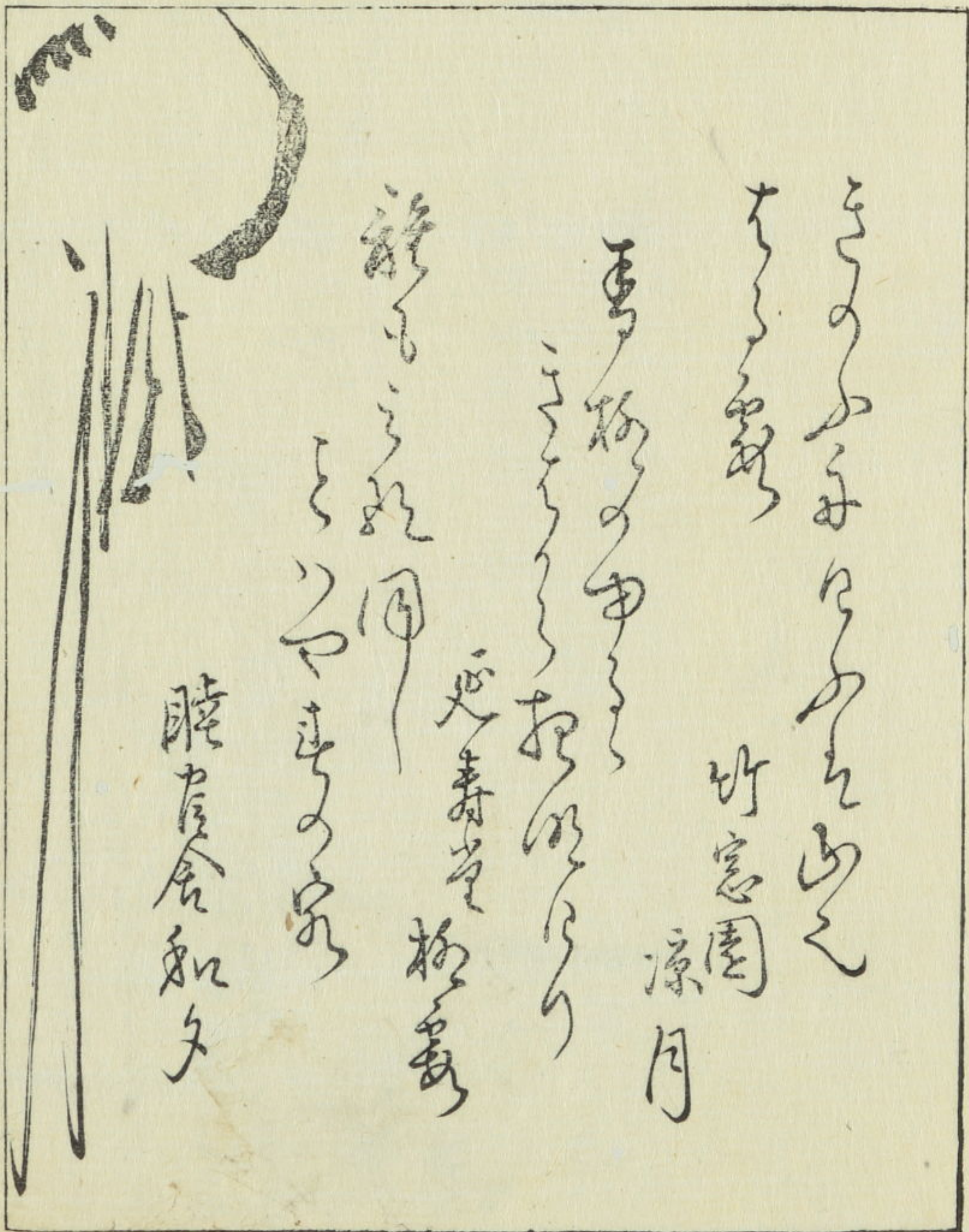
つのもを

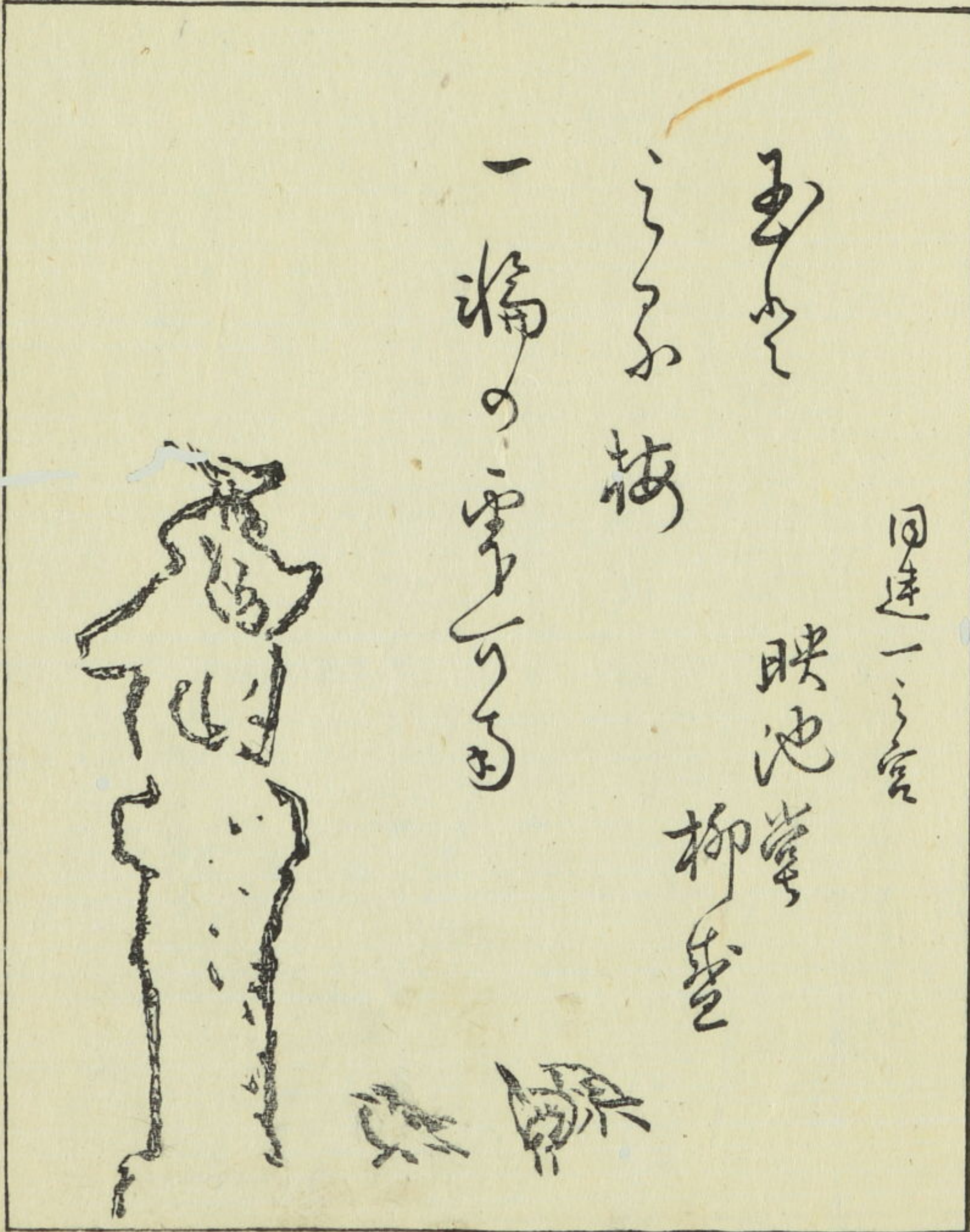
左好

芳玉



三





同達一の言

玉々

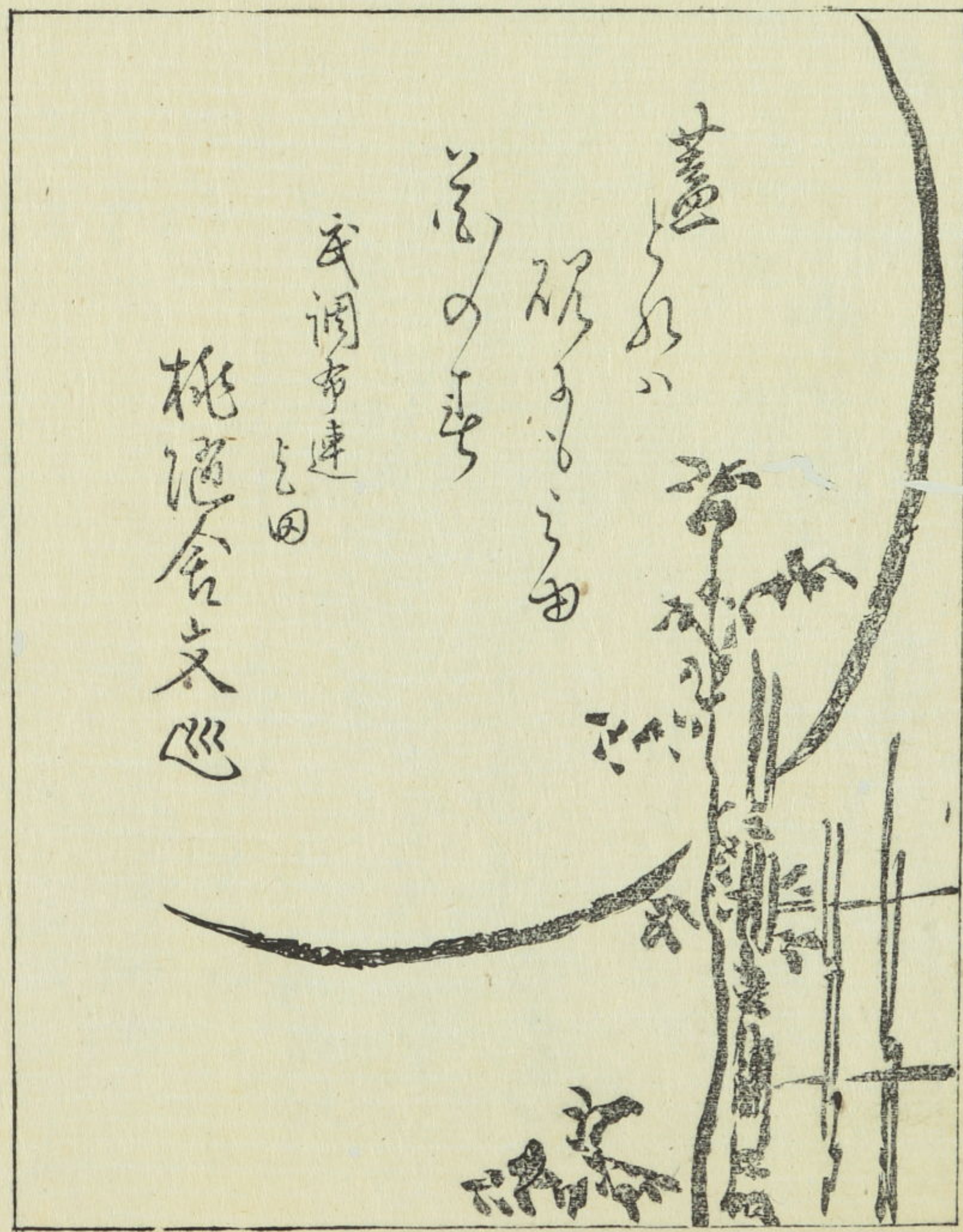
映池

掌

柳

いふ花

一編の事なり



桃酒舎文巡

或調布連
と田

急の事

石の事

草

三



十七

急坂のりりり 江流掛連
きりきり 白石

いんいんいんのいんく
うせりもきりきり
きりきり

うせりきりきりきり
ちりりー 旅のきりきり 全巻左国巻
湖也

馬きり

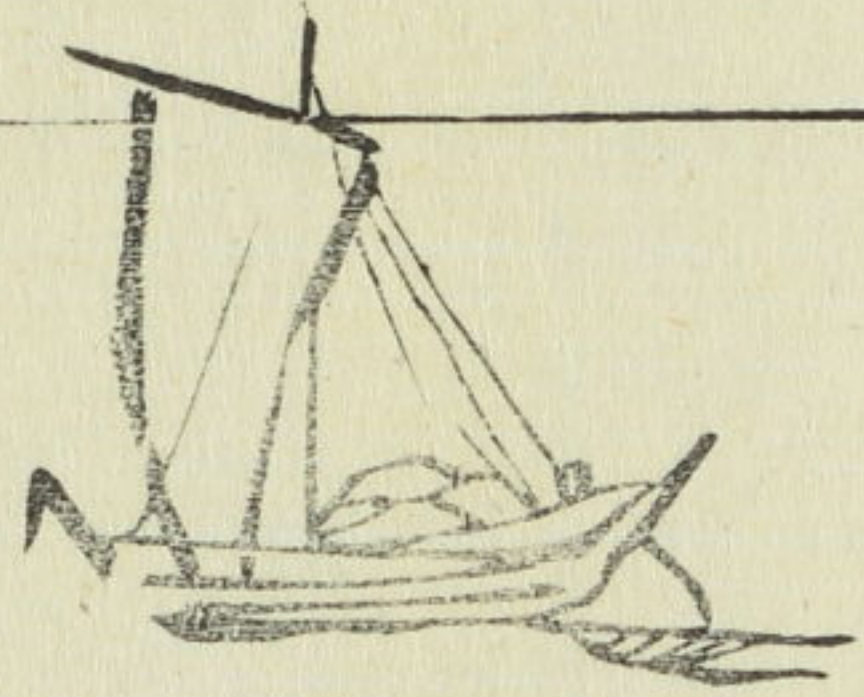
きりきりきり

きりきりきり

信松代

華見





西のうへ鳥もあらし
 ありたり
 若くは
 左殿殿
 義女ふたふた
 信長
 長久保
 山手
 東雲
 新
 舟
 舟
 舟

水法

しるし

しるし

舟

舟

舟

舟



舟

あめをうらむ
はなをうらむ
あめをうらむ
あめをうらむ

おぼろくさハ

ちんちん

あめをうらむ

ちんちん

甲春系

柳下亭

車絆

あめをうらむ
あめをうらむ
あめをうらむ
あめをうらむ

あめをうらむ

あめをうらむ

あめをうらむ

あめをうらむ

全

あめをうらむ

あめをうらむ

あめをうらむ

あめをうらむ

あめをうらむ
あめをうらむ
あめをうらむ
あめをうらむ

北

琴乃
 中
 東山
 高
 白
 兔
 文

漫
 甲
 子
 馬
 玉

二五七

平井平井平井

雲後園林

ちりりりりり

海りりりりり

花りりりりり

後表連

南松樓

銭様



二坊りりりりり

梅を

りりりりり

ちりりりりり

りりりりり

りりりりり

りりりりり

りりりりり

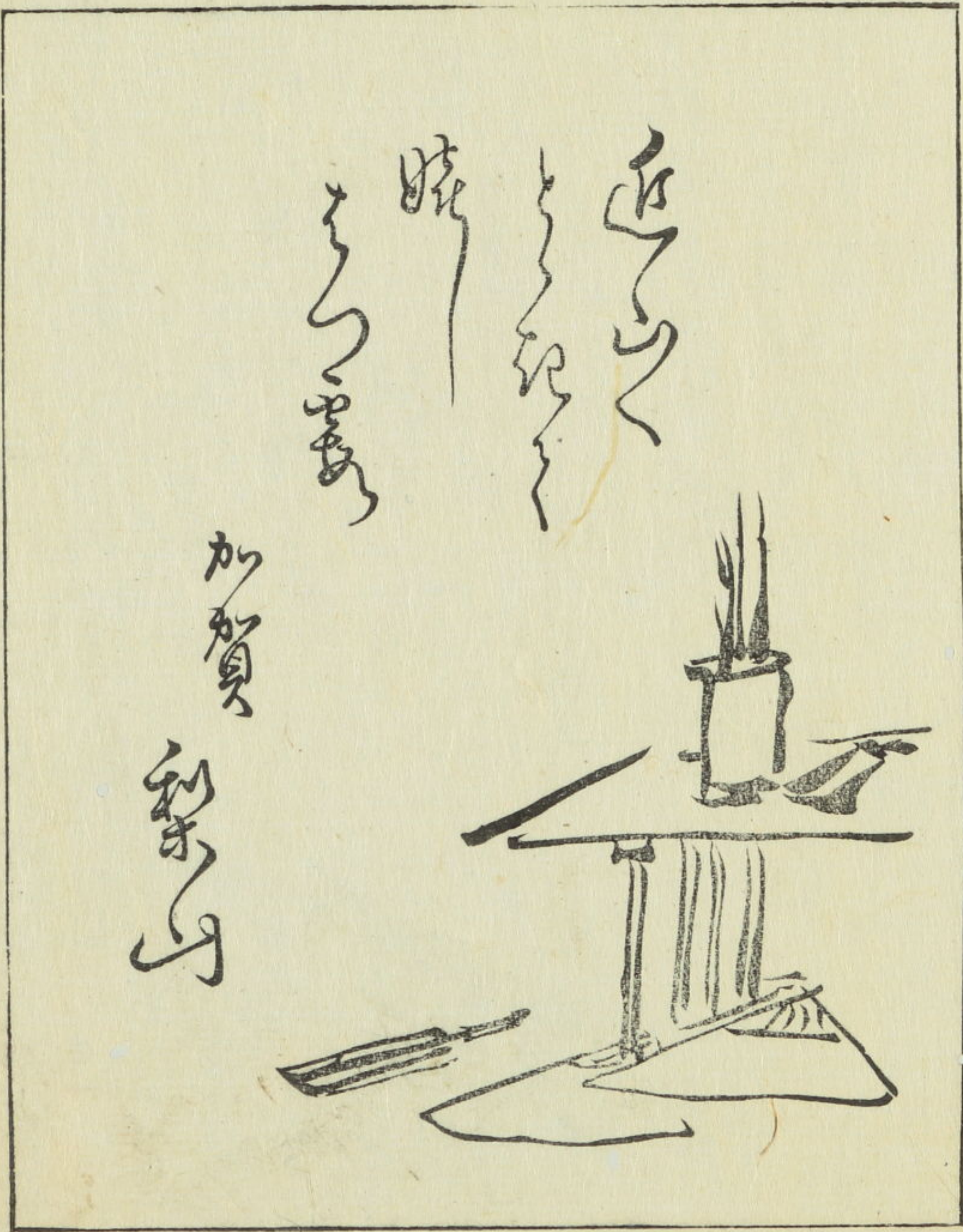
りりりりり

りりりりり

りりりりり

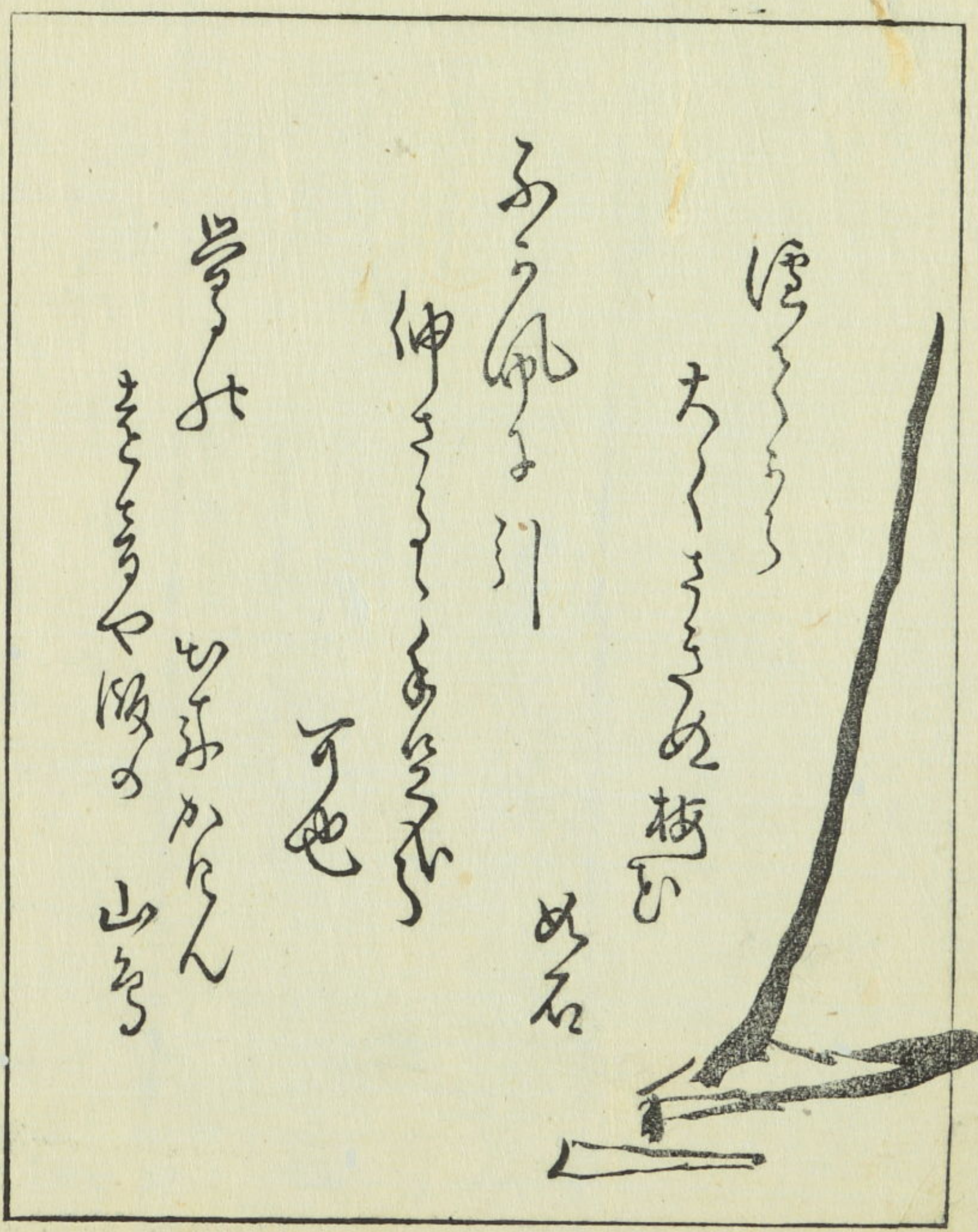


平井平井平井



近
 々
 々

加賀
 所



遠

大

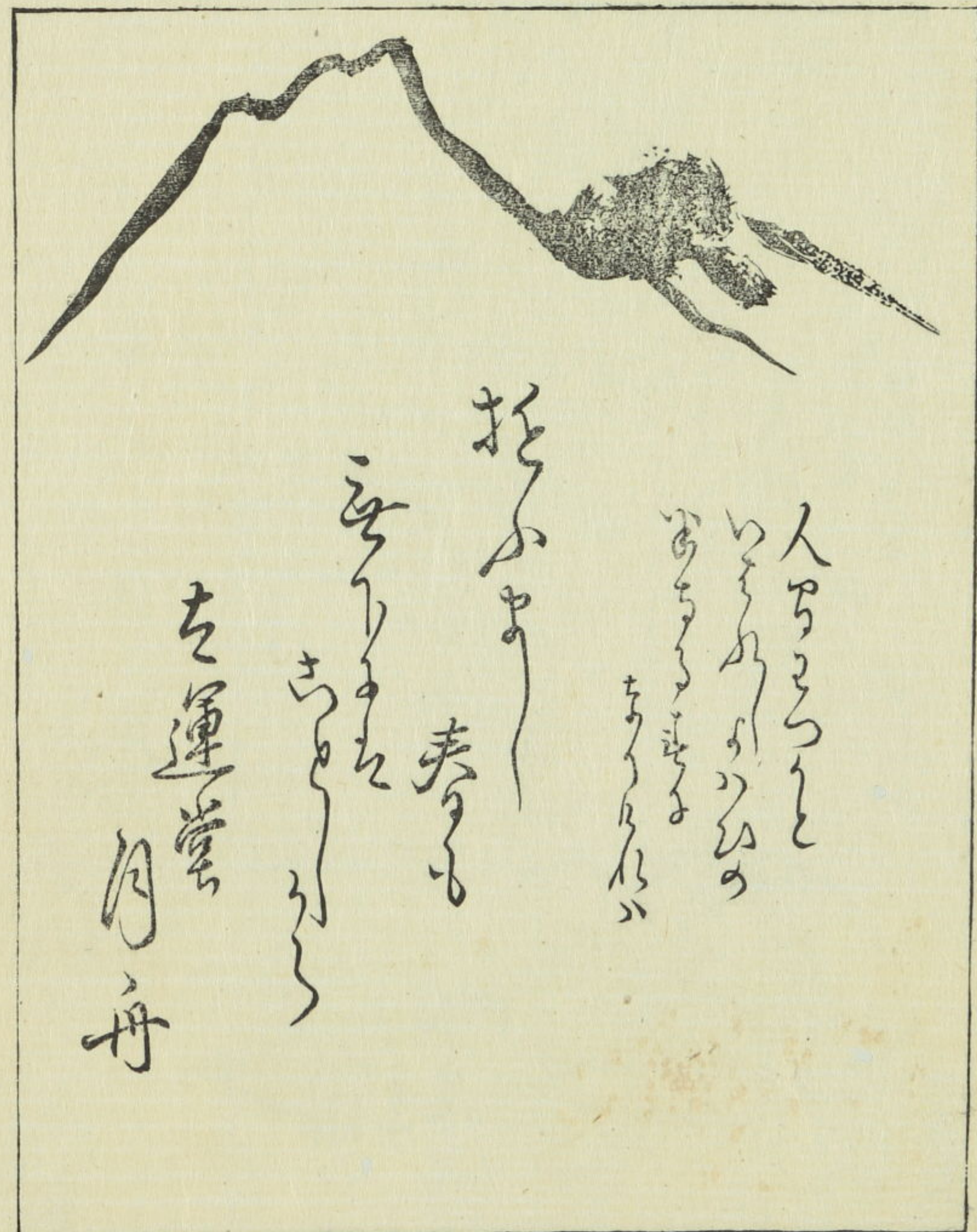
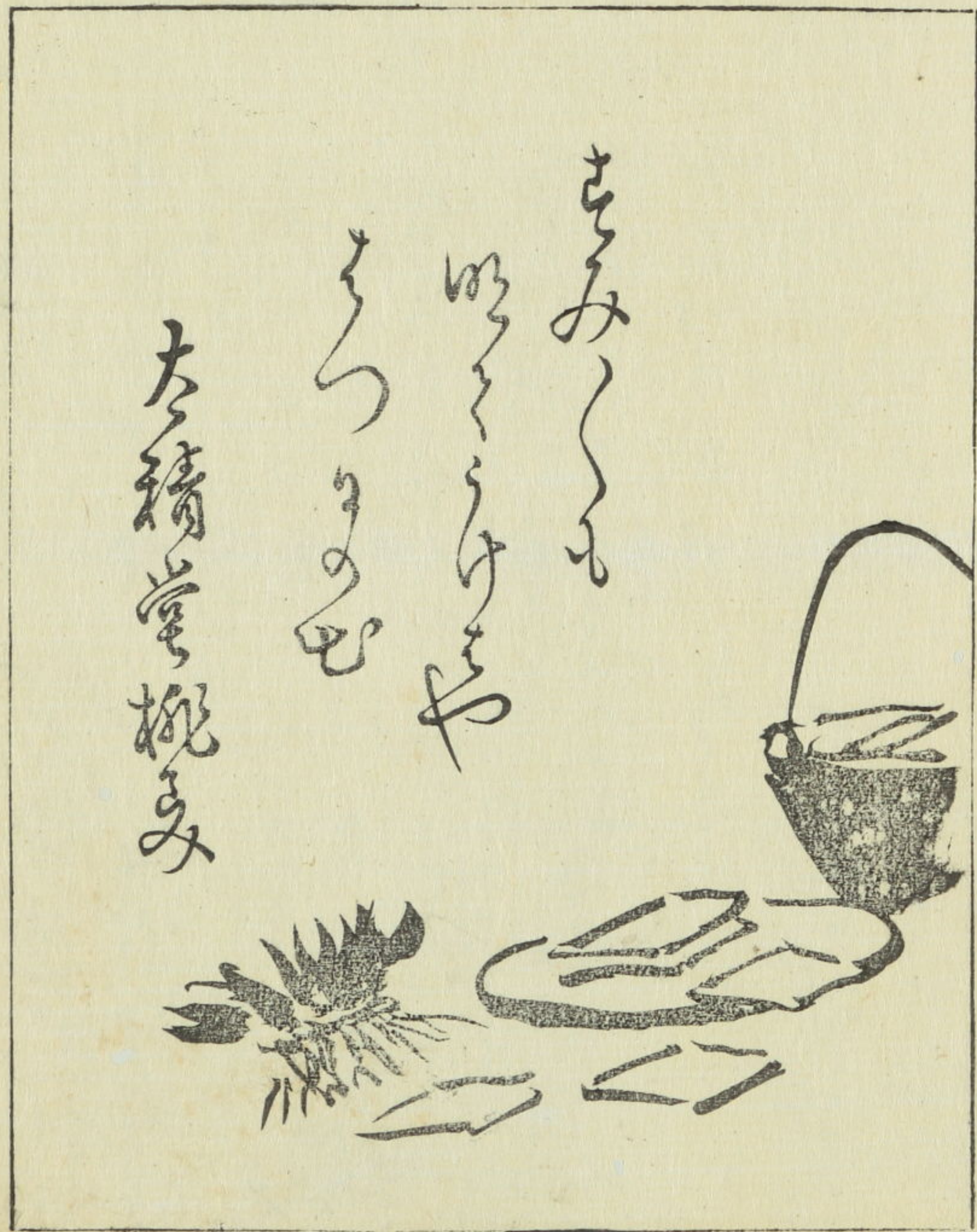
少

伸

可

山

山



起心海くろ
くろくろくろくろ

甲辰 養崎遠

為壽所

志仙

養崎遠
為壽所
志仙
養崎遠
為壽所
志仙

硯水子濁くもる

梅の香

為土印所

養崎遠 為壽所

乃輕のまゝも起る

くろくろくろ

為壽所

養崎遠

玉鏡まて洗かこく地也

くろくろくろ

甲辰 養崎遠

くろくろくろくろ

純く

くろくろくろくろ

全養崎

踏花

くろくろくろくろ

くろくろくろ

全少所

くろくろくろ

為甲所

養崎遠





道しけと

居る

ちんちん

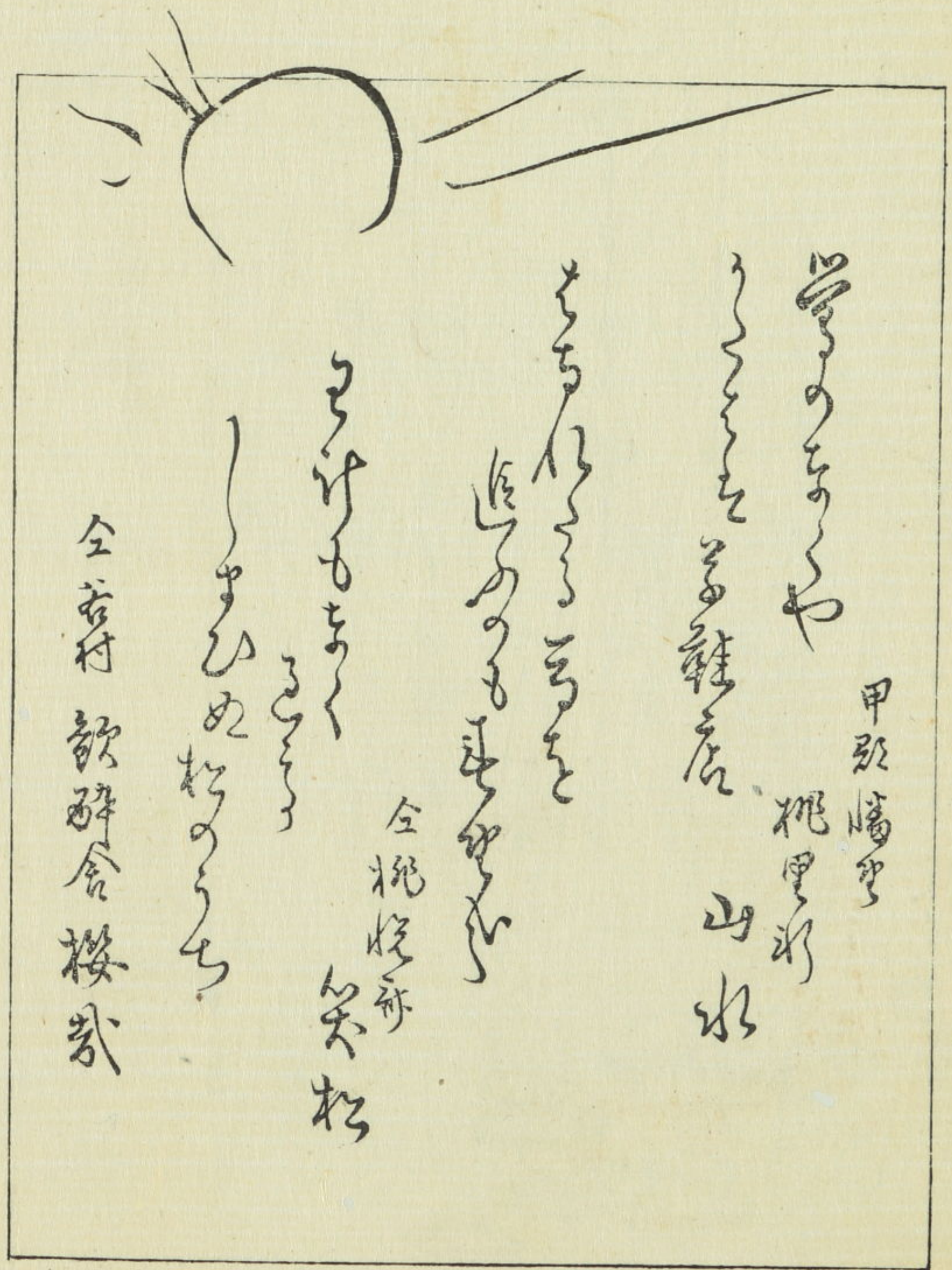
ちんちん

ちんちん

後序

松花亭

其庵



甲辰陽夏

桃里水

山吹

ちんちん

道しけと

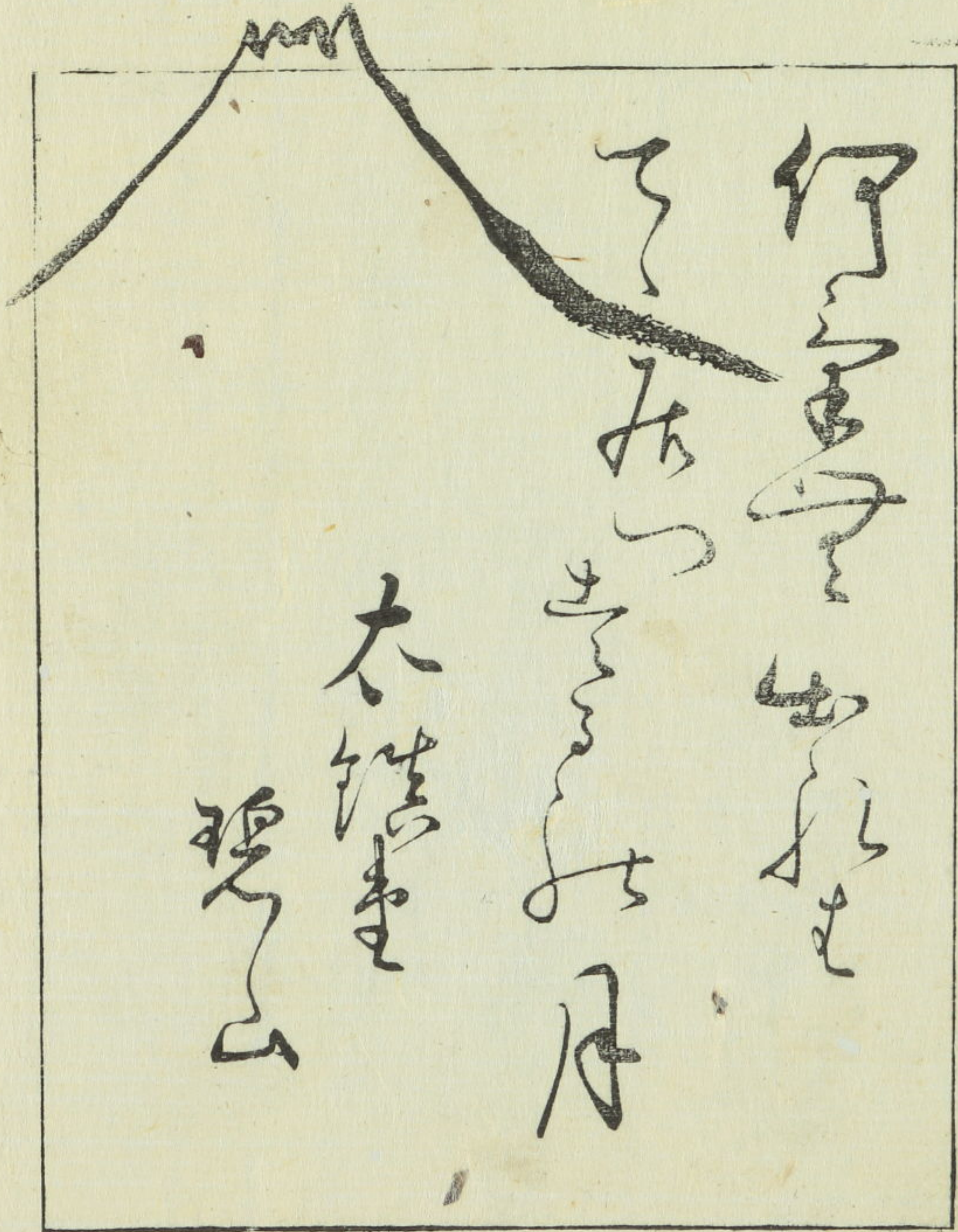
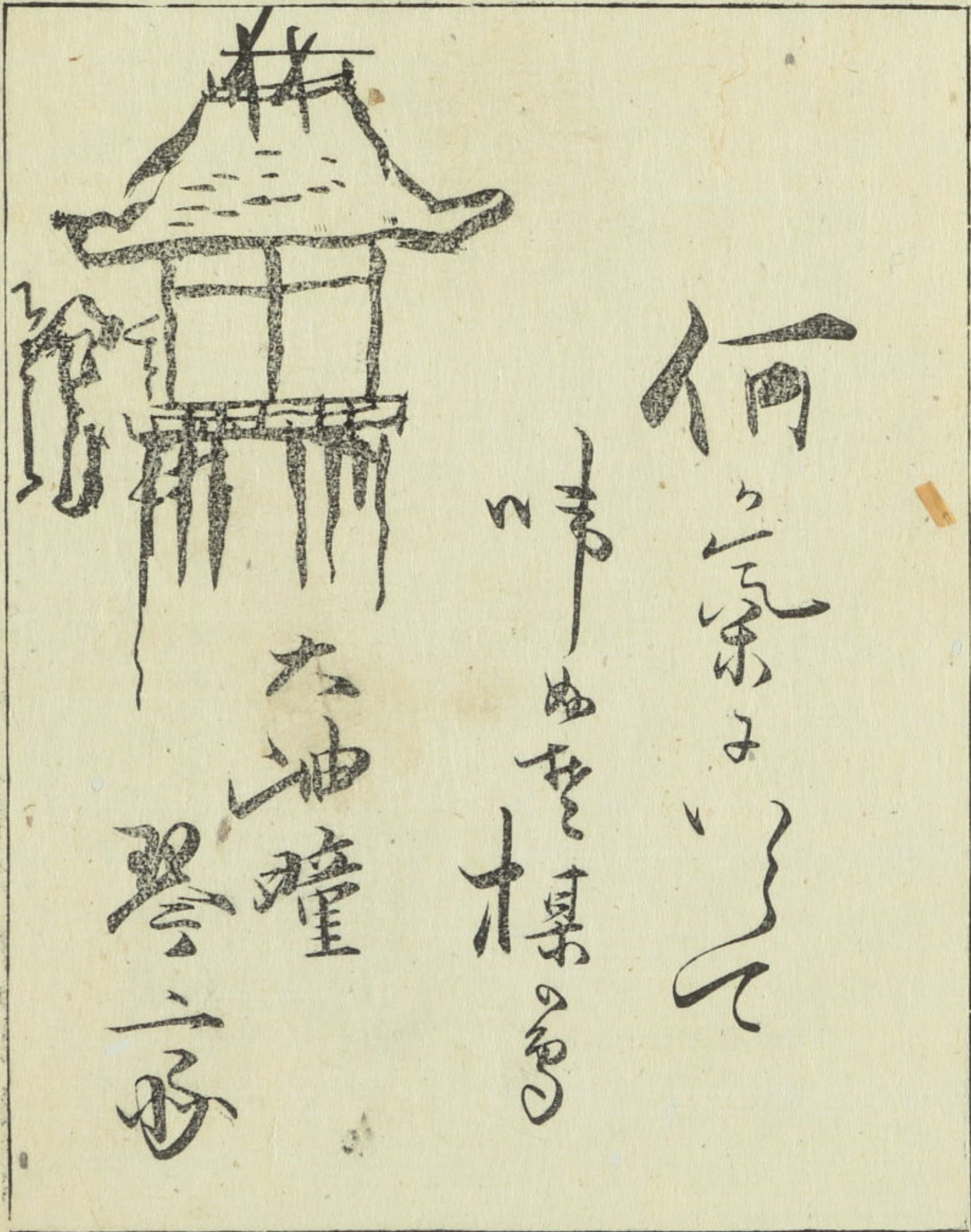
全桃花亭

笑松

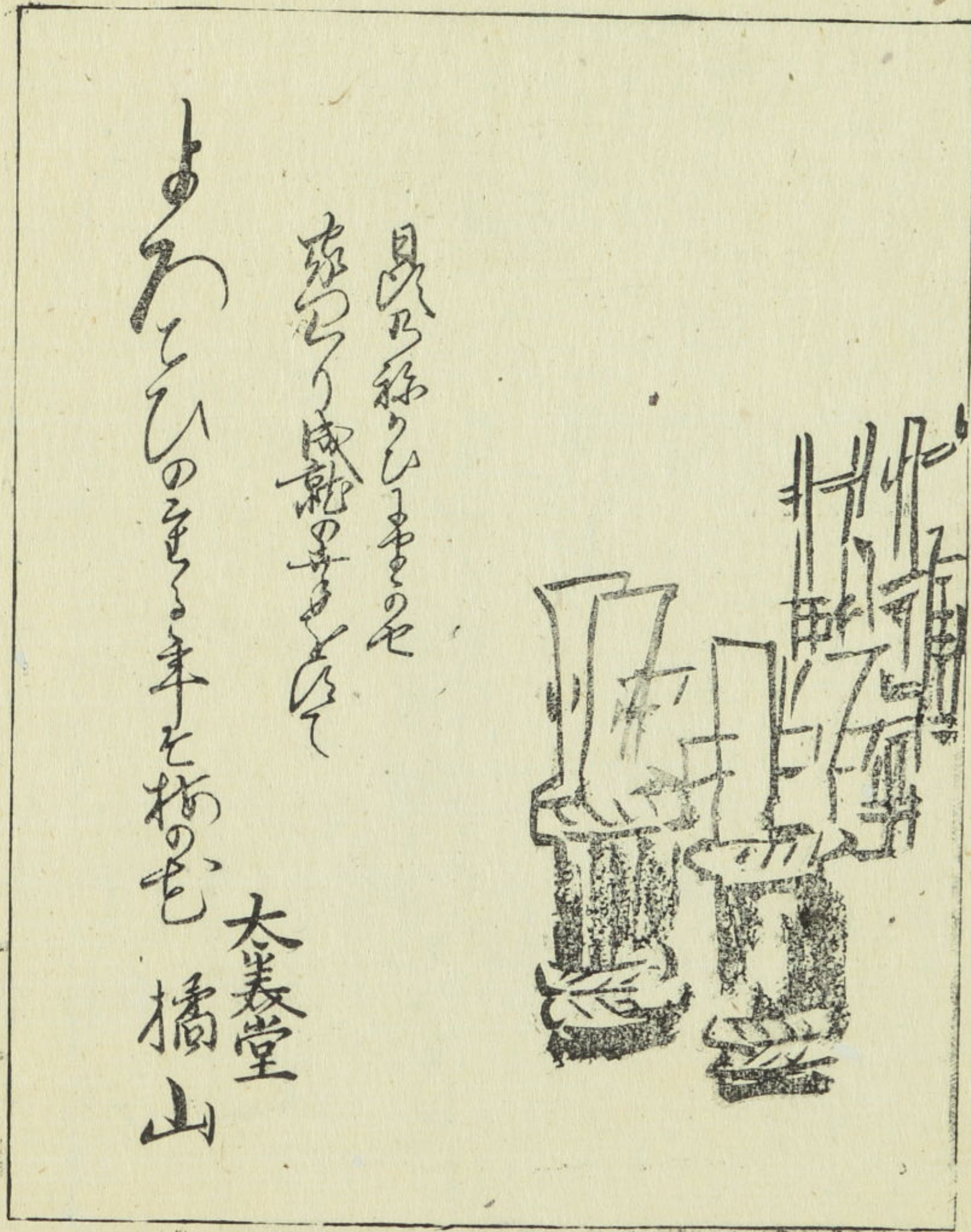
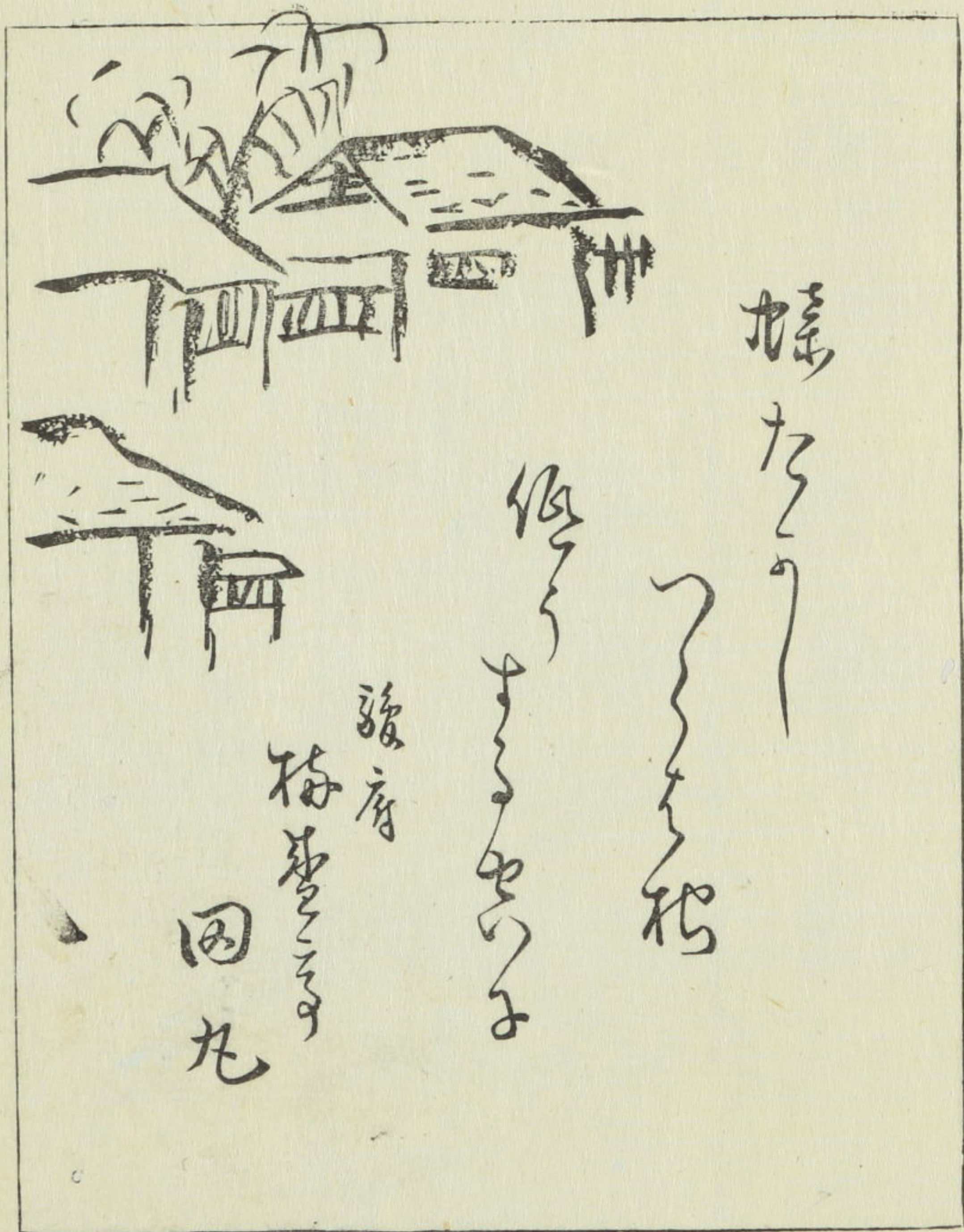
ちんちん

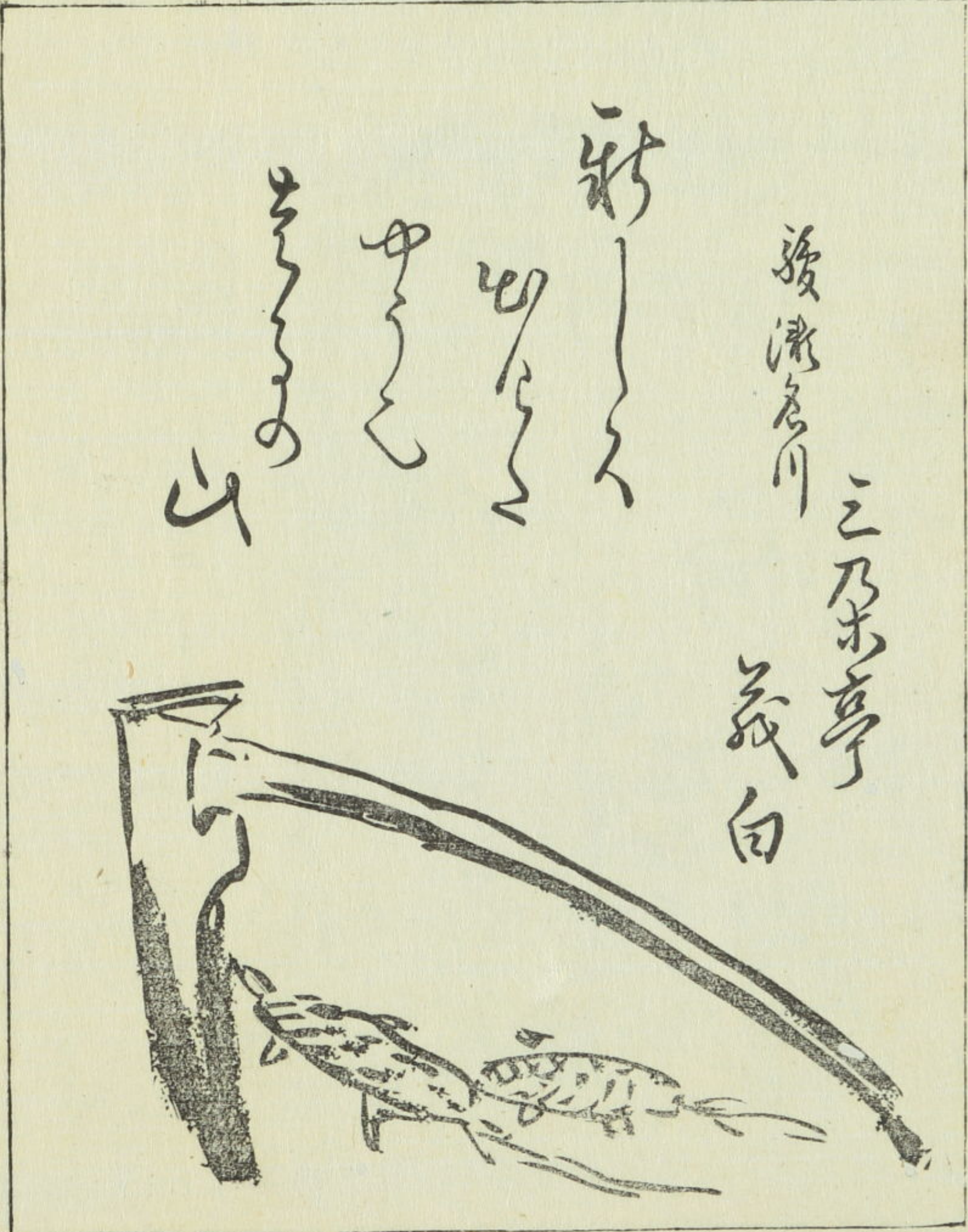
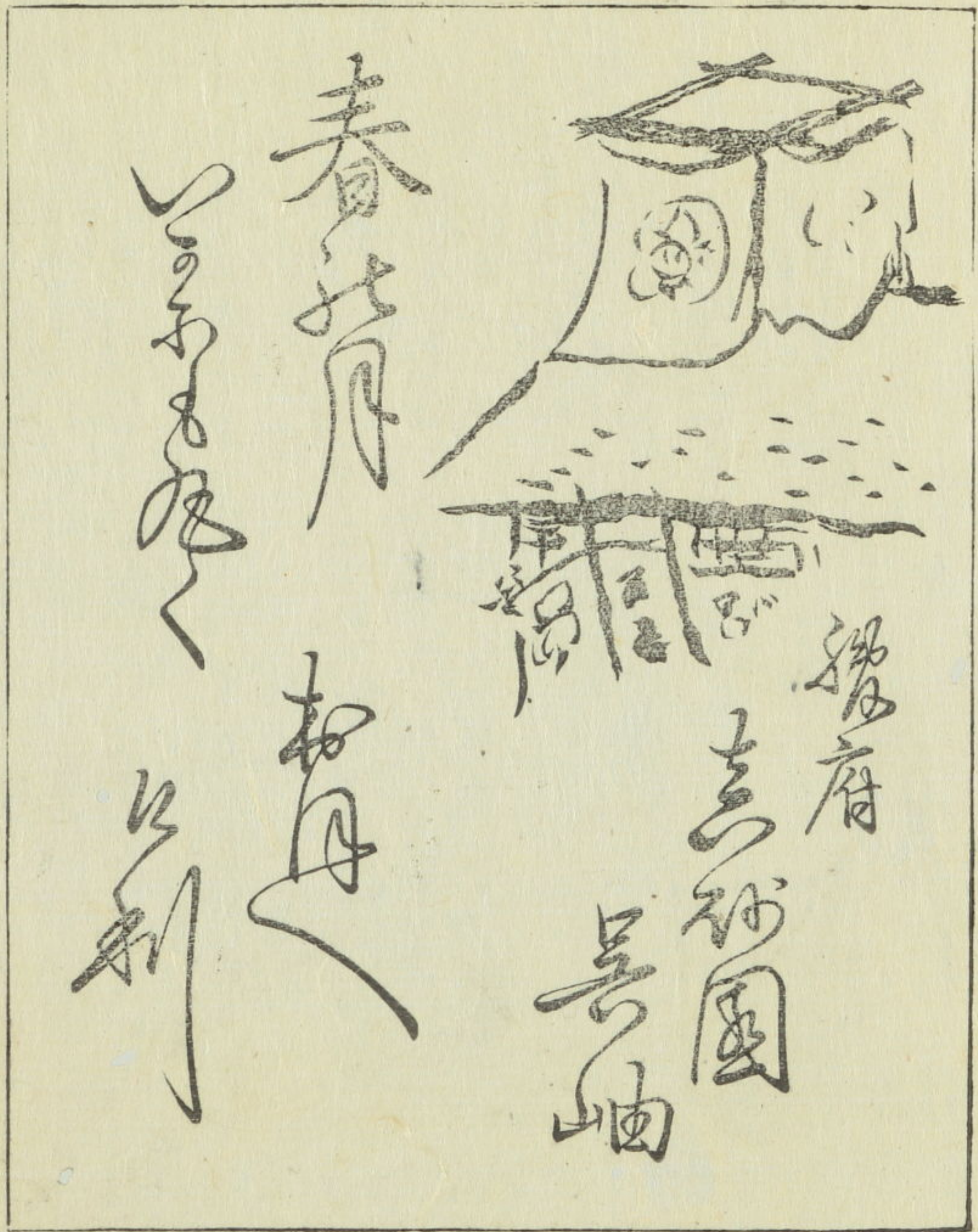
しんちん

全香村 歌辭合 桜歌




二十九




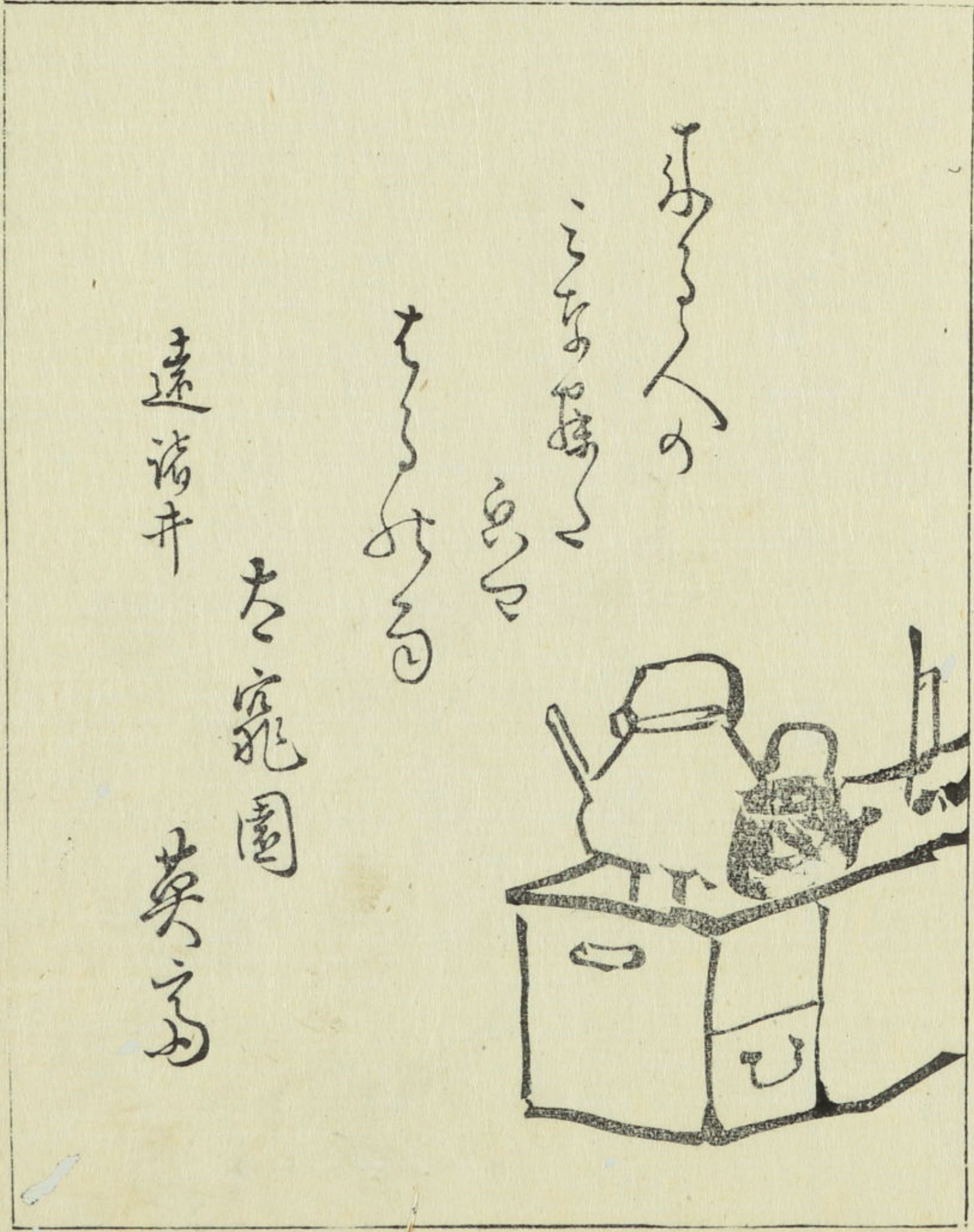


舟をこぐまは 駿河也
 乃こぐまはあつらうり 新風尾
 其あつらうりのてんせ 棹中
 跡をこぐまは 吉甫
 舟をこぐまは 西阿志
 乃こぐまはあつらうり 葦か
 其あつらうりのてんせ
 跡をこぐまは
 舟の
 乃こぐまはあつらうり
 其あつらうりのてんせ
 跡をこぐまは



舟をこぐまは
 乃こぐまはあつらうり
 其あつらうりのてんせ
 跡をこぐまは
 舟の
 乃こぐまはあつらうり
 其あつらうりのてんせ
 跡をこぐまは





あつた

あつた

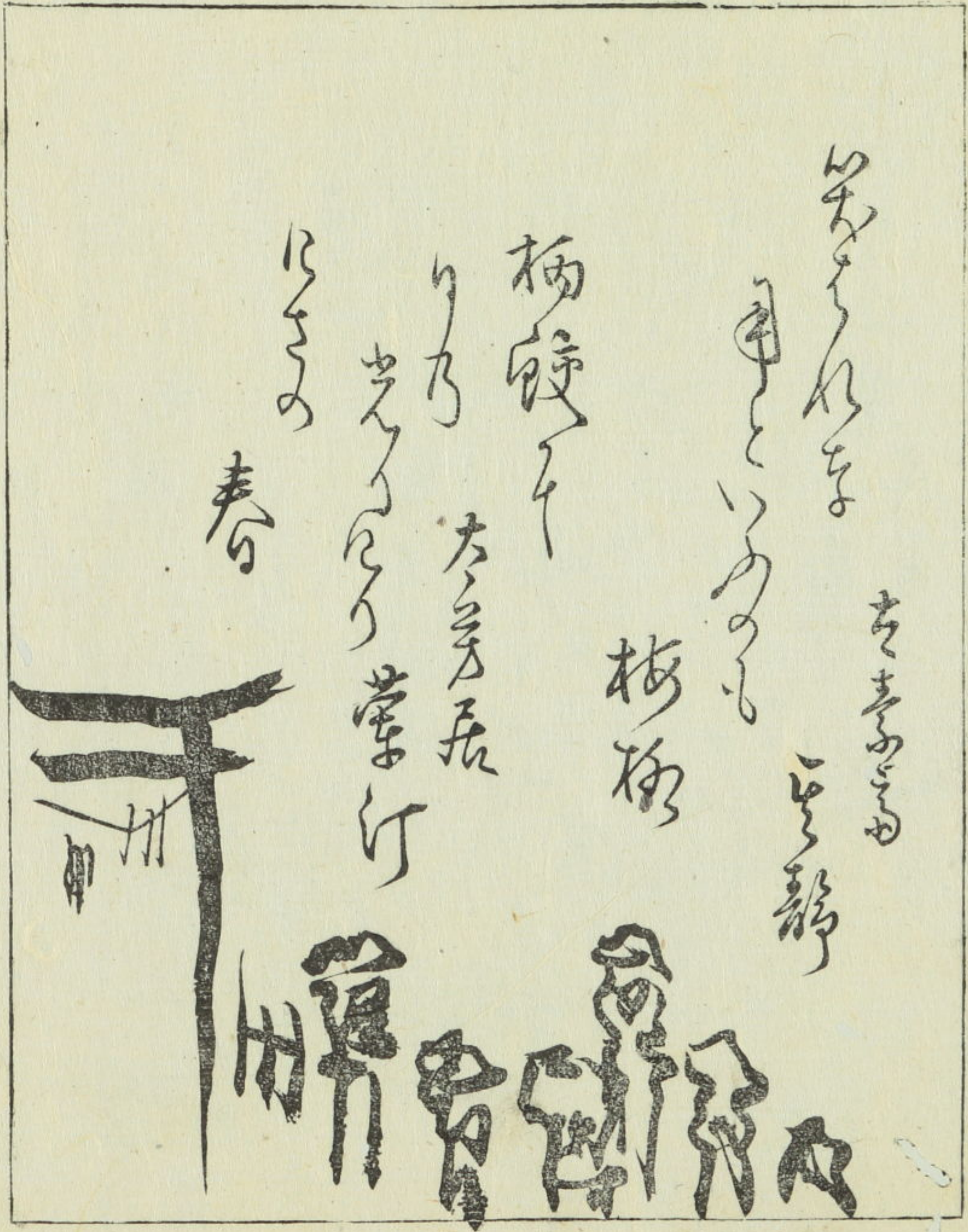
あつた

あつた

大籠園

遠海井

英之為



あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

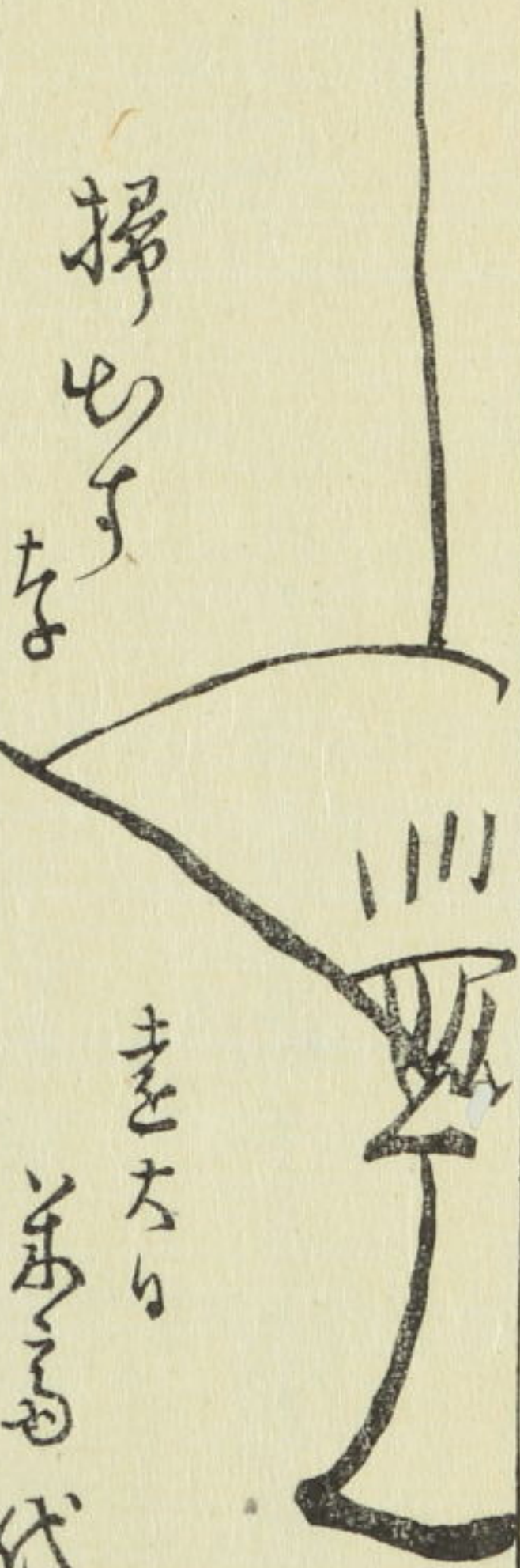
あつた

あつた

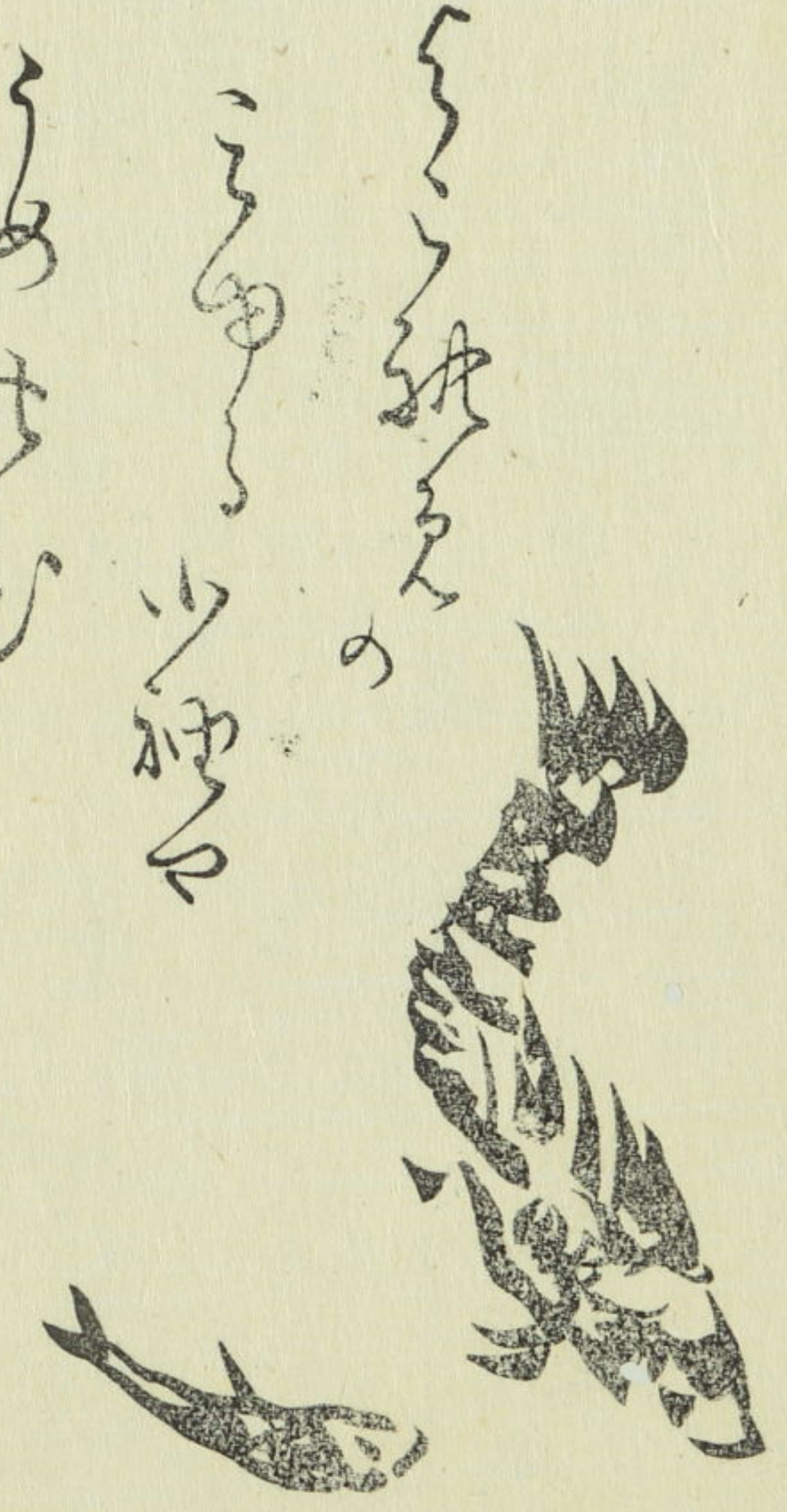
あつた

あつた

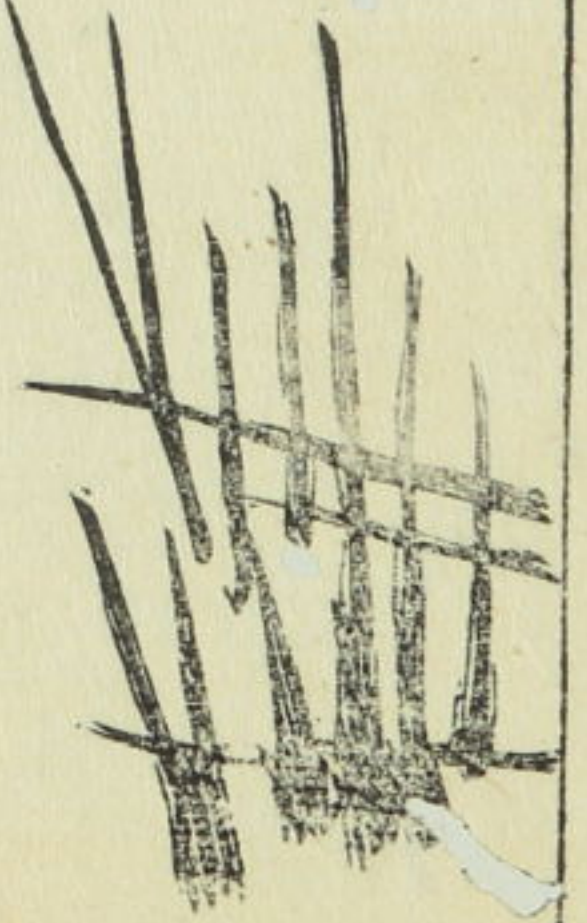
掃ゆす
 走大り
 糸のやま子
 全下吉田
 除くく
 梅見
 引みち
 全
 得新
 糸くく



左淑堂
 孤梅



世々の事の時々の如く
 多きを修めしむるを
 主父書経二代白布の如く
 あらゆる事を知るは
 臨るを名とす一星を厚院
 春の清口法山人の如く
 ことごとく及びありて
 此の如く修めしむる
 加へてしむる



三十五

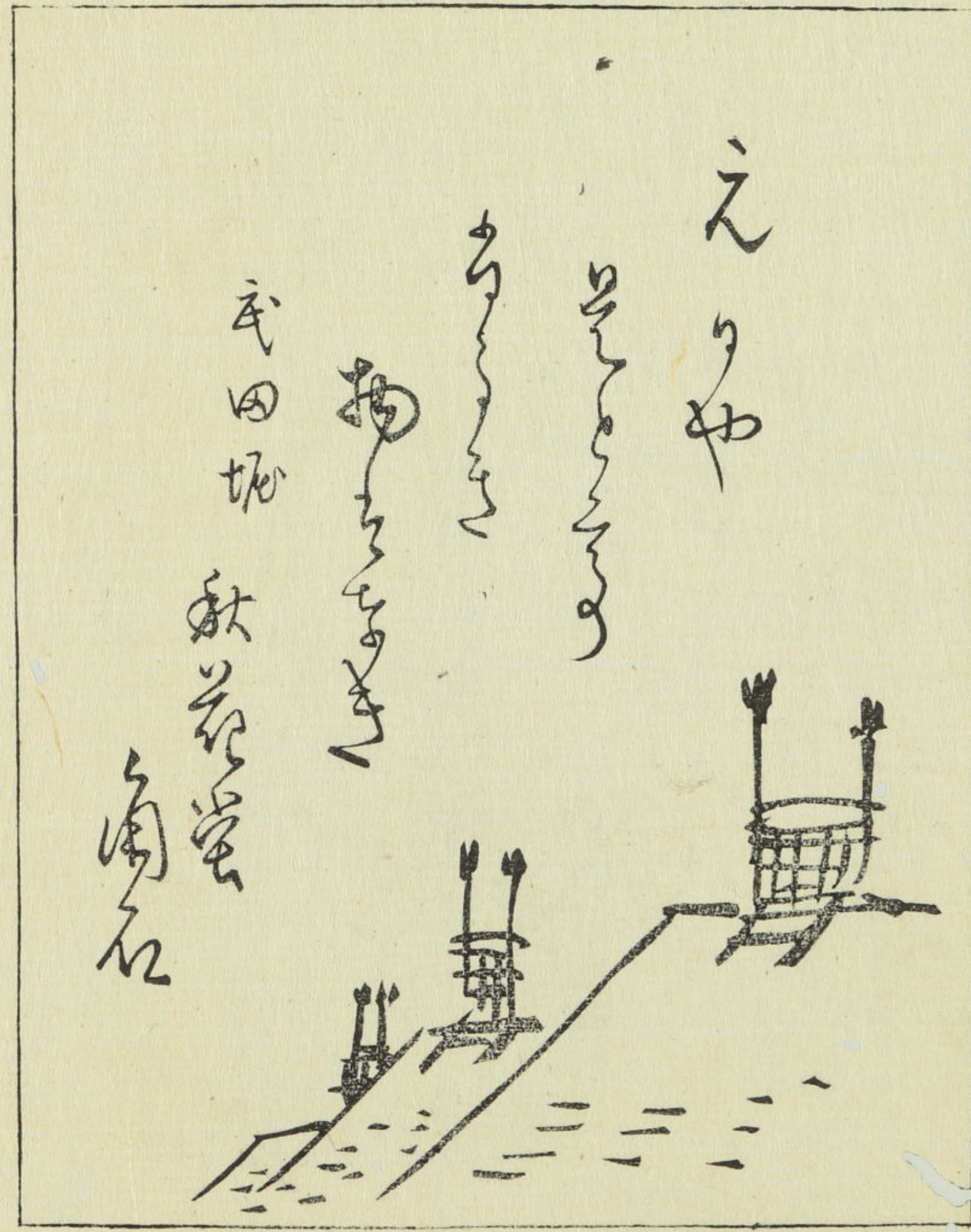
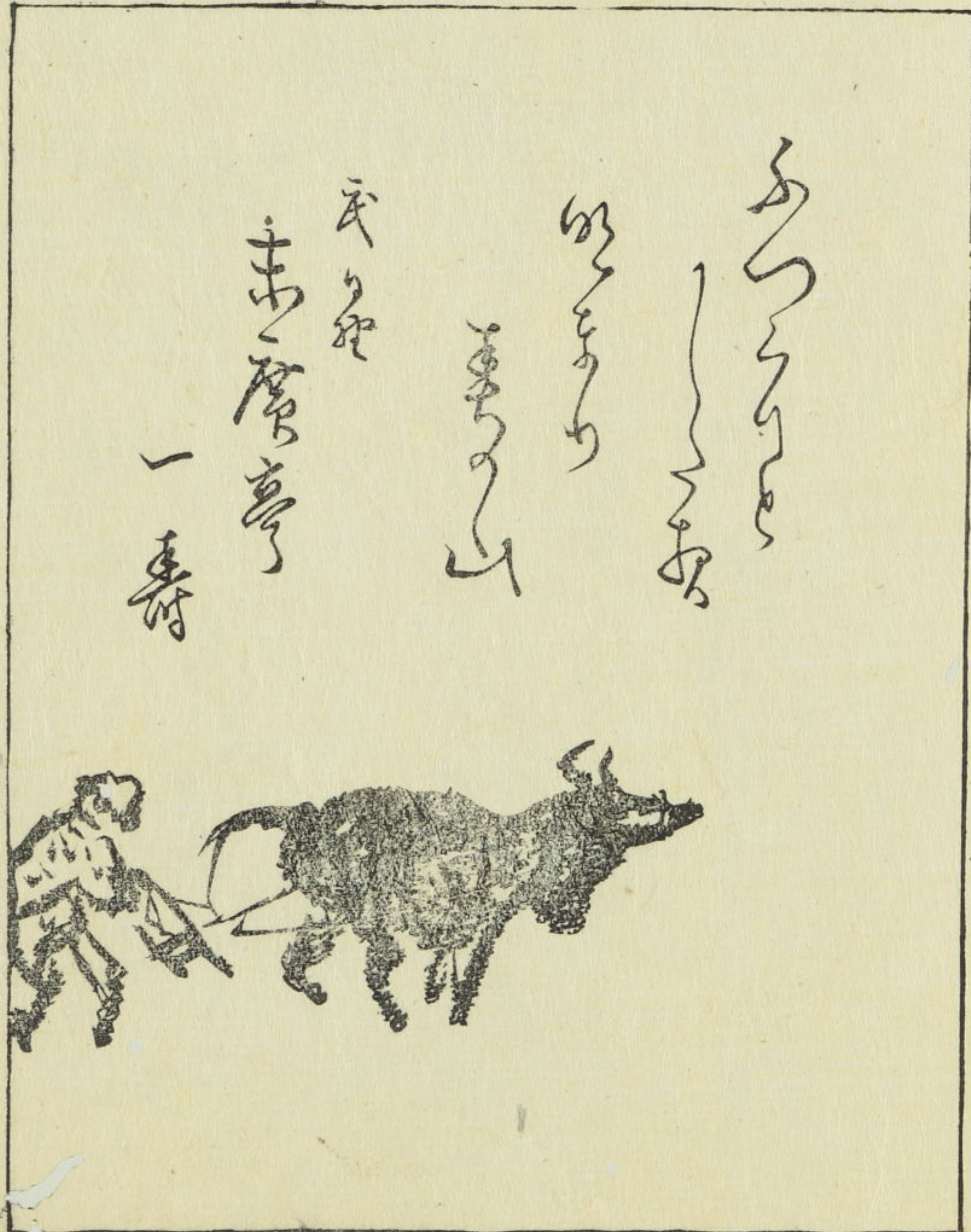
白梅
 江月庵書
 一編入名を修めしむる

世々の事の時々の如く
 多きを修めしむるを
 主父書経二代白布の如く
 あらゆる事を知るは
 臨るを名とす一星を厚院
 春の清口法山人の如く
 ことごとく及びありて
 此の如く修めしむる
 加へてしむる




武田
 一編入名
 天竺堂月

三十六



ア
リ



と毛 鯉川
古 澄 香

あまのこころ
あまのこころ
あまのこころ
あまのこころ

全 合 福 川 所
世 常 所 終 元

あまのこころ
あまのこころ
あまのこころ



と 伸 本
雲 詠 亭

あまのこころ
あまのこころ
あまのこころ

遊 里

三十七

ナ
シ

上毛七五丹 真柳合

一夢

全長陸 七五二陸

蘇門里 雷峯

峯丸

ちりめいおの

張き丸

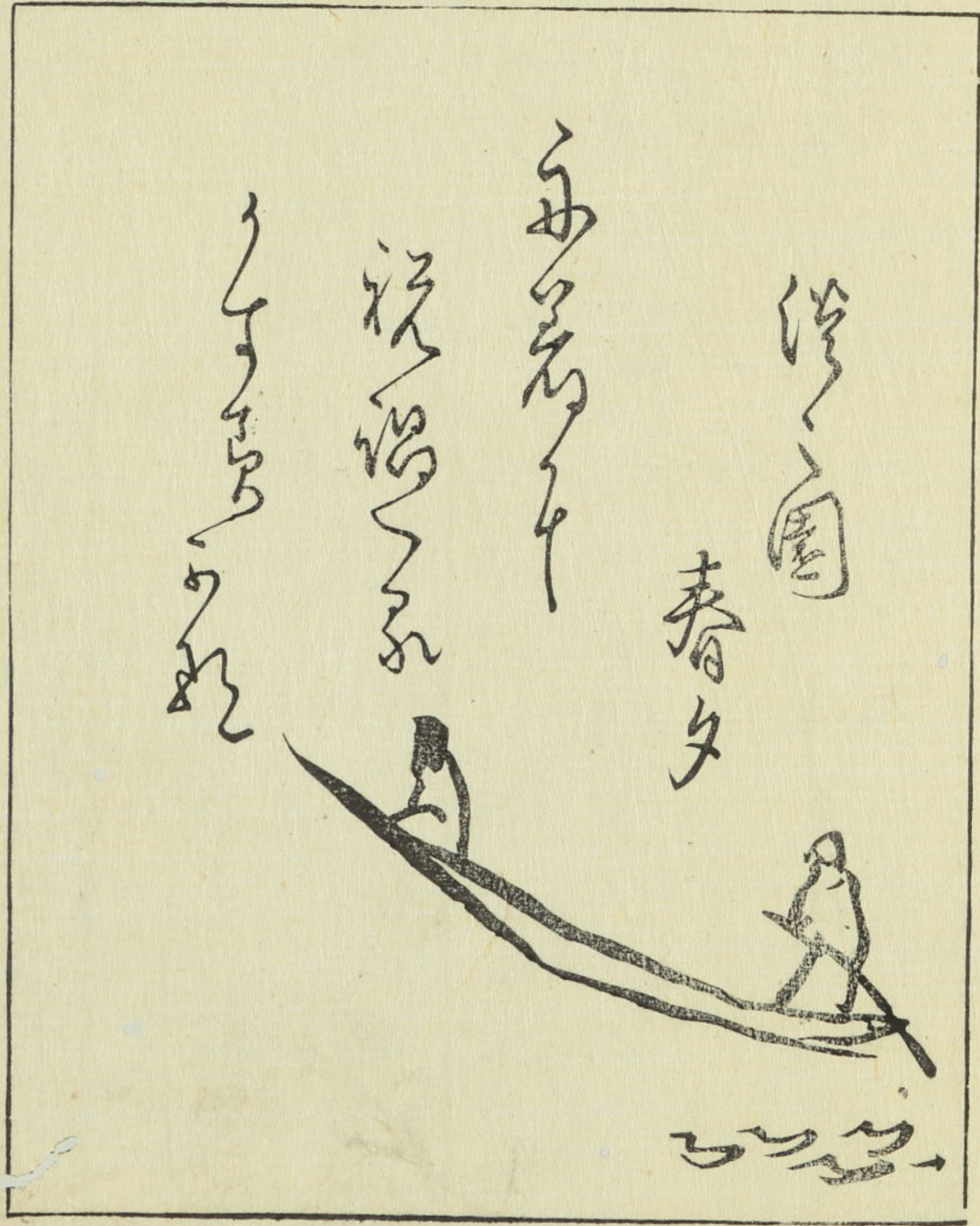
長崎

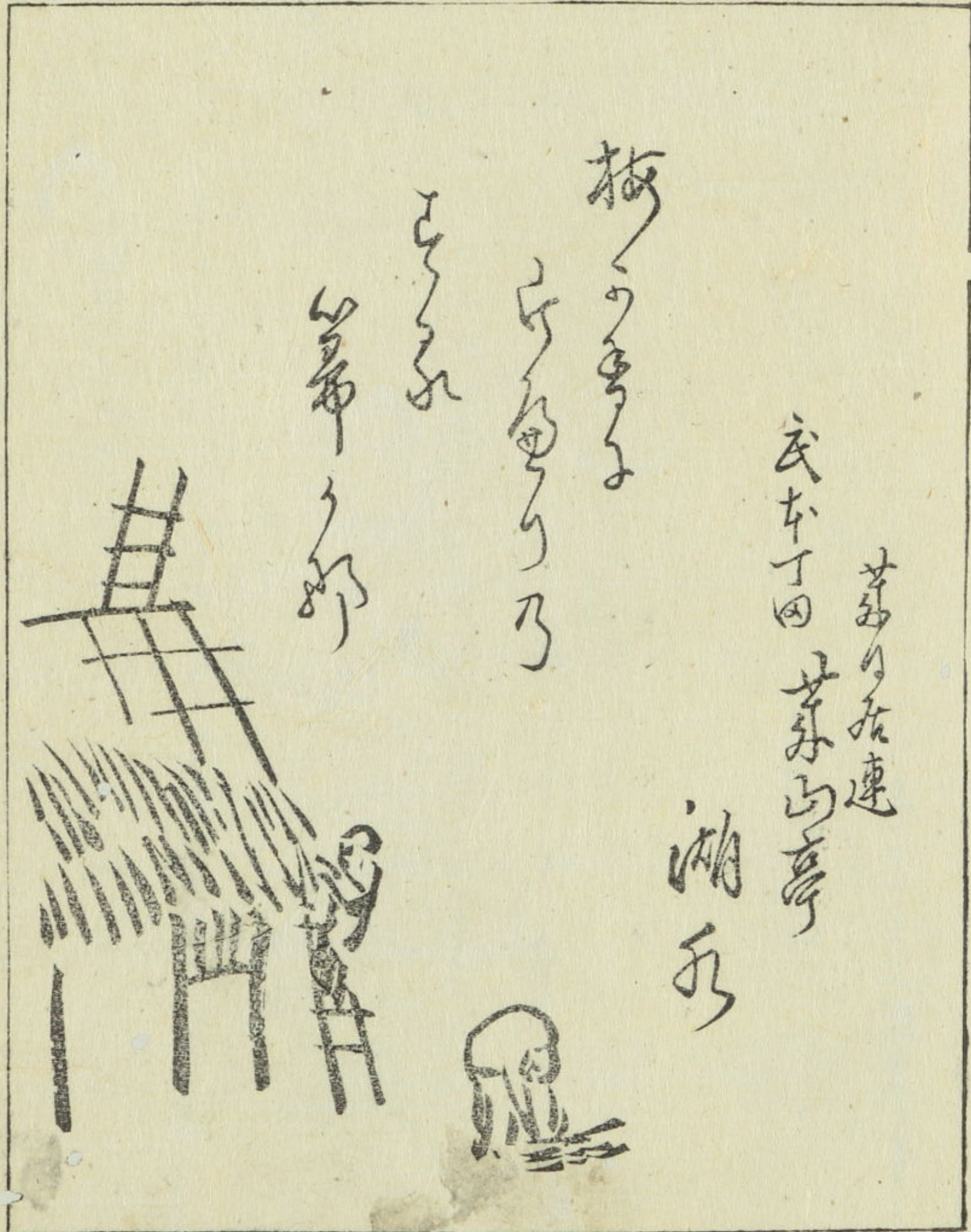
みいの
心もきまらぬ
代め丸

福寿丸

雲亭

文川紙 峯丸





若の右連
 衣本丁田 芥山亭

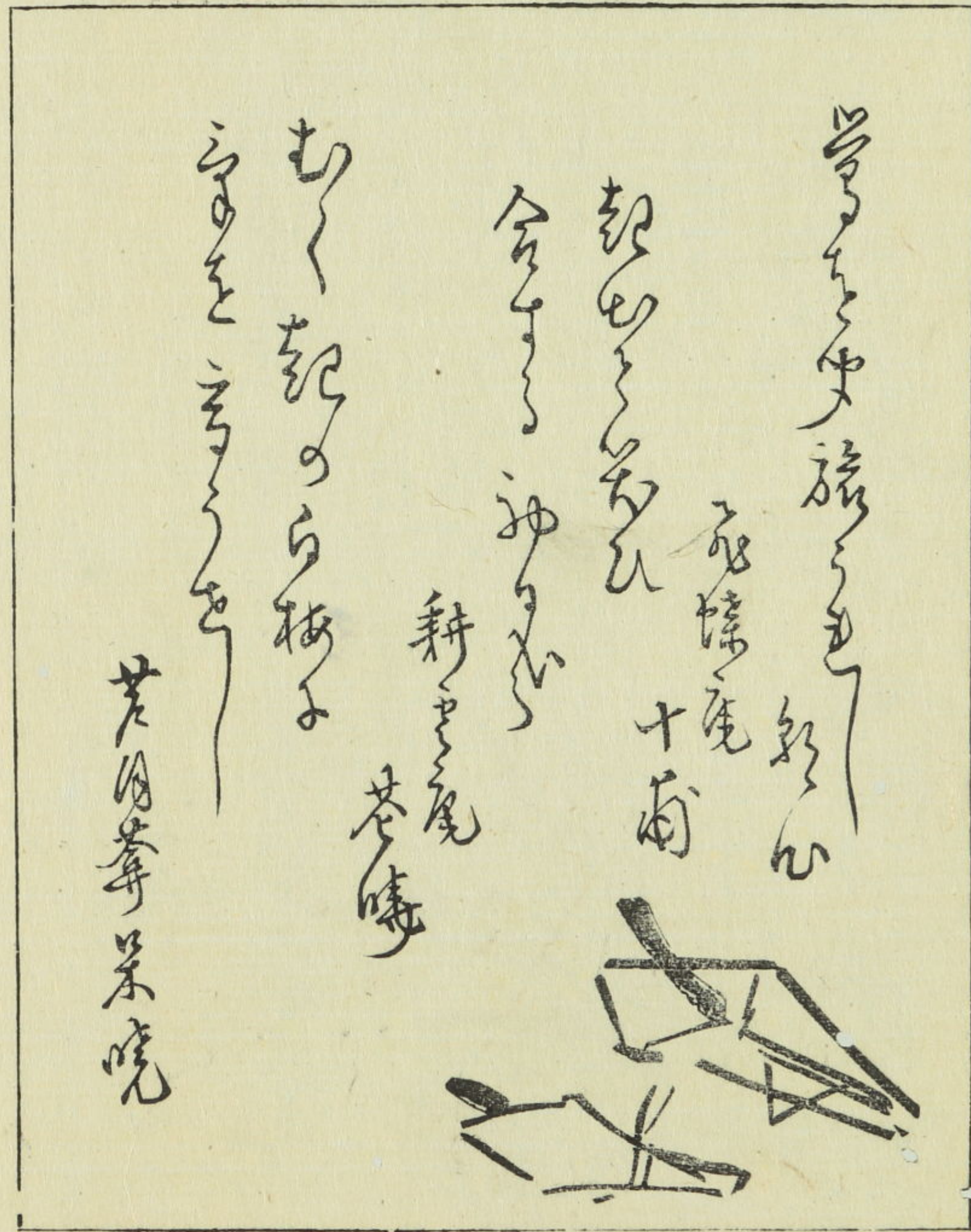
湖石

梅のうきよ

はるのり乃

とらふ

山部



若の右連
 衣本丁田 芥山亭

若の右連

十甫

若の右連
 衣本丁田 芥山亭

耕き尾

若の右連

若の右連
 衣本丁田 芥山亭

若の右連

うららかにさしゆく
戸のまへ
武田下田
露女

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

美多のさくら  
ゆめゆめあめ

甘茶の  
湖秀



我々の  
武田下田  
思針

~~~~~

のまへや城守の

あふ人
甘茶の

新~~~~~

~~~~~

~~~~~

甘茶の
湖秀



~~~~~





芳文の

~~~~~けち

み~~~~那

玄合井 同連

~~~~~

~~~~~

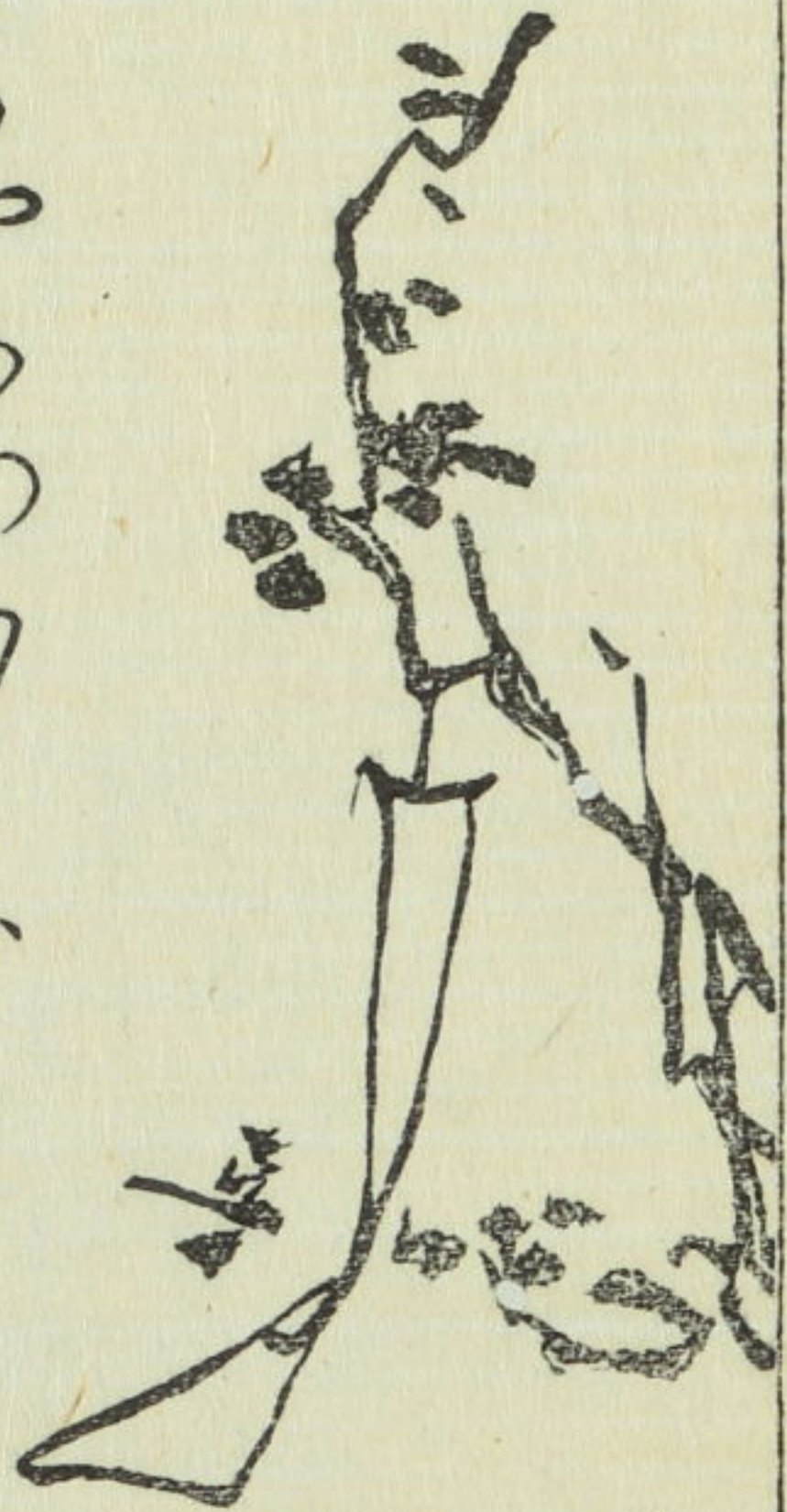
~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~



~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~




昔よりわらわりの志あり
たろけうま

と毛玉草 壺郭檜 正和

之新の 全島園

村の梅の 月時草 寛元殿

あひひか

白しも旗

いづれも来る心

全 風舟慈柳

和歌集

ア ア ア
リ リ リ

白梅と

まのりり

古い

厚紙

あこ

と毛 西岸連

壺郭檜

正和

昔よりわらわりの志あり

たろけうま

壺郭檜

正和

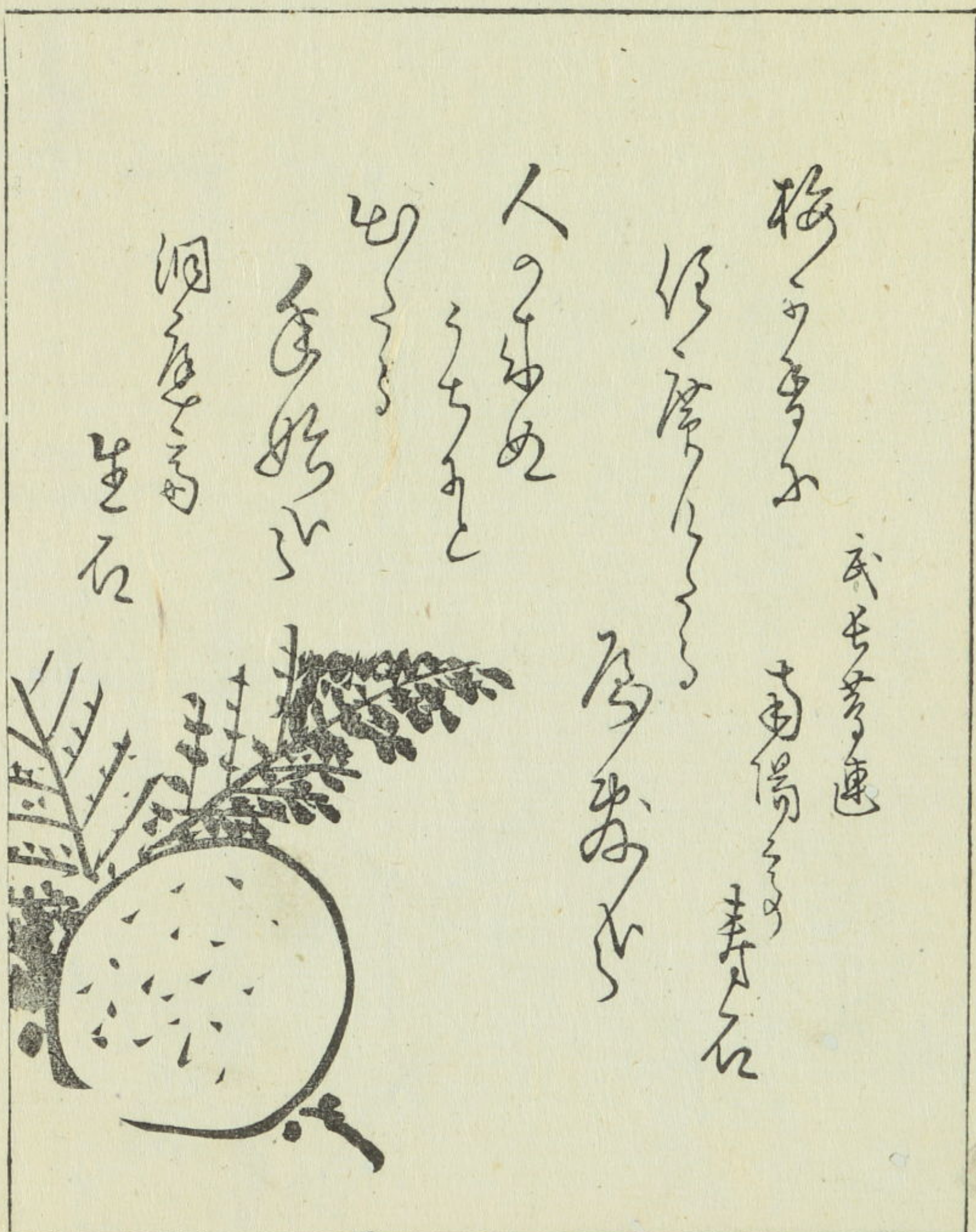
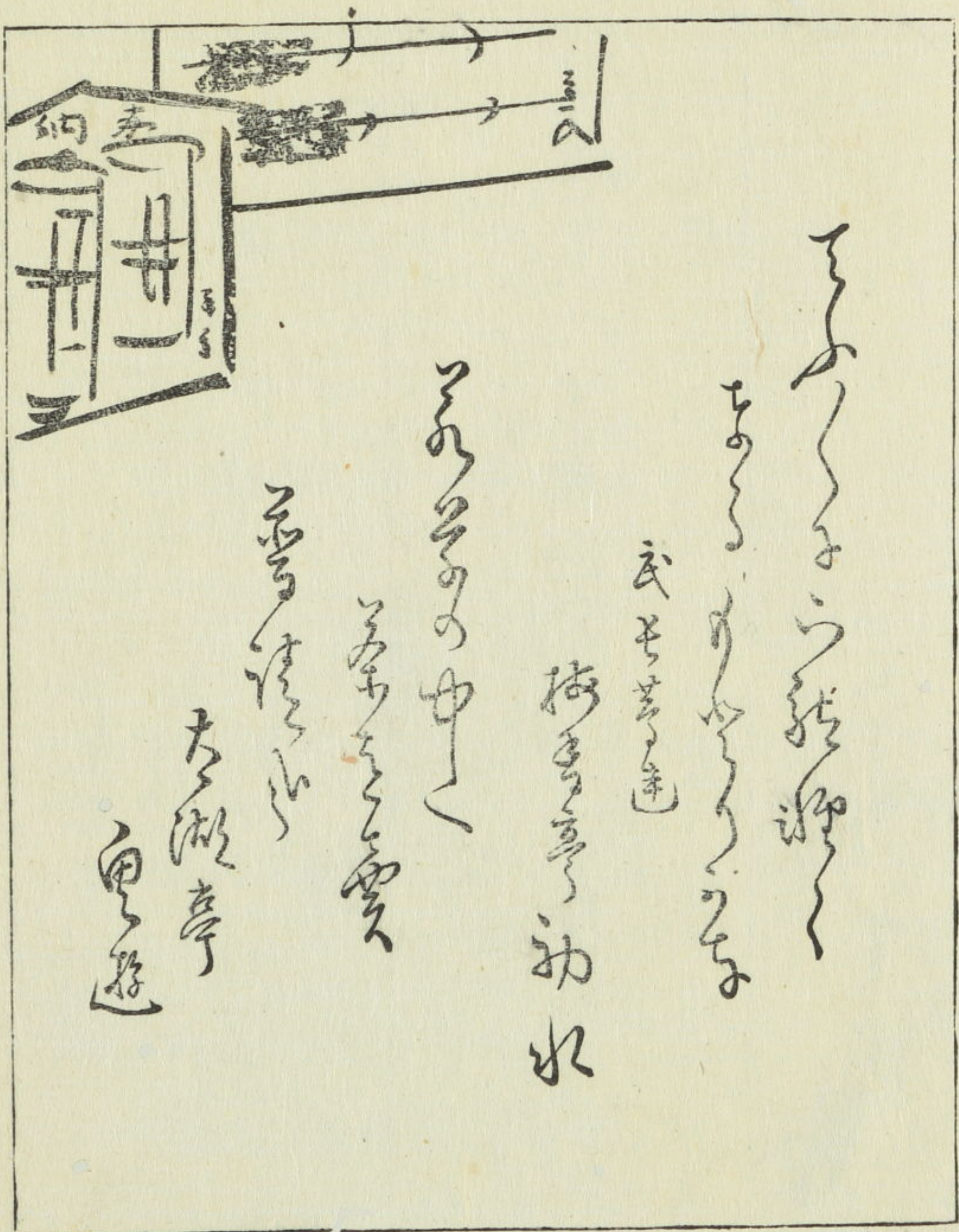
白しも旗

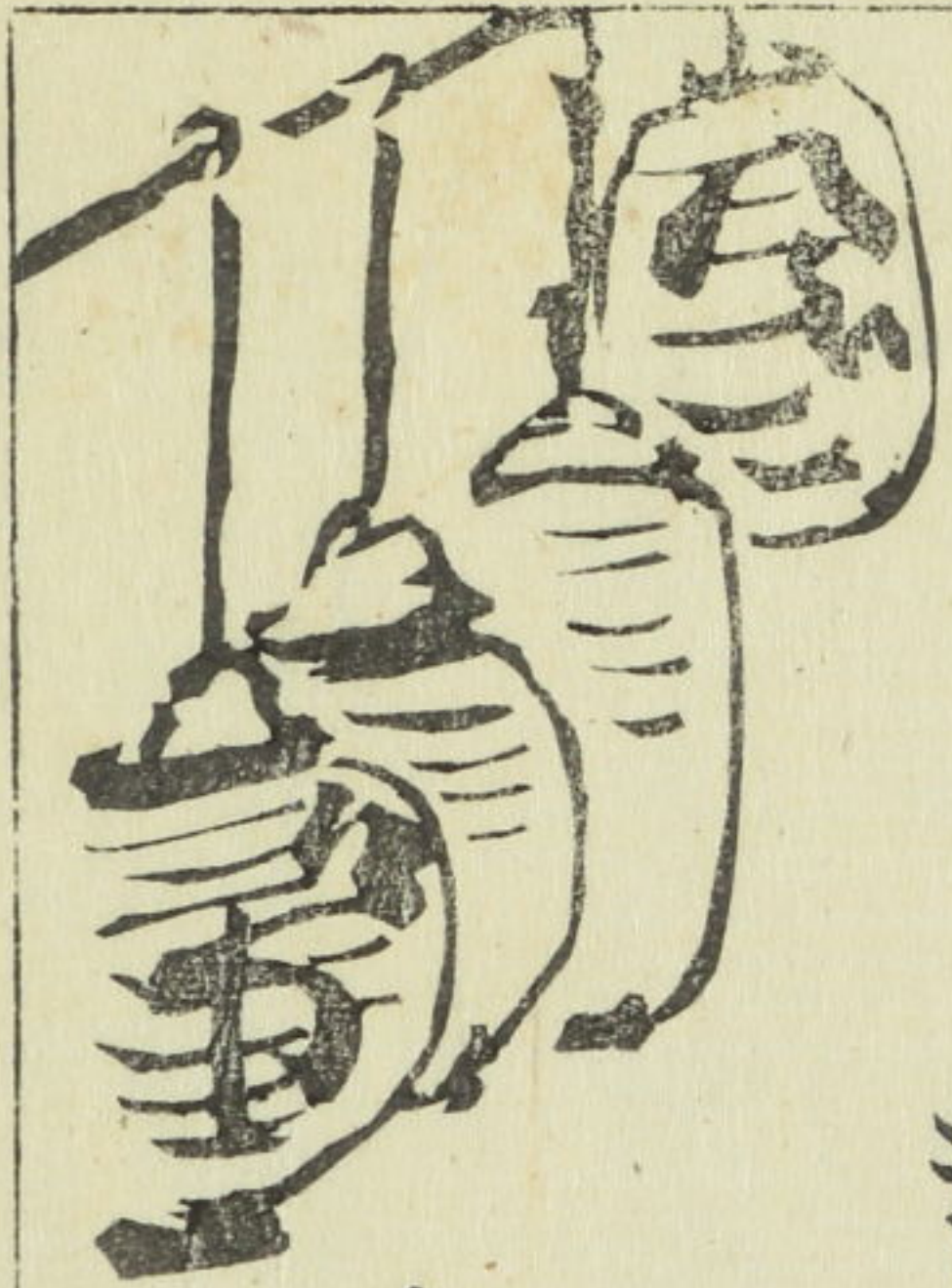
いづれも来る心

全 風舟慈柳



和歌集





あはれいふこと
あはれいふこと

あはれいふこと

あはれいふこと

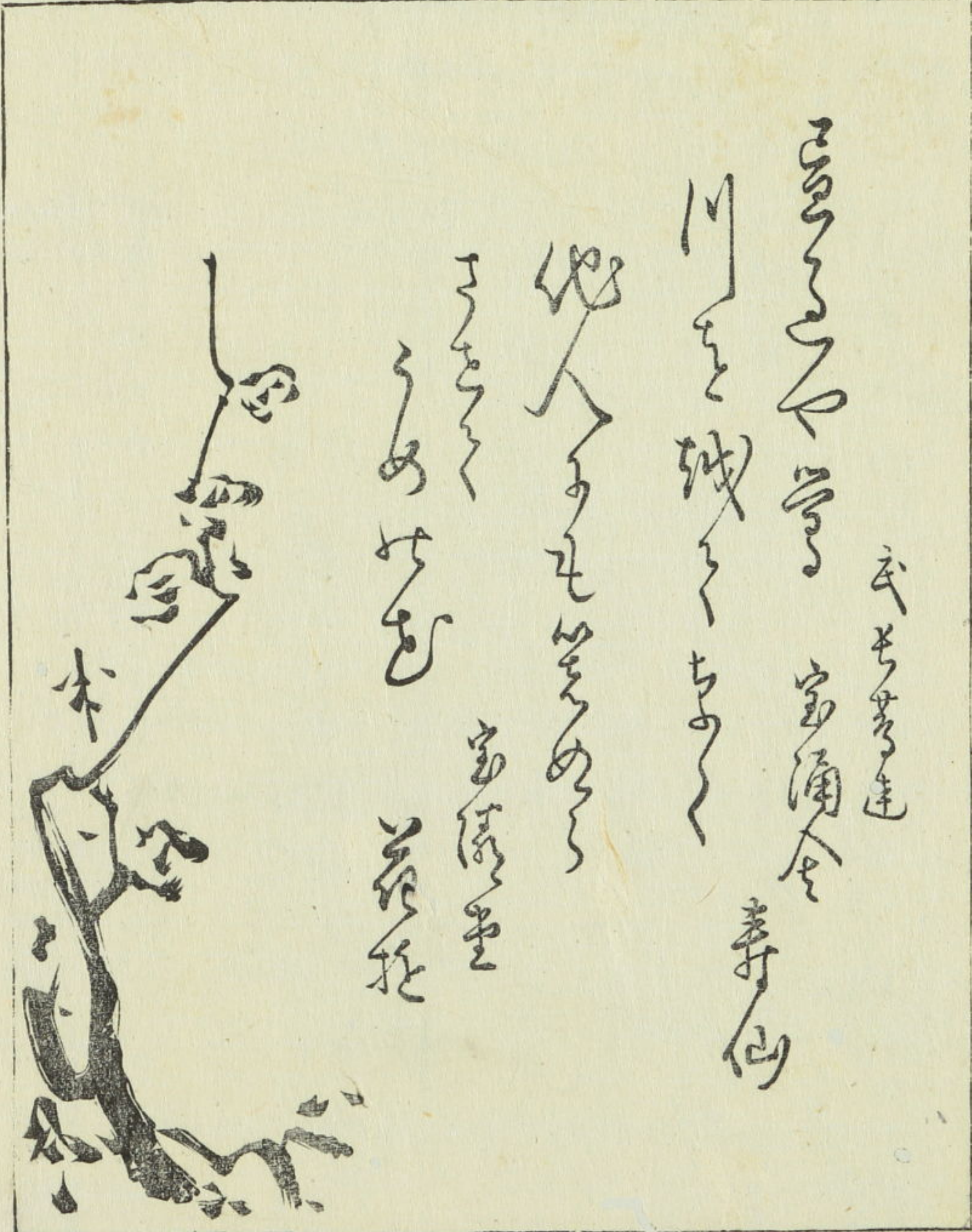
あはれいふこと

あはれいふこと

あはれいふこと

あはれいふこと

あはれいふこと



あはれいふこと

あはれいふこと

あはれいふこと

あはれいふこと

あはれいふこと

あはれいふこと

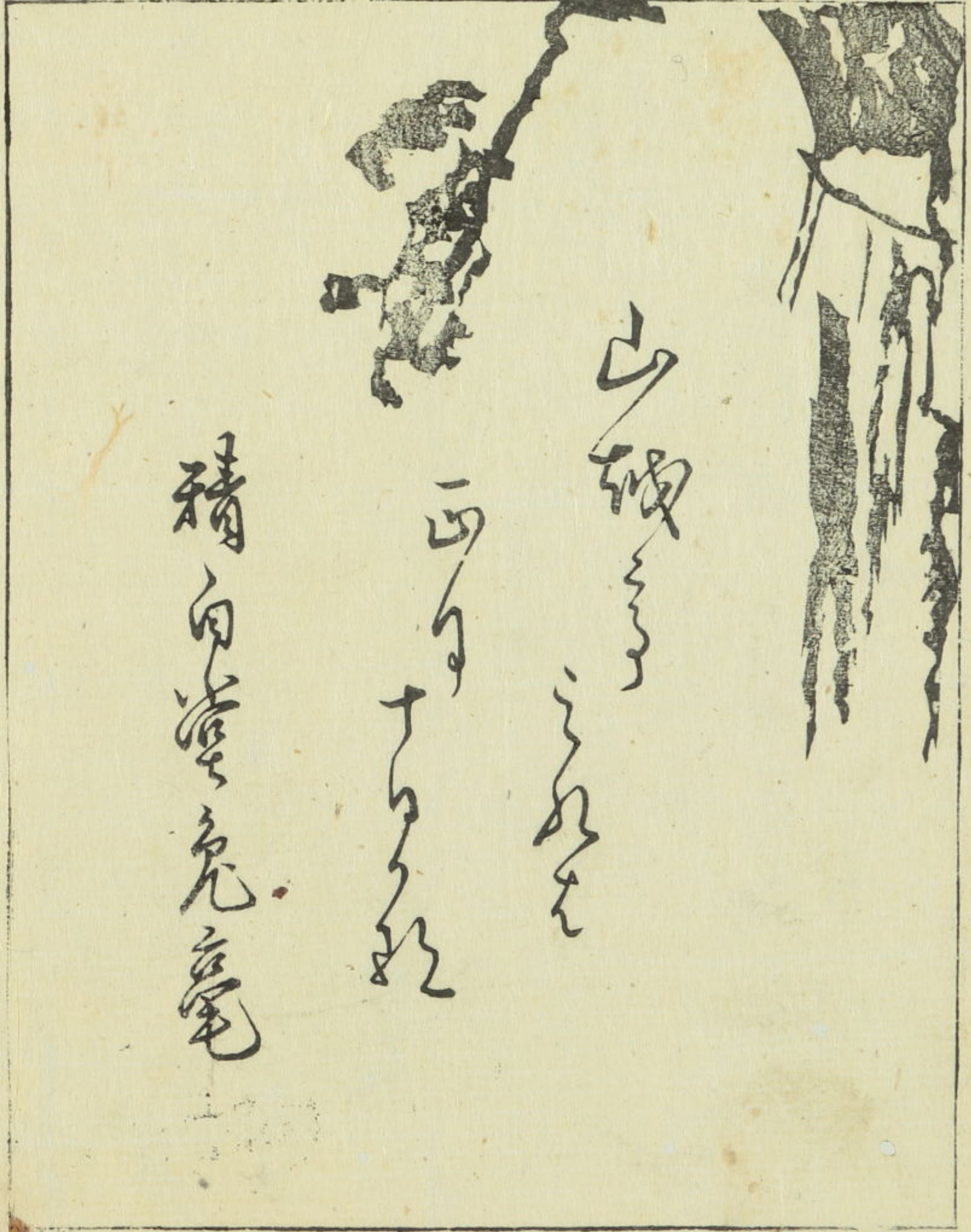
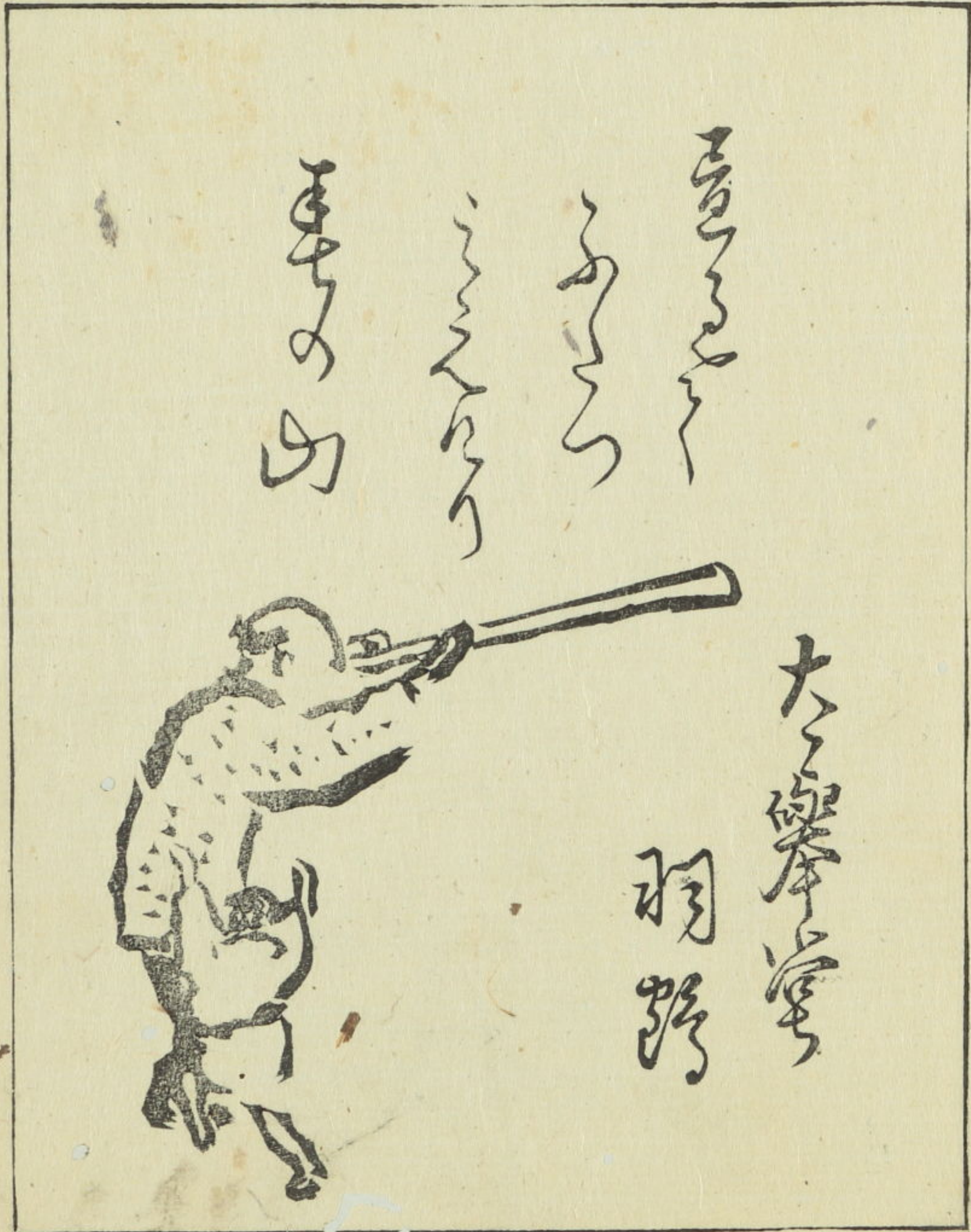
あはれいふこと

あはれいふこと

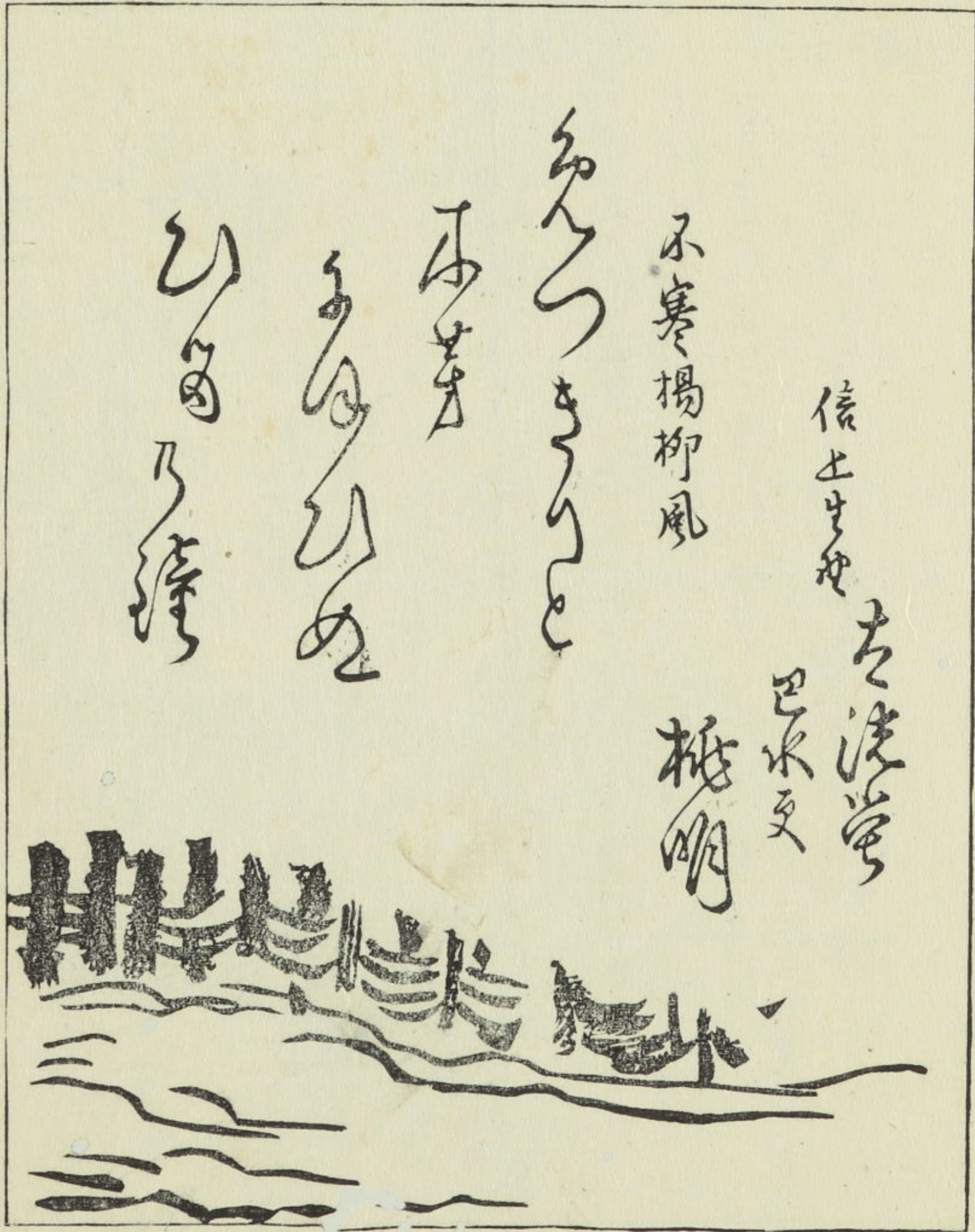
あはれいふこと

あはれいふこと

あはれいふこと



二十九年



信濃決連

春分如

えりの

ふしのささ

いささらさ



打ちくゆりそとけ

現う家

花毛

山々のまをささくゆ

ぬくくささる

桜女

駿吉川
柳茂

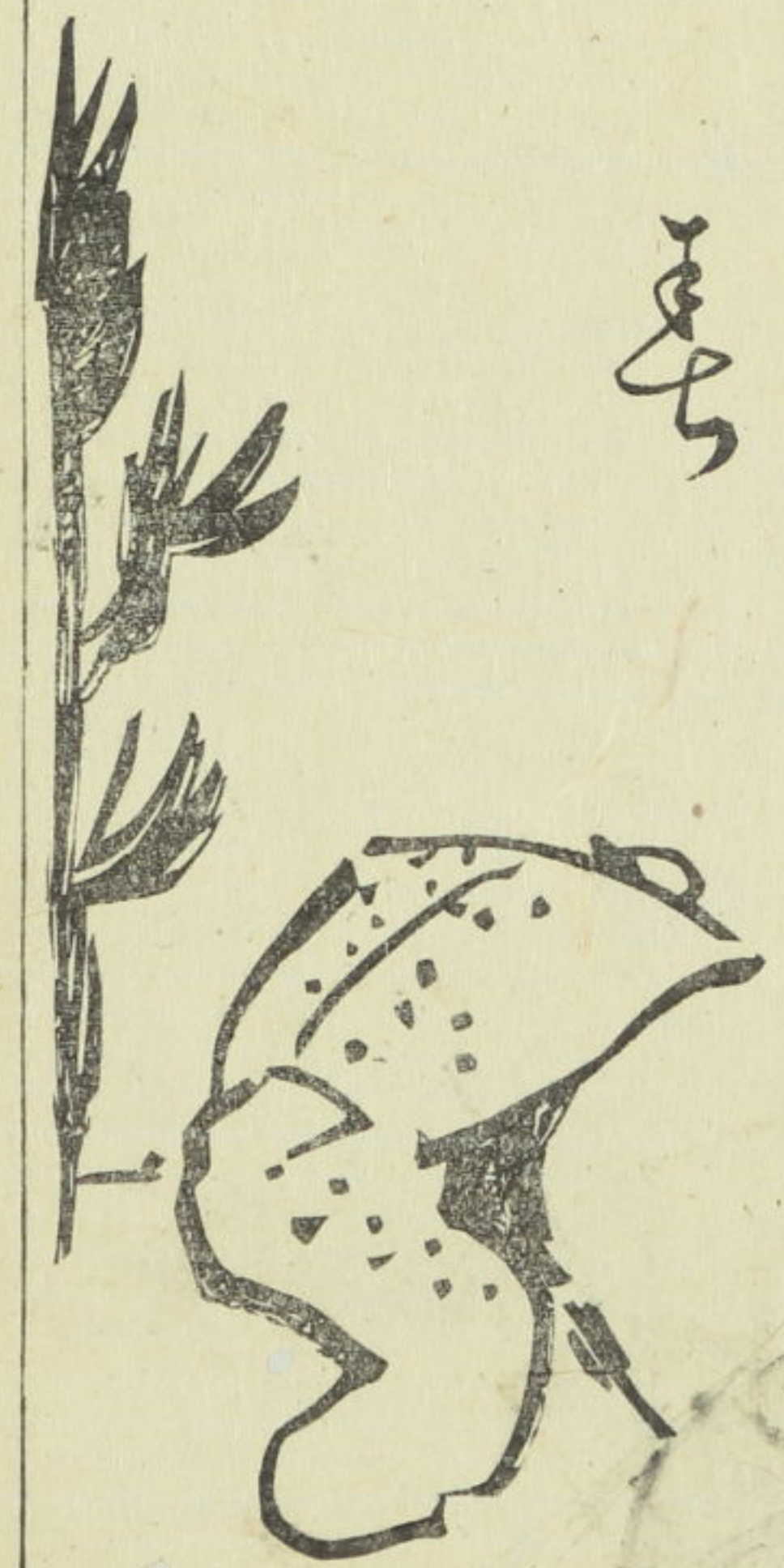
あさき

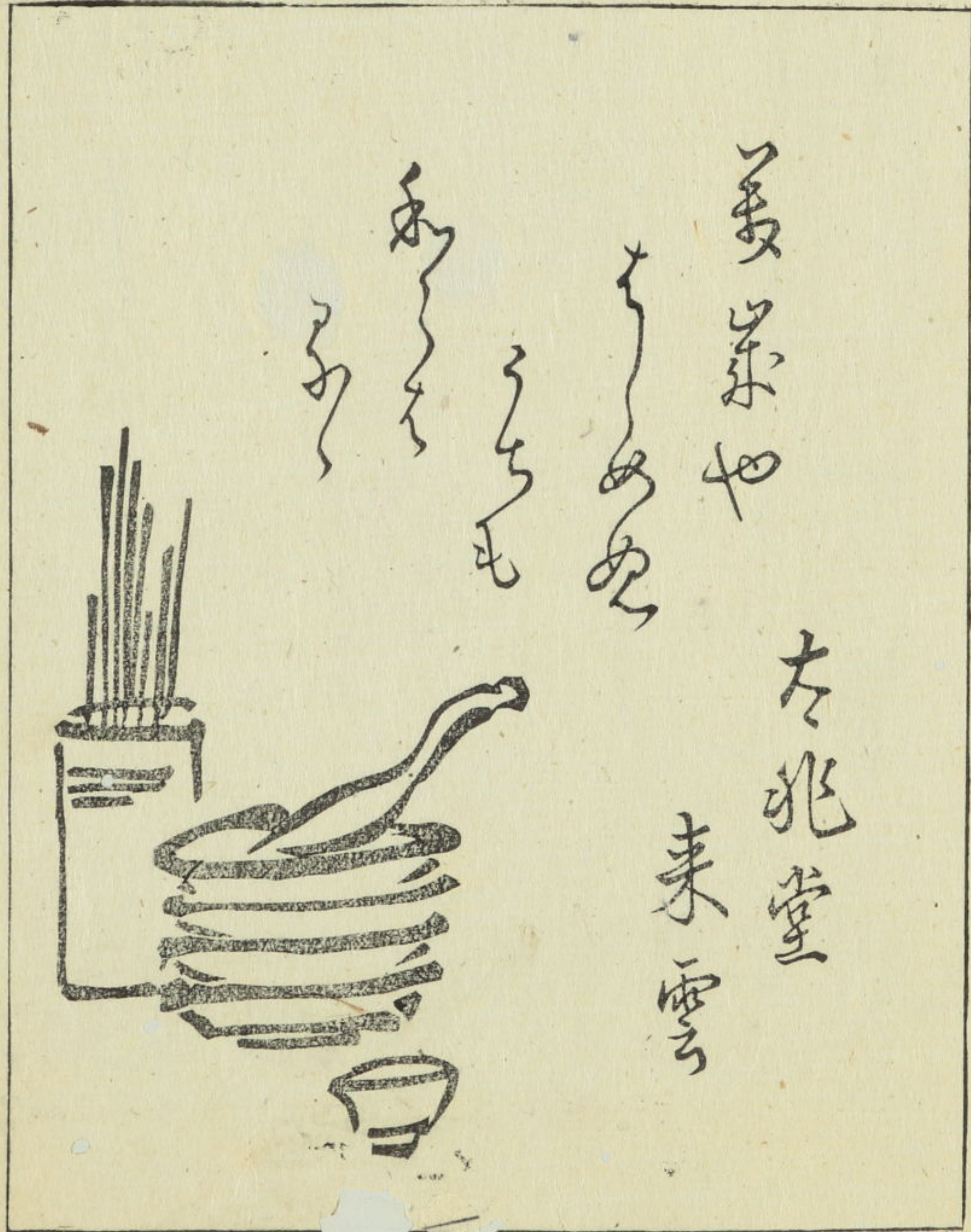
ささくゆ

島

いささら

ま





美菜也

右兆堂

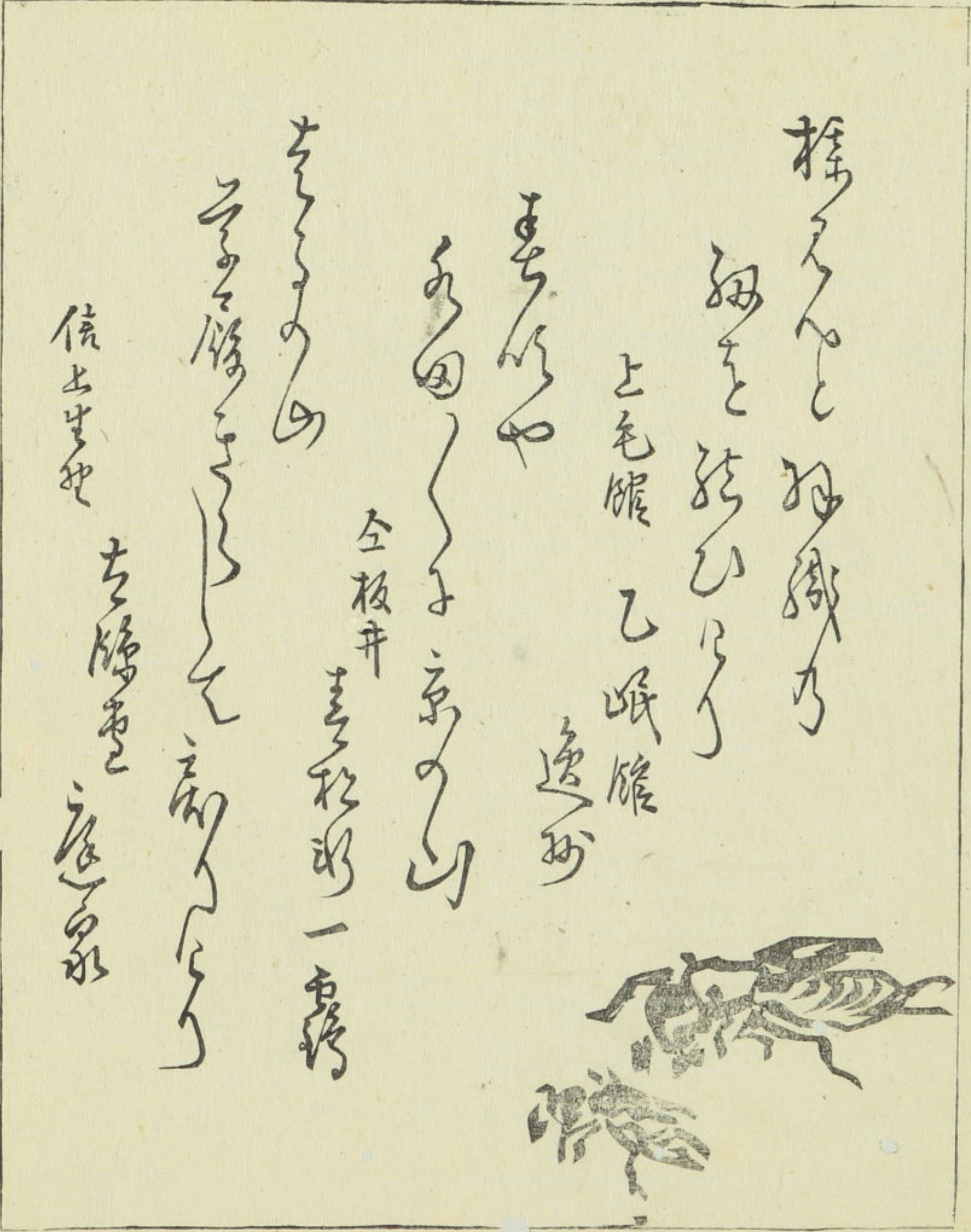
来雲

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~



~~~~~

~~~~~

上毛龍 乙岷龍

逸妙

~~~~~

~~~~~

全板并

~~~~~

~~~~~

~~~~~

信士生也

左嶋也

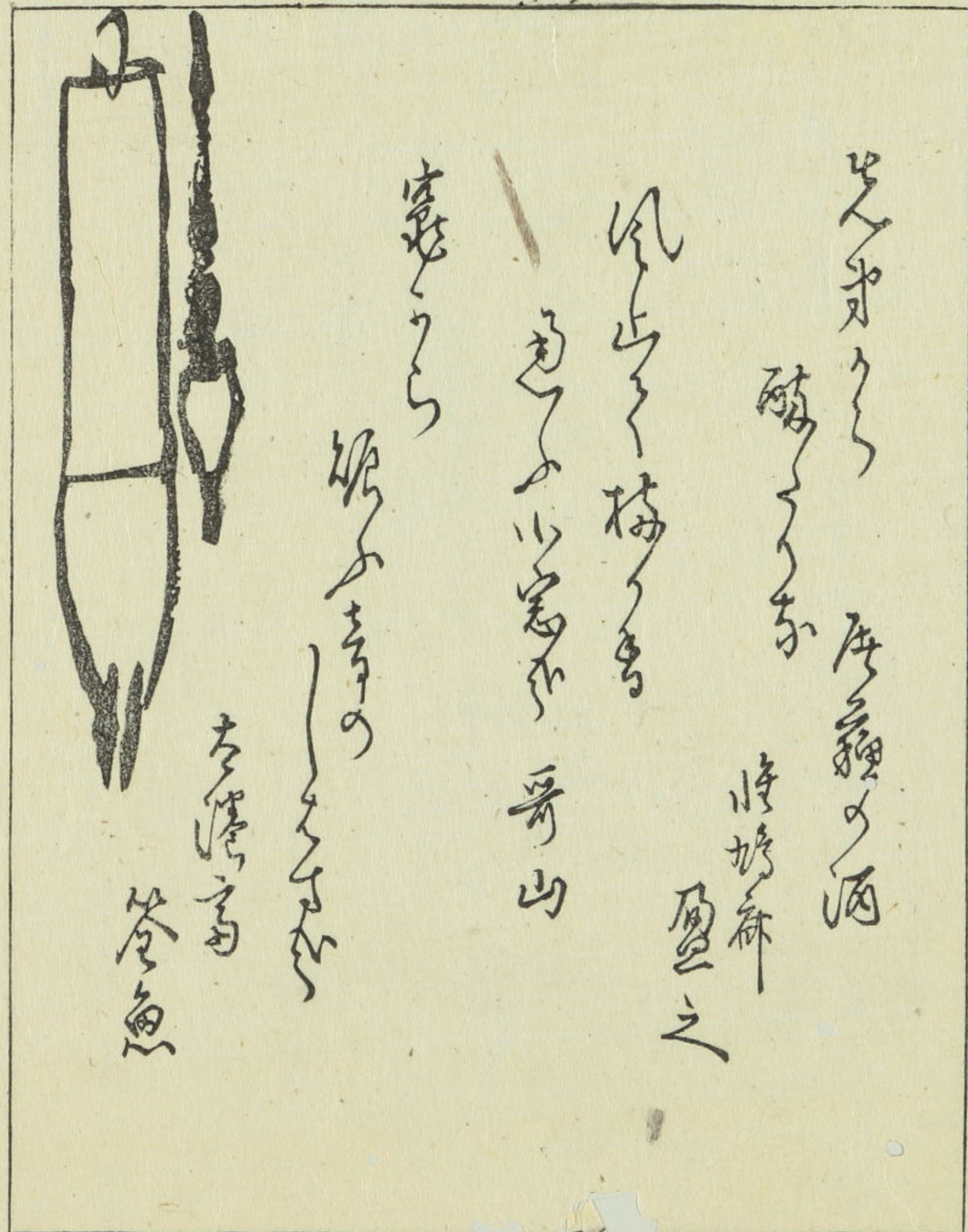
~~~~~





松の
 おの
 音

星々亭
 松琴



舟の
 音
 風止く梅の香
 舟の音
 舟の音
 舟の音

舟の音
 舟の音

谷柳

竹

千代のあけぬき

流るる尾流満更

松潤軒梅旭



五十二

山系也

松翁金蓮

松表翁

好石

雪積まう梅のちきふ

梅子梅歌まうけり

松原翁

好石

きのの羽乃きり

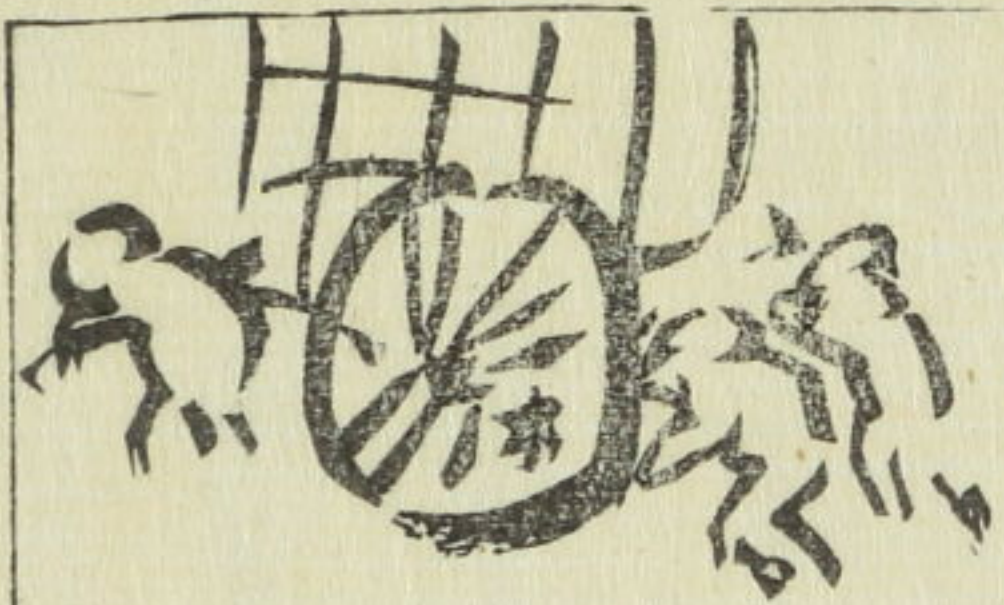
標のりおまひ

まぬか 楓出好

静水 文石



五十一



月の酒の香を〜
 〜〜〜
 〜〜〜

平川文
 上毛林田 子彫毛
 少年 枕遊

〜〜〜

全 白髪堂 三郎元

〜〜〜 全中大塚

〜〜〜

〜〜〜

祝壽

新橋の橋の香を〜
 〜〜〜

大 劔堂

枕女

〜〜〜




浮月あふをさる
 なり〜〜〜
 紫穂
 白梅
 紫のあざ
 あり〜〜〜
 柳蔭
 白鷺
 陽きの中〜
 羽織の如
 桃鏡
 白餅

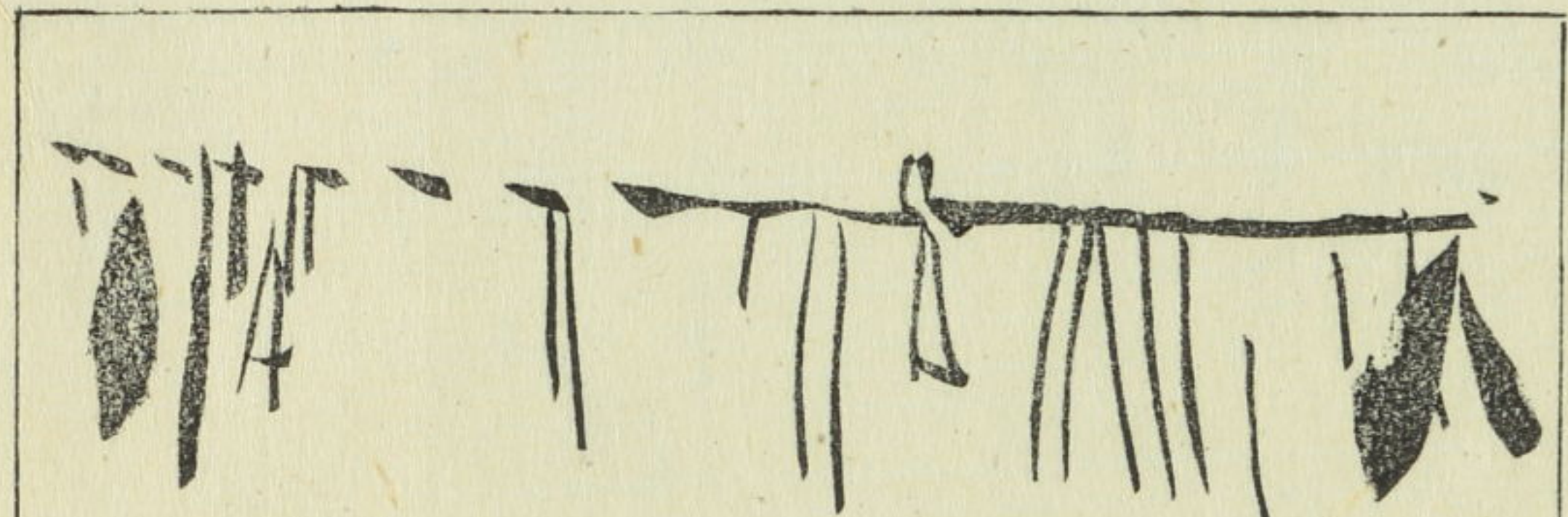
五十一

手ね〜〜〜
 う〜〜
 ね〜〜
 中〜〜
 少雲
 水友金
 柳吟
 雲〜〜
 春田金
 白鷺
 あり〜〜

五十二

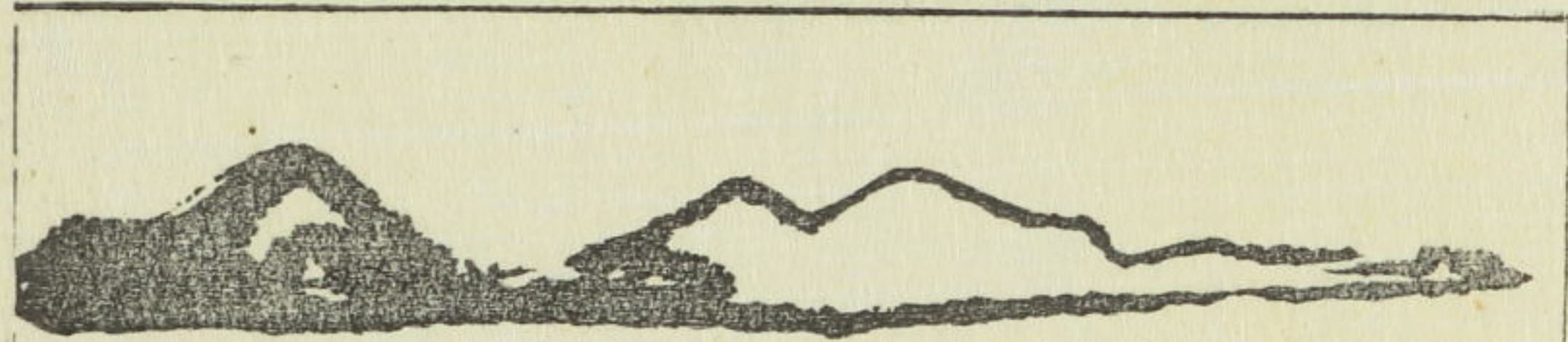


様々の山々の
 友を待たぬ
 古の堂 桃川
 之の字は
 古の堂を何
 古の堂
 桃川



吸きの椀子 新波を
 佳石
 移るゝ編糸子
 山甲の
 豊山
 とやあゝ
 緋掃乃
 同
 古の堂 桃川

桃川



山

山

山

山

山

山

山

山

山

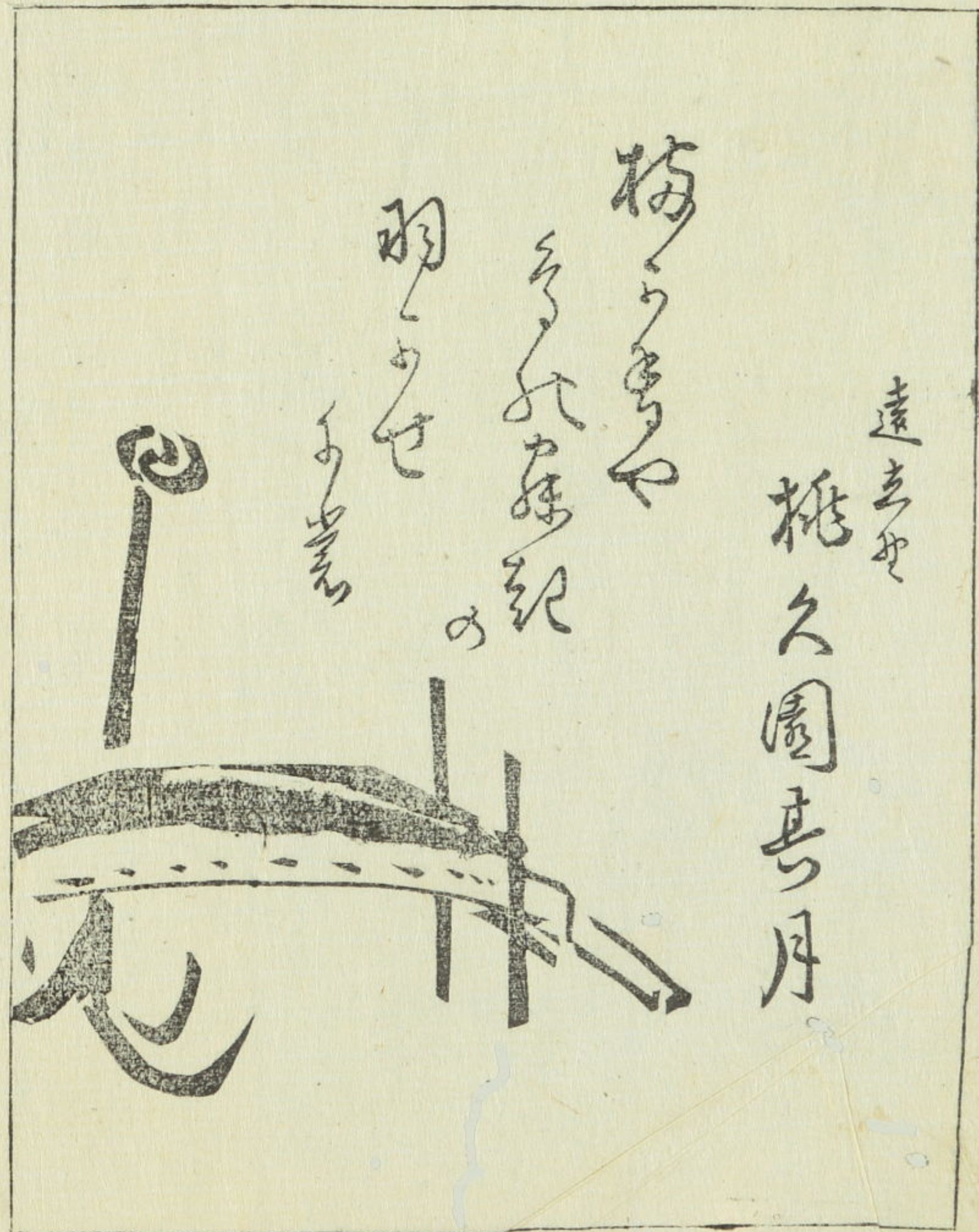
山

山

山

山

山



遠

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

三十一

●

吟々ゆき

泉をくみゆり

梅子

甲斐

下川

二川

舟

手舟

舟

舟

舟

松

丸人



山や山の色

左

山

民

山

山

山

山

山

山

山

山

山



三十一

梅をくぬく

風をくぬく

た

清子

上毛

梅の舎見水



河をくぬく

枕仙舎

くぬく

吐丹

海山

くぬく

赤

枕場

早

尾をくぬく

尾をくぬく



柳

橋



ア
リ

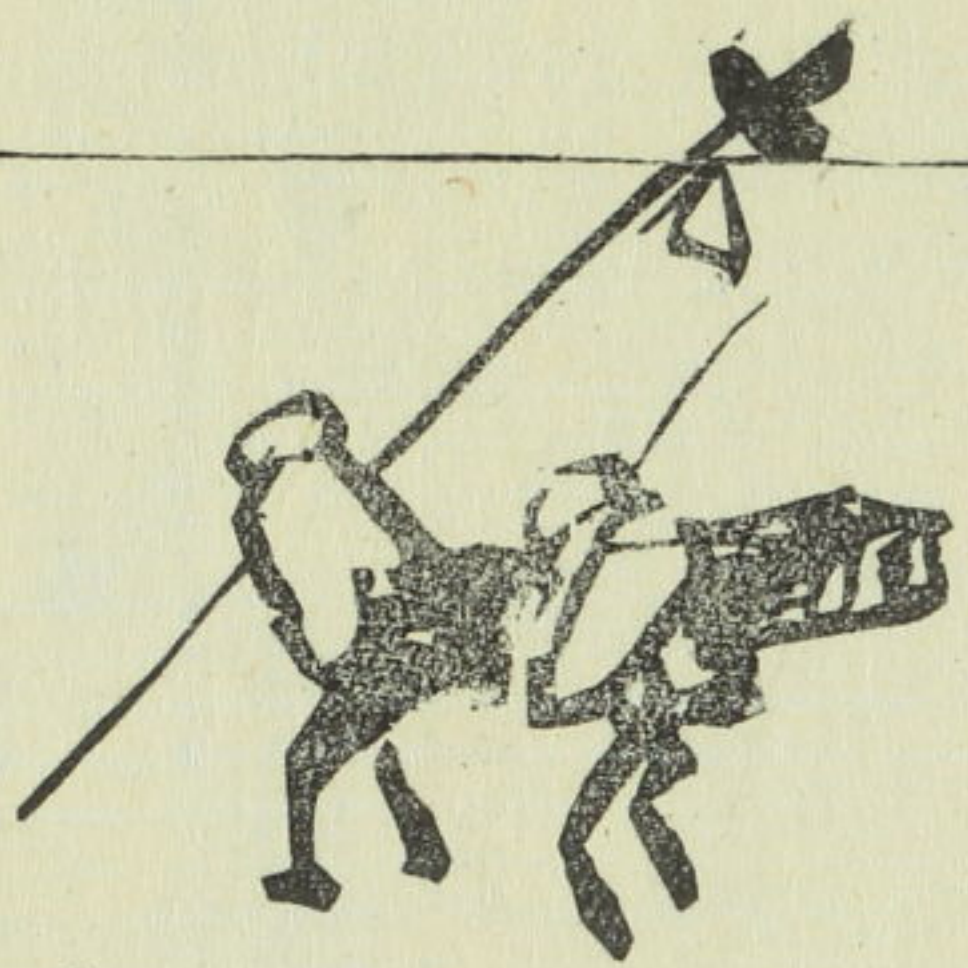
実のふくらみ
 葉のまじり
 子毛沖田
 子載着
 桃落

幼時のふくらみ
 葉のまじり
 子毛沖田
 子載着
 桃落

実のふくらみ
 葉のまじり
 子毛沖田
 子載着
 桃落

桃落



起心 山莊亭 桃月

~~~~~

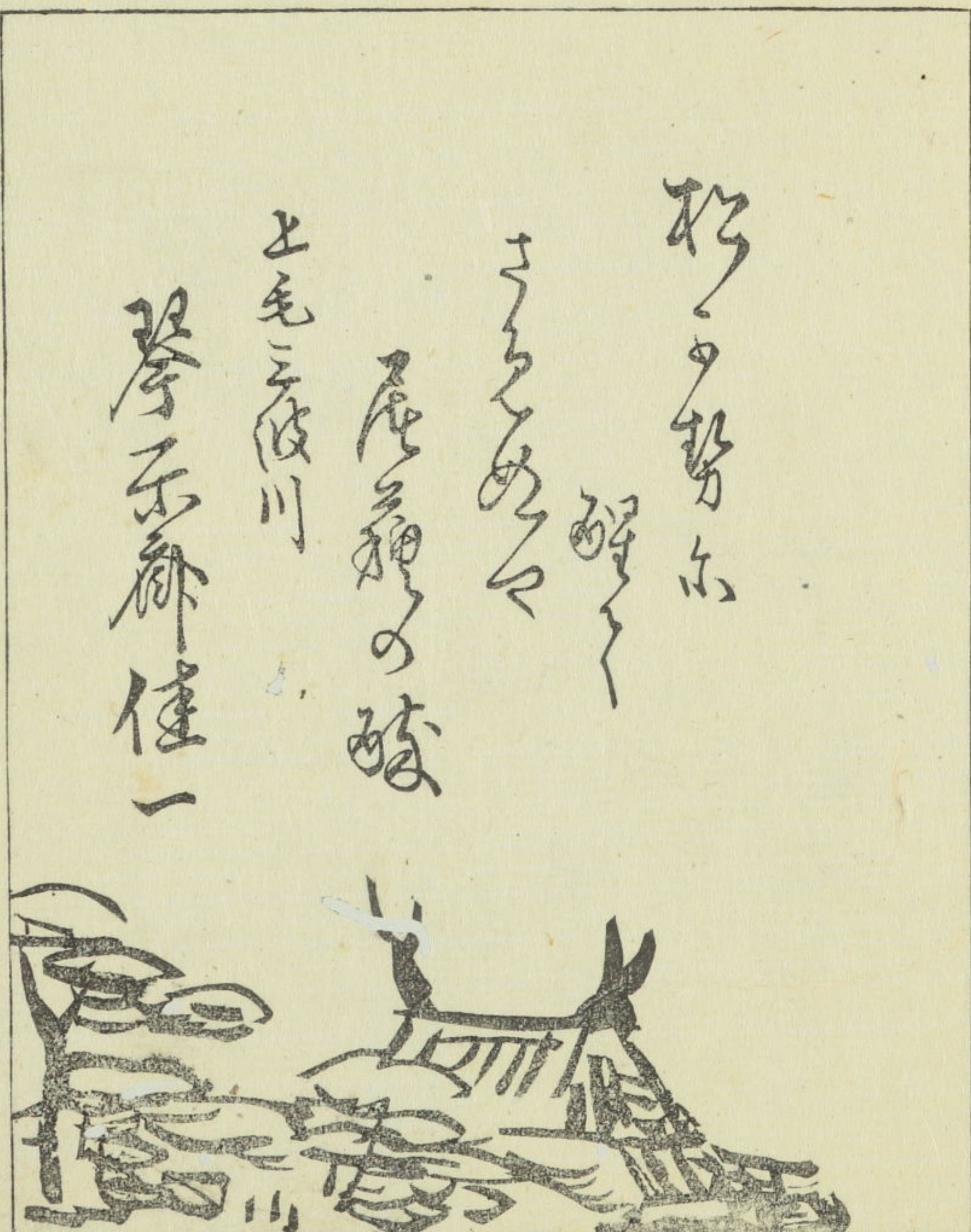
~~~~~

~~~~~ 大福堂 新巻

~~~~~

~~~~~

~~~~~ 松島



松島勢亦

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

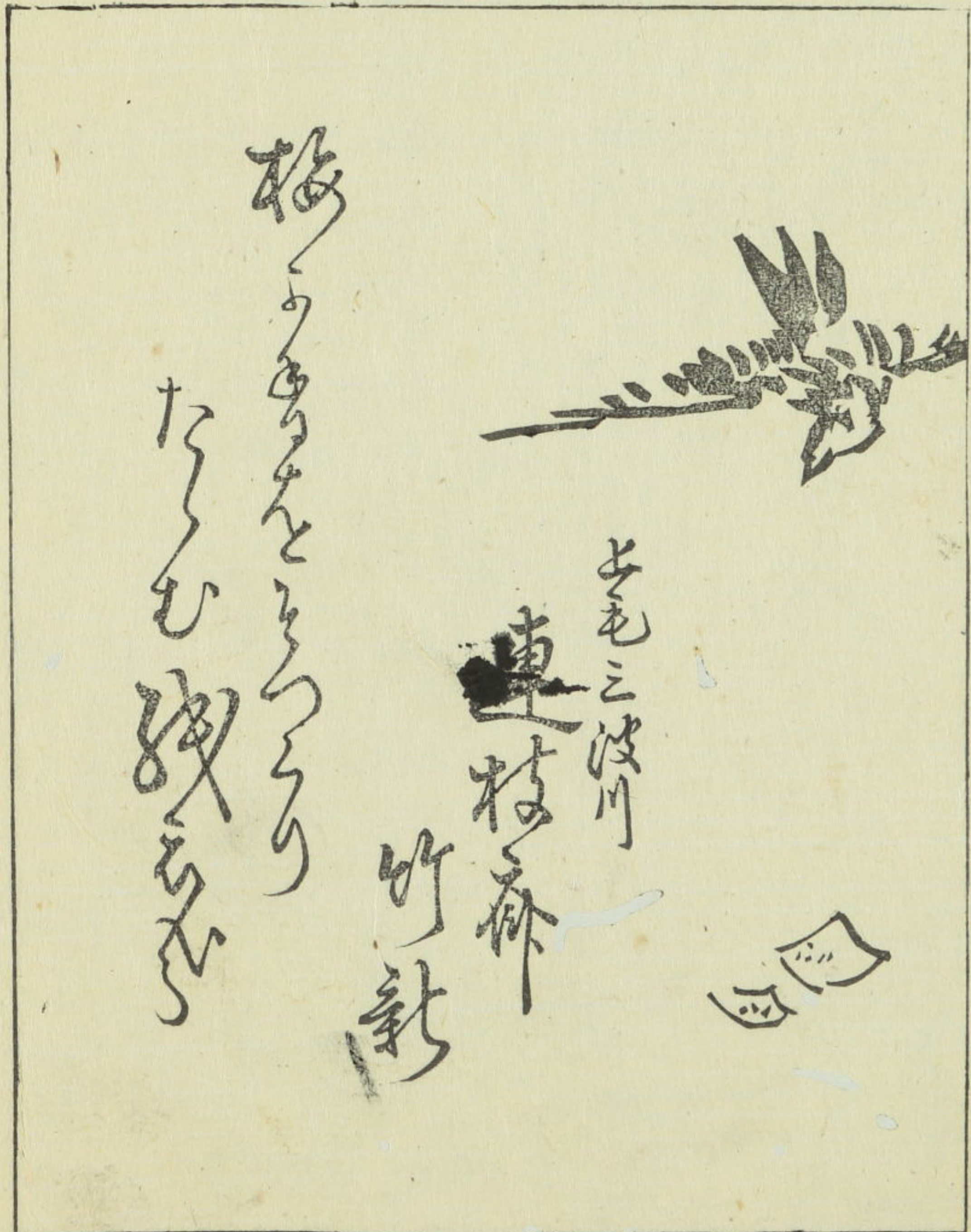
六十五

六十五



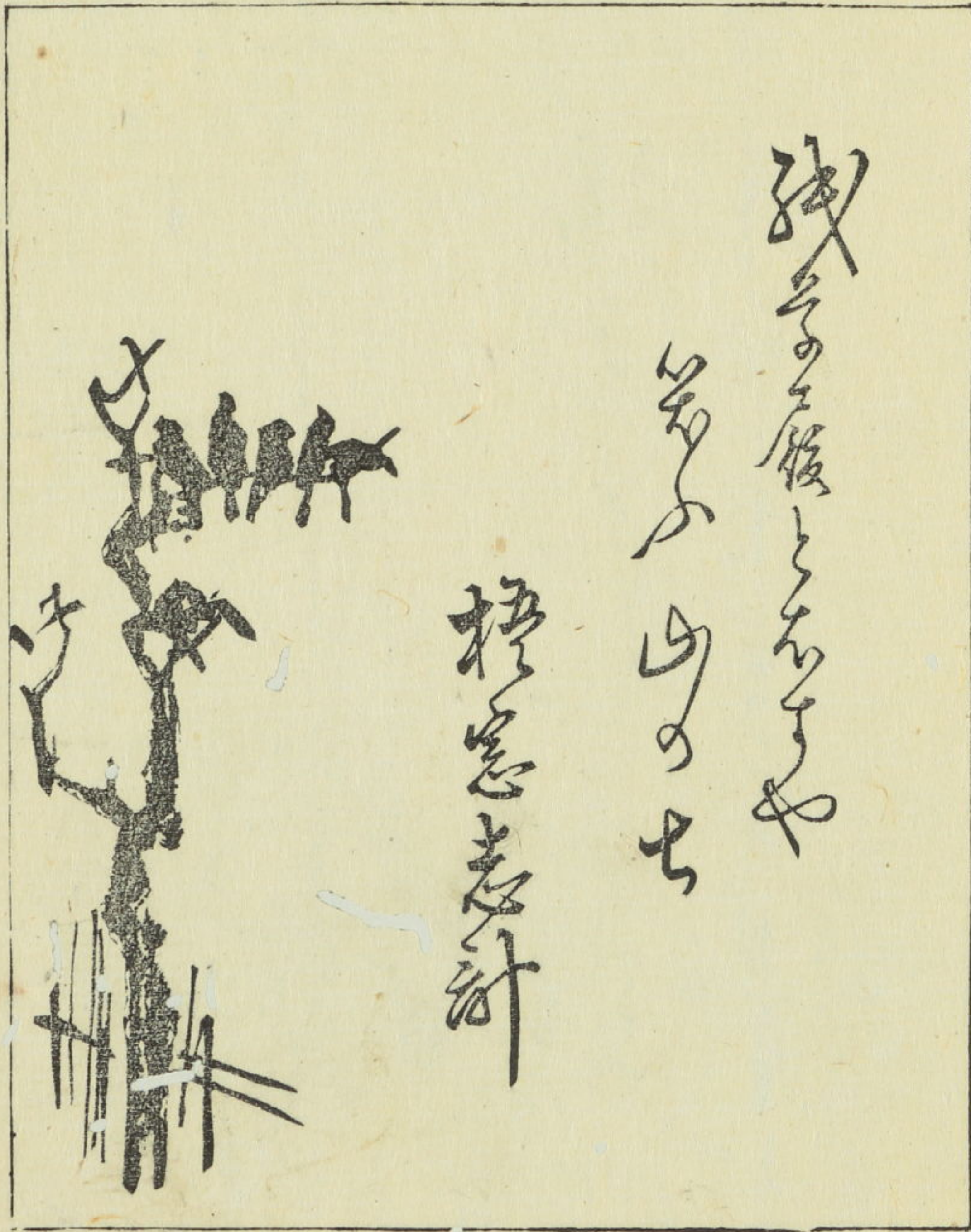


六十八



六十九



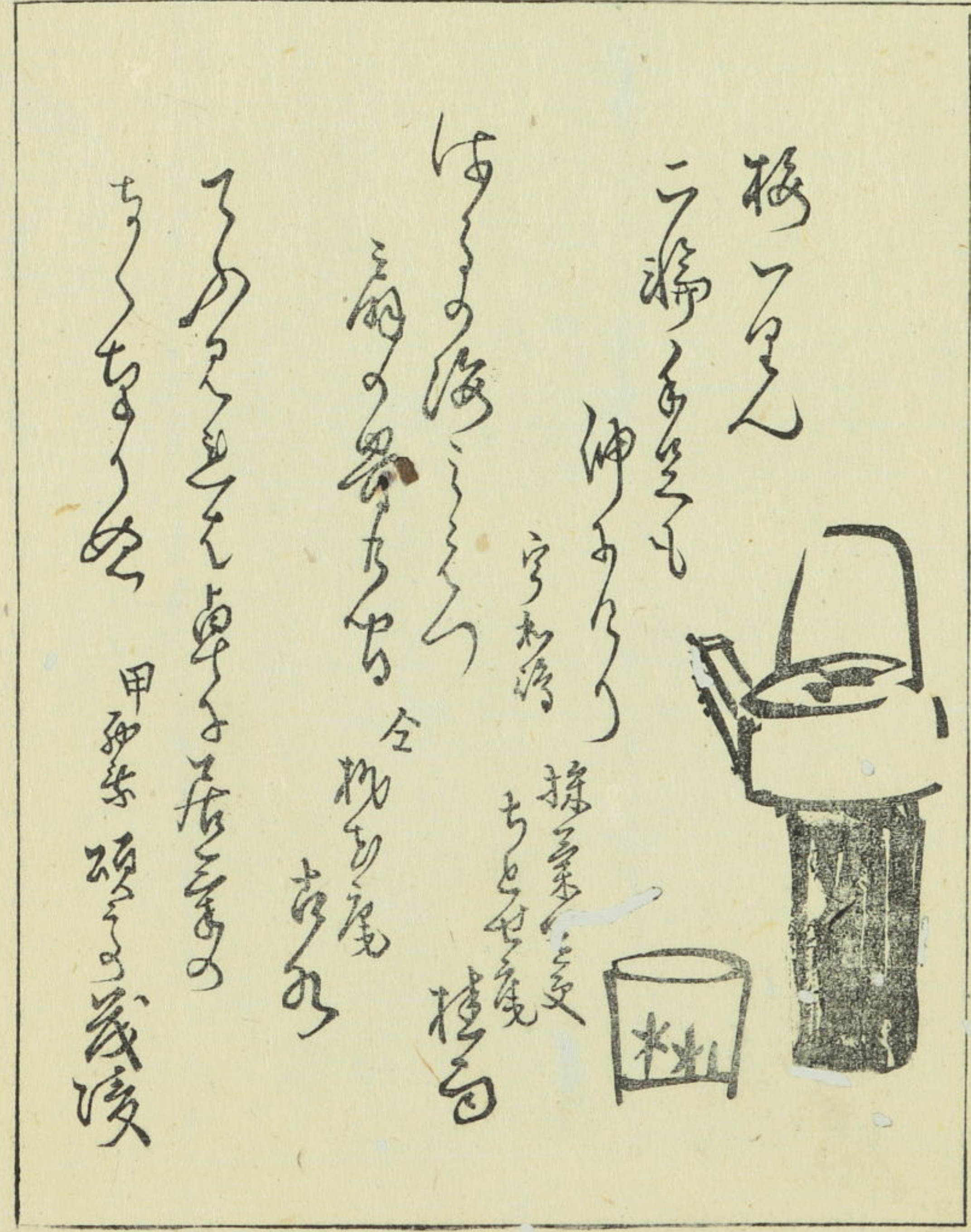


磯の屋と云ふ也

磯の山の上

権志志計

六十一



梅つるん

二端もさる

伸あつら

字おろ

梅志志計

ちとせ

梅志

何の海に

何の界ち中

合

物り屋

おろ

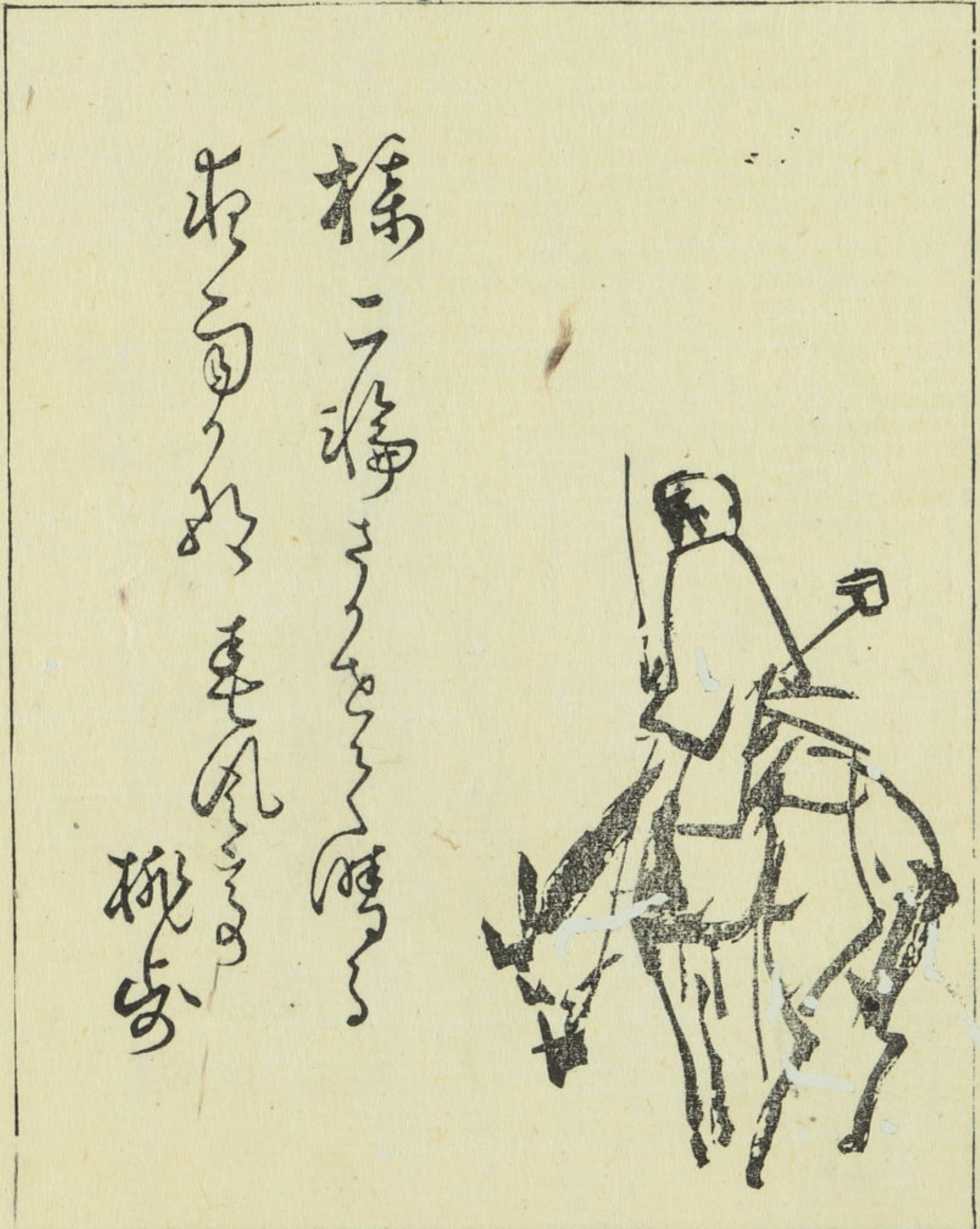
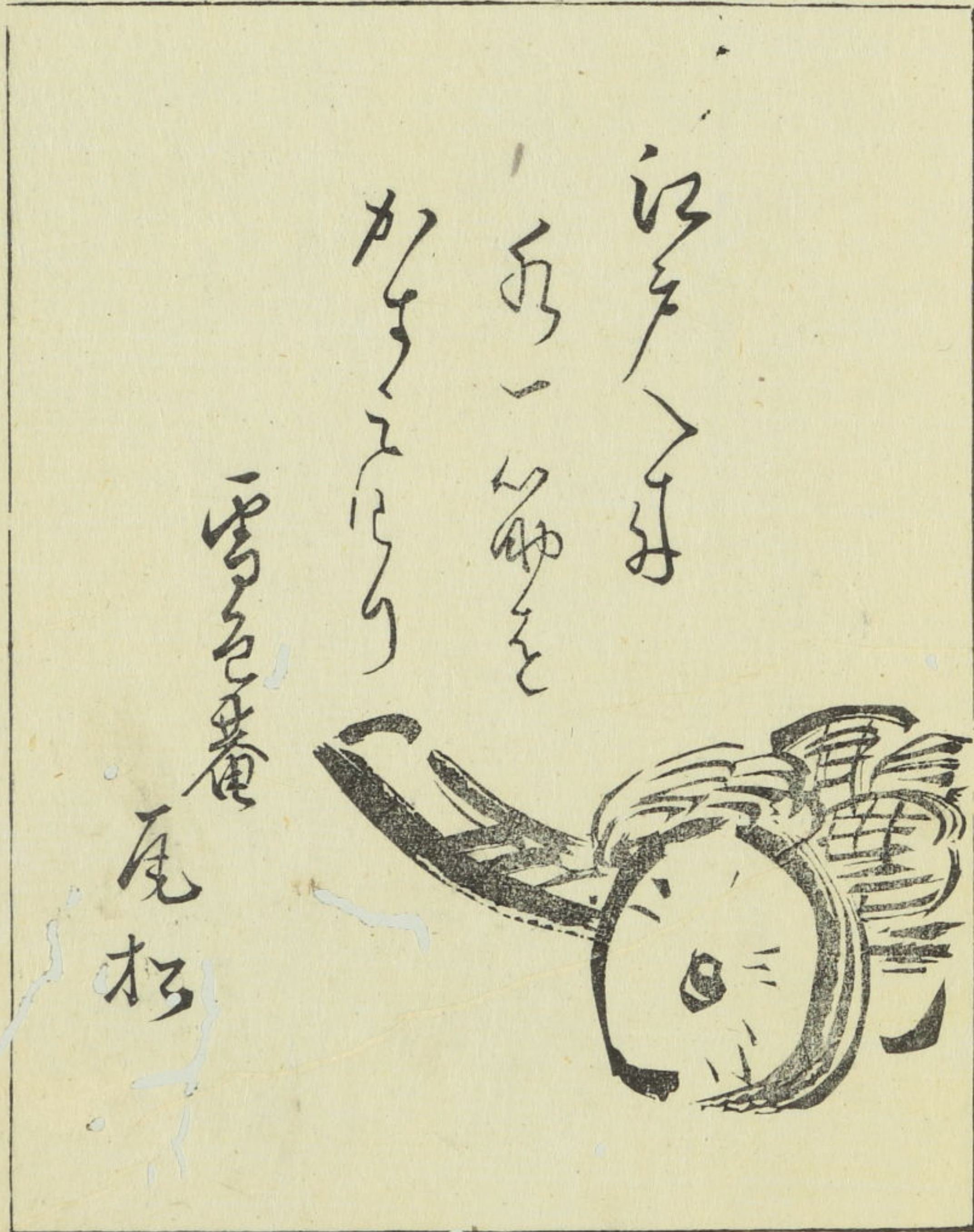
つらつらと云ふ子居るもの

ちとせ

甲 磯志 磯志志計

六十一

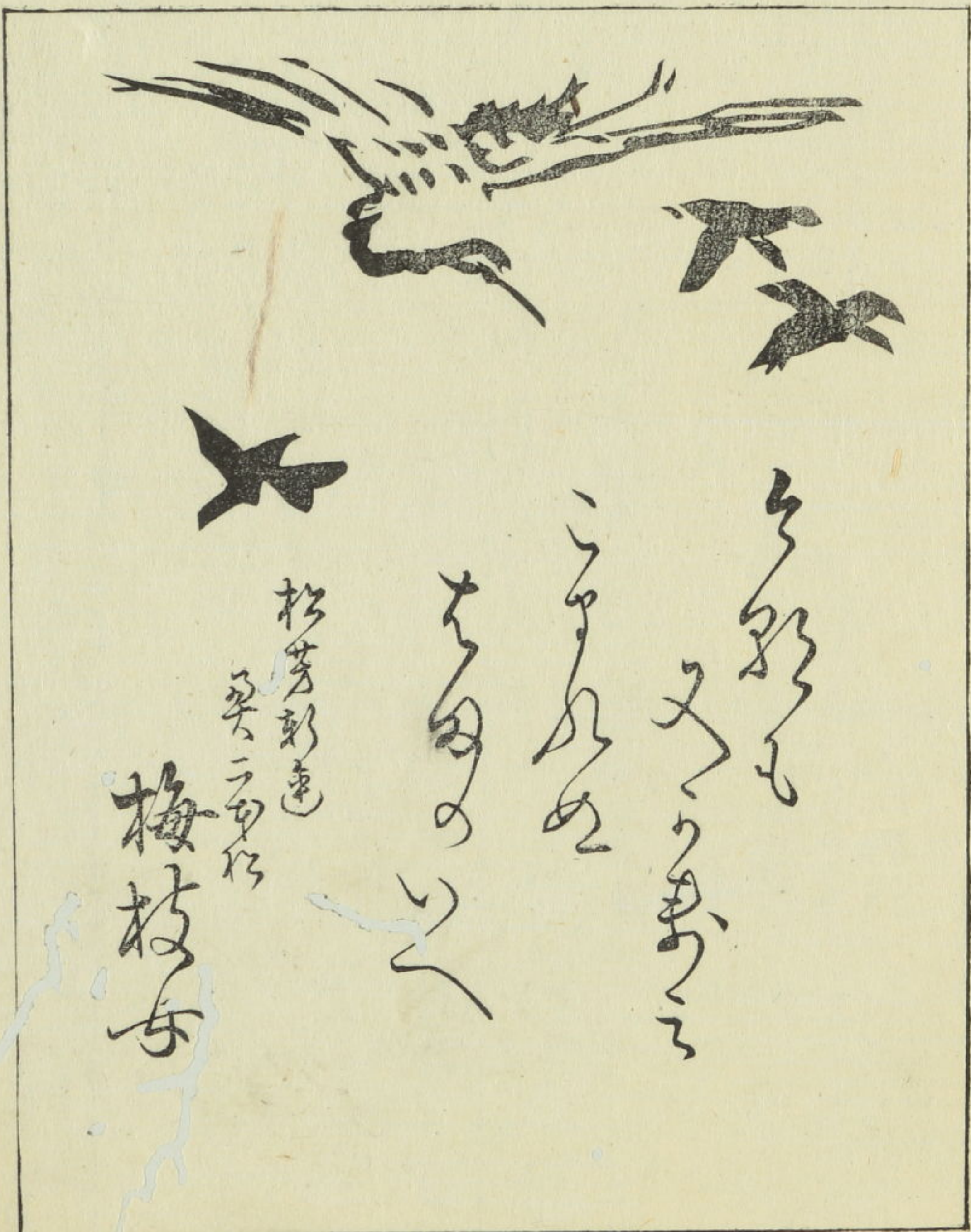




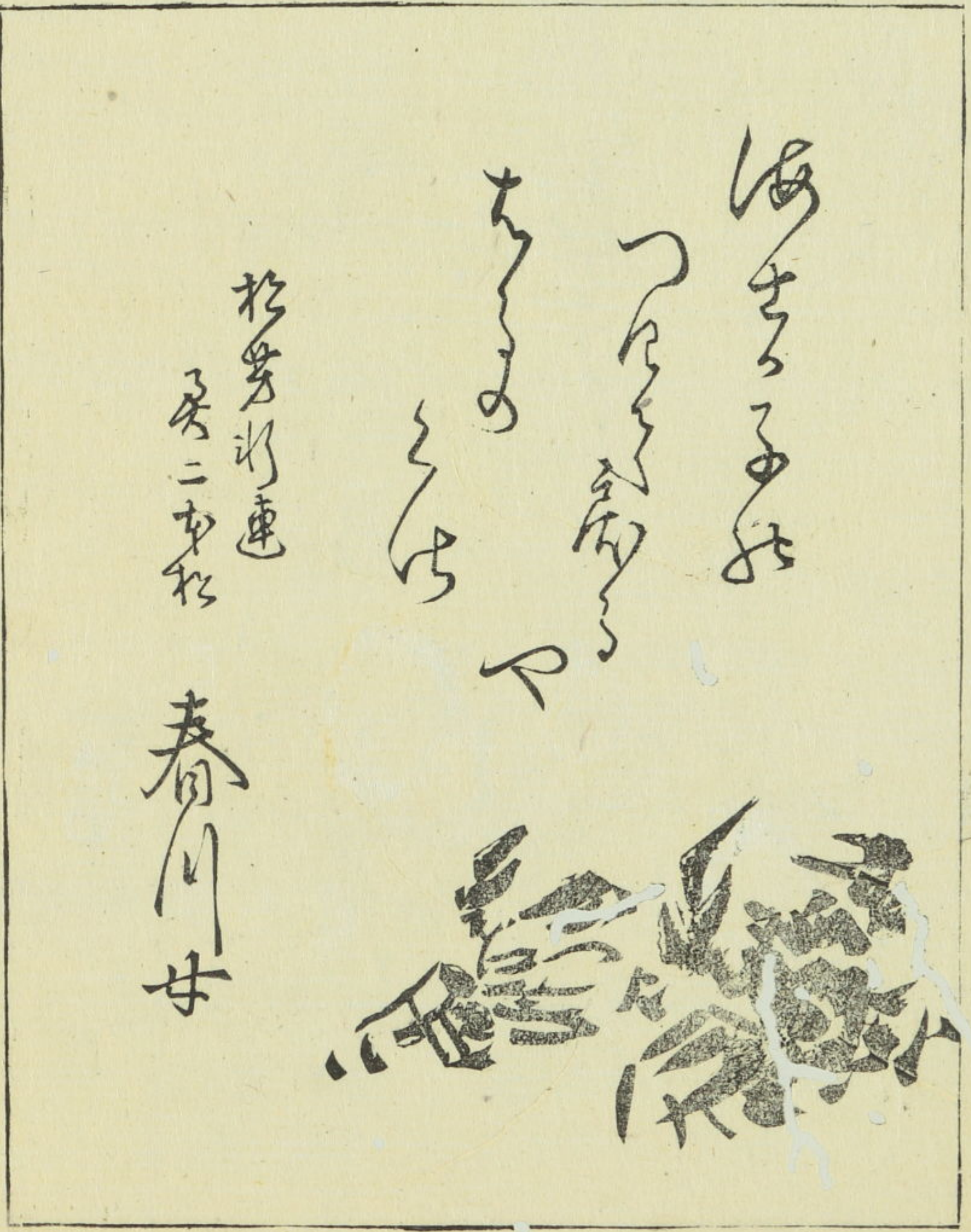
六十八

三十七



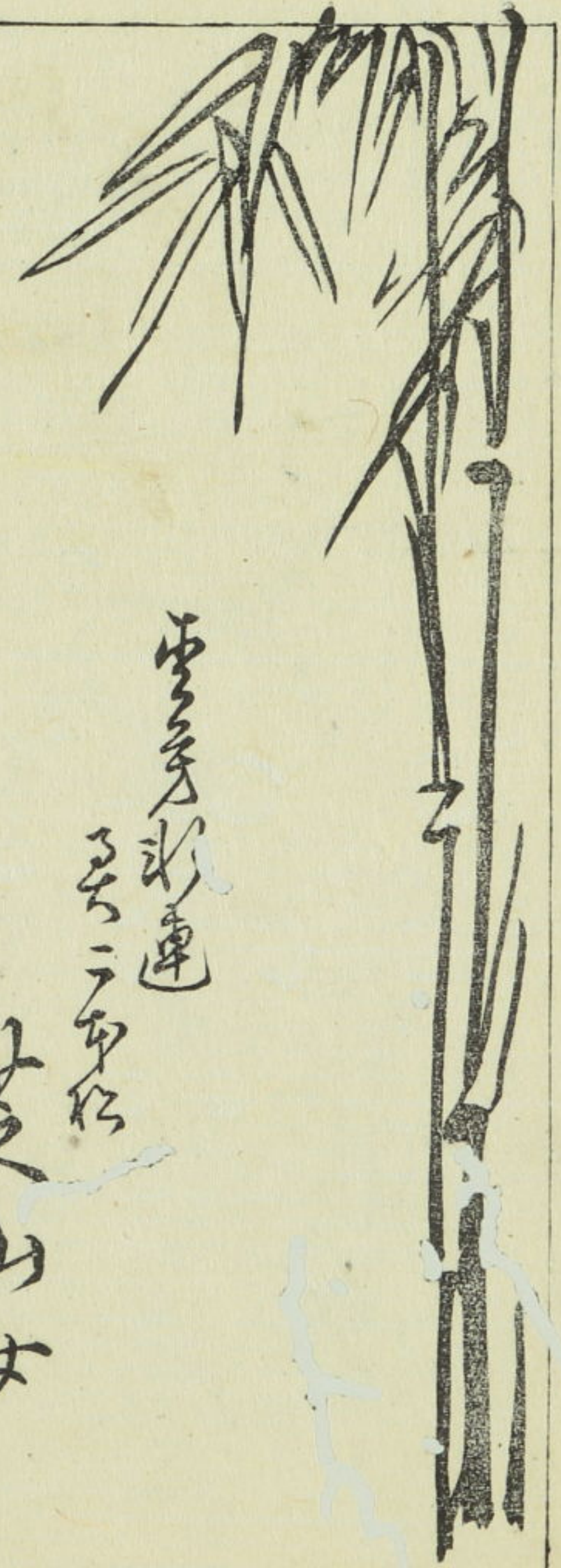


六十九



六十九





雪舟筆

三ノ下

芝山女

うらやま

うらやま

うらやま

三十九

梅咲くもあはれ

小川うね

三ノ下

松若水色 松系女

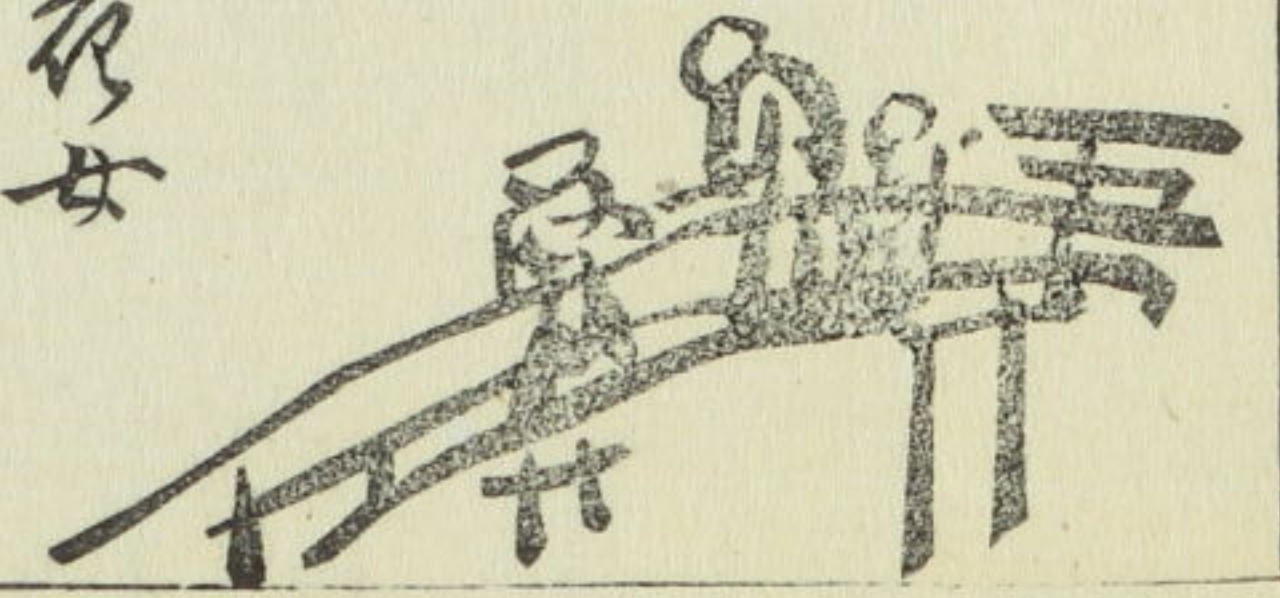
めまろくもあはれ

あやまの風 柳系女

うらやま

うらやま

うらやま



三十九



西の空を

渡る人魚の影

松芳軒連 四隣舎 免生

雲は

海やまの底に小舟の嵐石

年洞乃世房

梅石



文部卿連

山崎の

左大臣

長門の

玉手

あはれ

心結の

あはれ梅の 左大臣 翠山

樹の心

梅の影

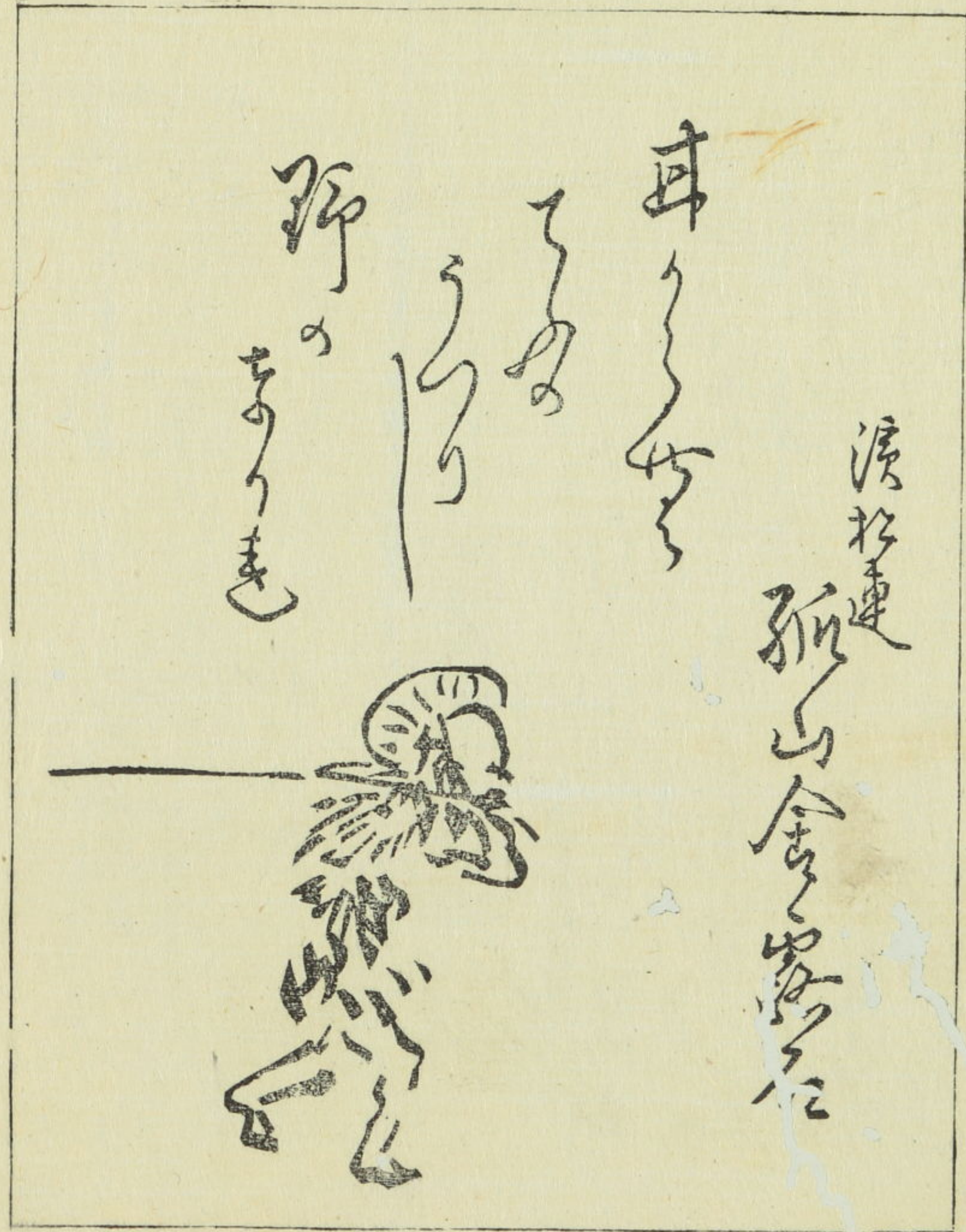
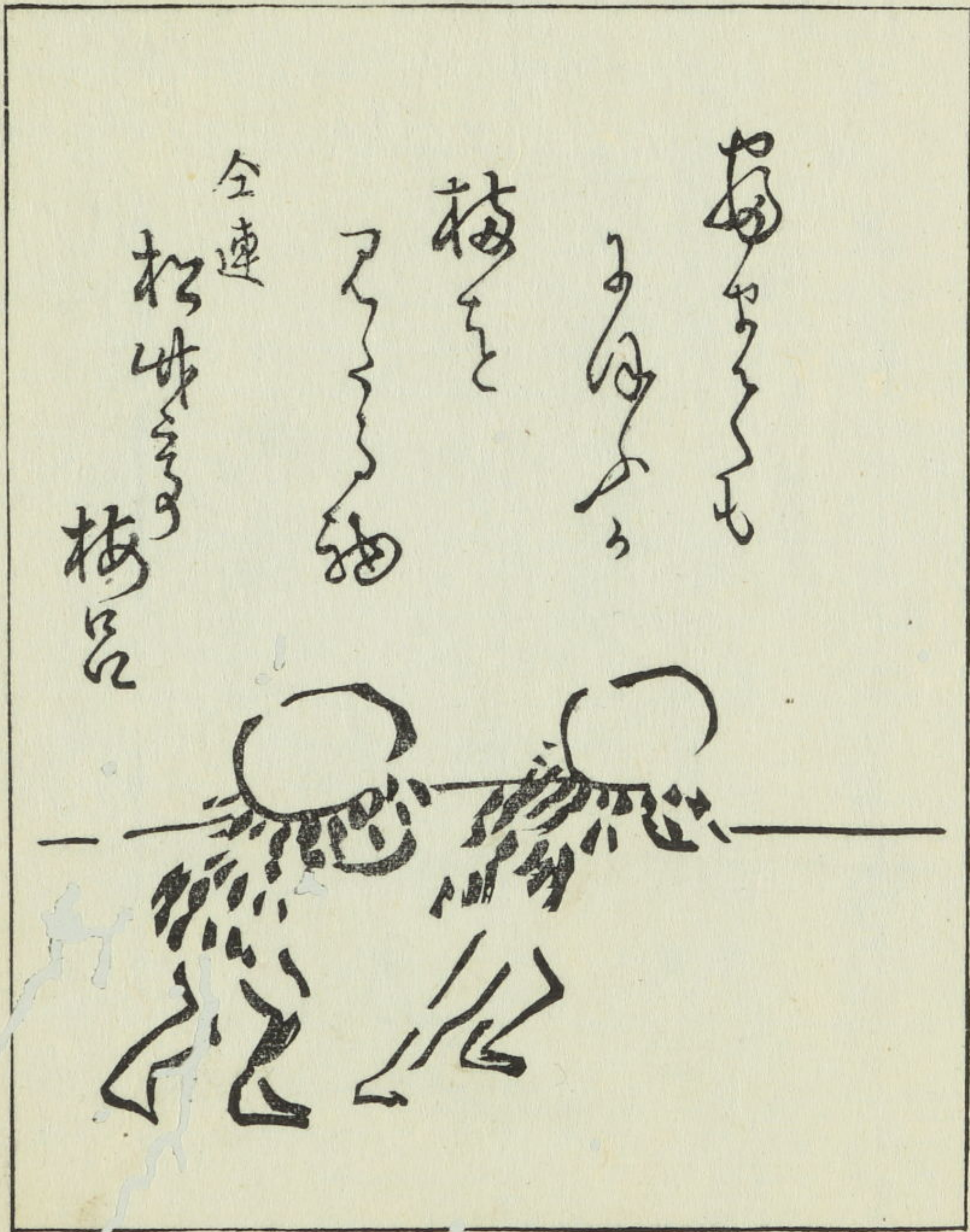
全言

左大臣

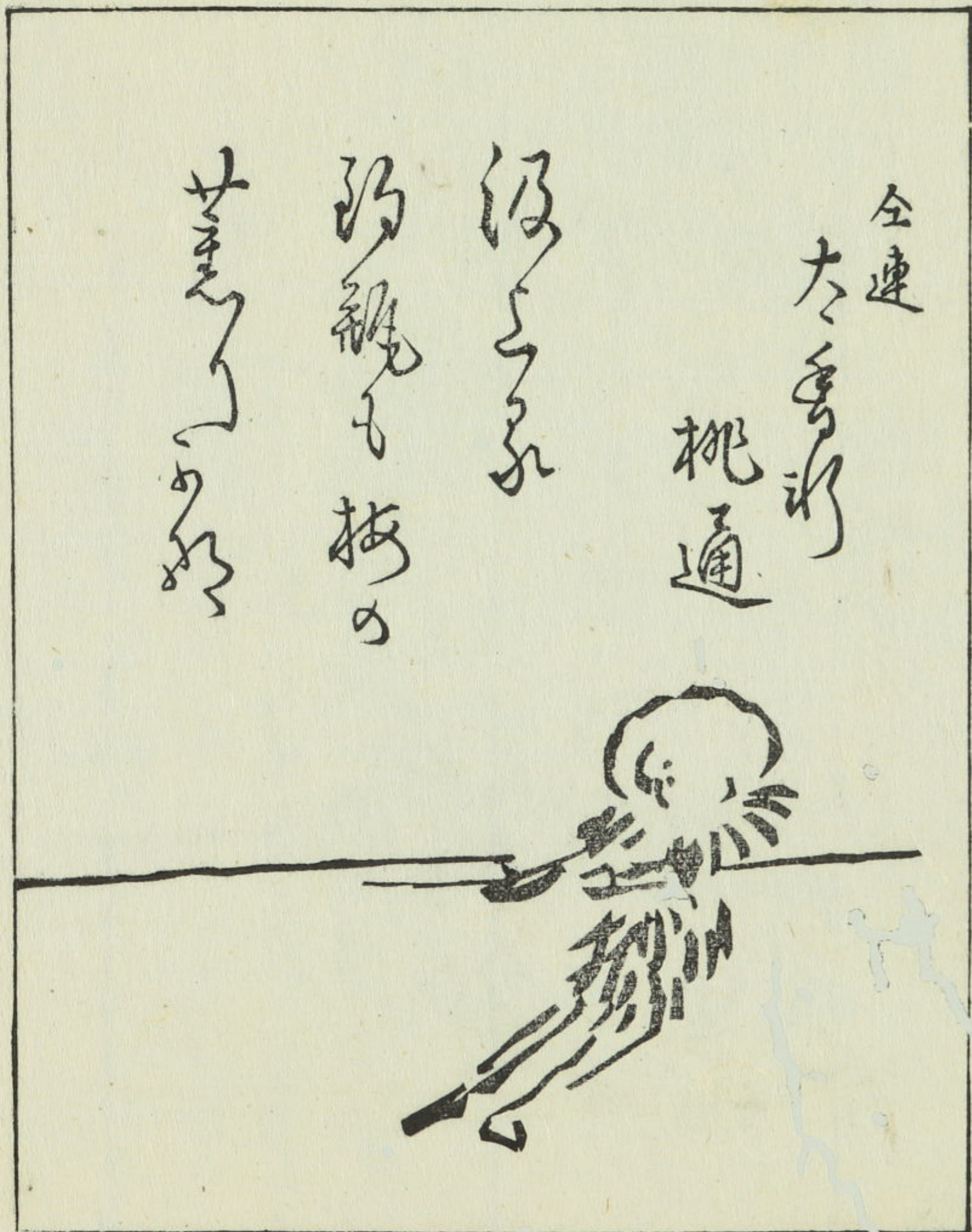
松芳軒

七











梅のついで

神楽のついで  
いふまじい梅を  
四方の松をまきとる  
梅のついで  
いふまじい梅を  
いふまじい梅を

七十三

梅のついで

梅のついで  
いふまじい梅を  
いふまじい梅を  
いふまじい梅を  
いふまじい梅を  
いふまじい梅を  
いふまじい梅を

七十三





影風亭保雪

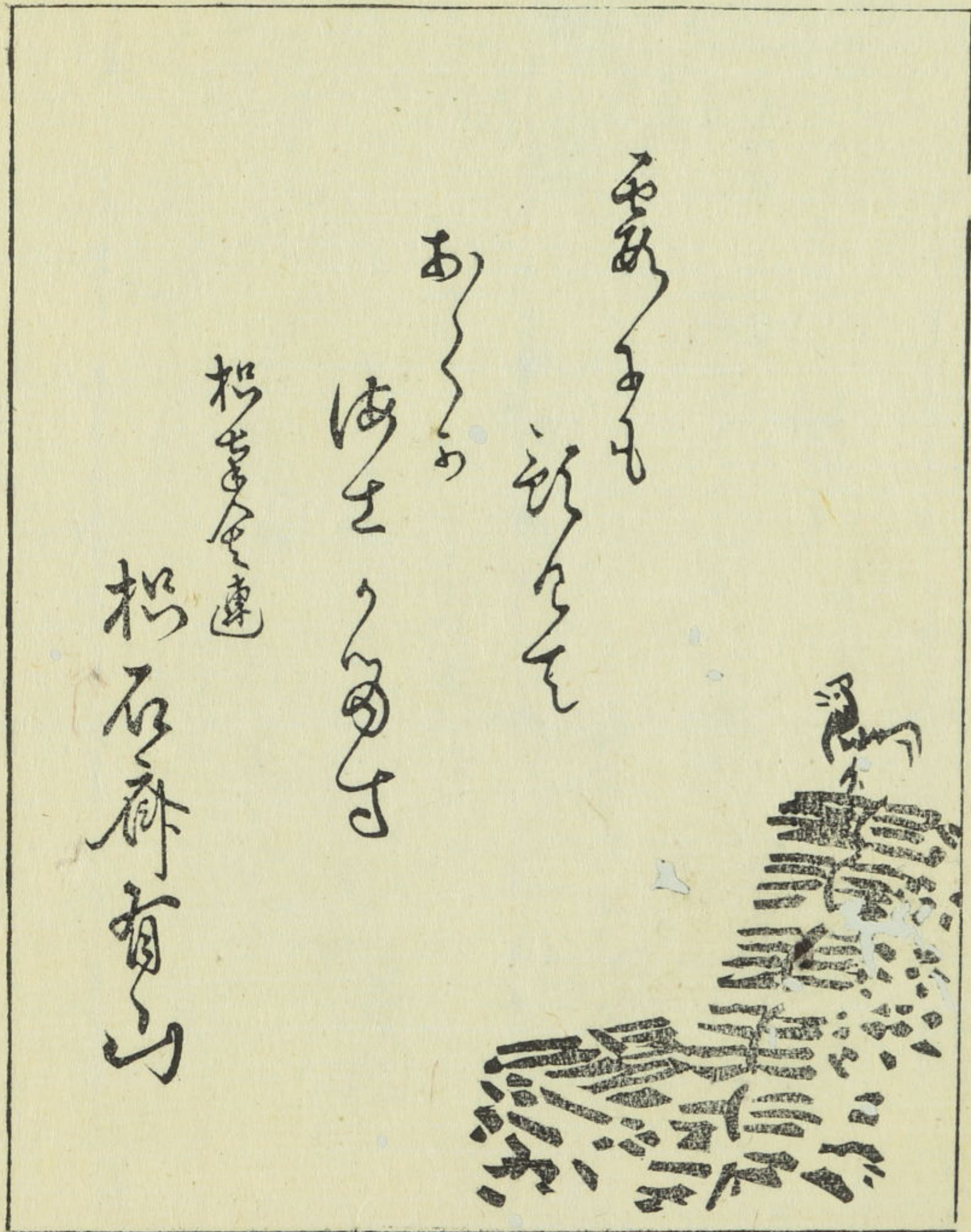
夜の風

雪降のまじ

よりの

ま

六十五



夜風

雪降

あ

海生

松石斎

保雪

六十五



川中もや梅子を向うへ

又あり

まの白重連 春霞堂

若曉

中流のつらみ

ささり 回子河

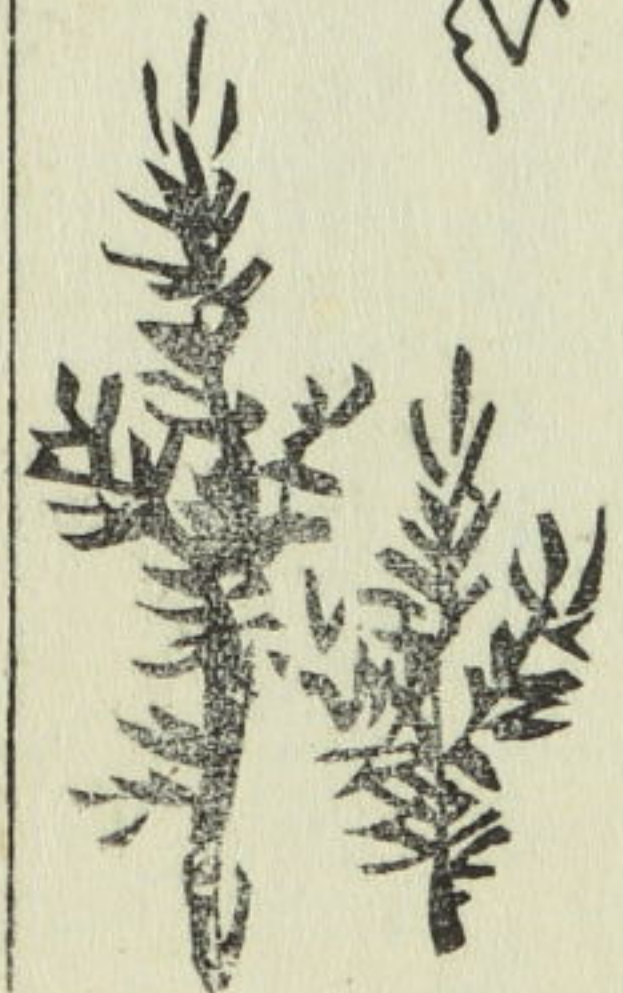
春川重梅

十

中流のつらみ

まの白重連

清曉



全連

中流のつらみ

まの白重連

中流のつらみ

若曉

中流のつらみ

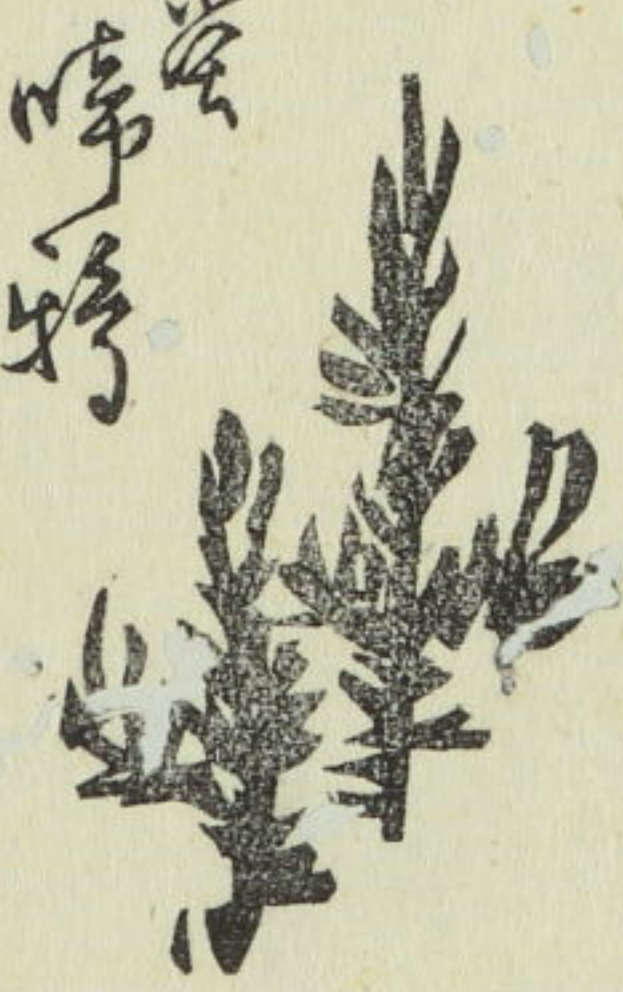
まの白重連

梅虫



中流のつらみ

まの白重連



啼鳥



くわんわん

つらつら



きん

梅の香

全色

本居

若雪

梅の香

全色

つらつら

雪

めい

全色

心

川

つらつら

全色

梅

つらつら

つらつら

全色

梅

つらつら

つらつら

全色

つらつら

梅





たみまらわ  
か

今也  
春空園

胡のそ

梅子甘

い

梅子甘

か

あ

あ

春空園

梅子甘



全連

つ

平空園

梅子甘

梅子

雪くわ



月

春空園

梅子甘



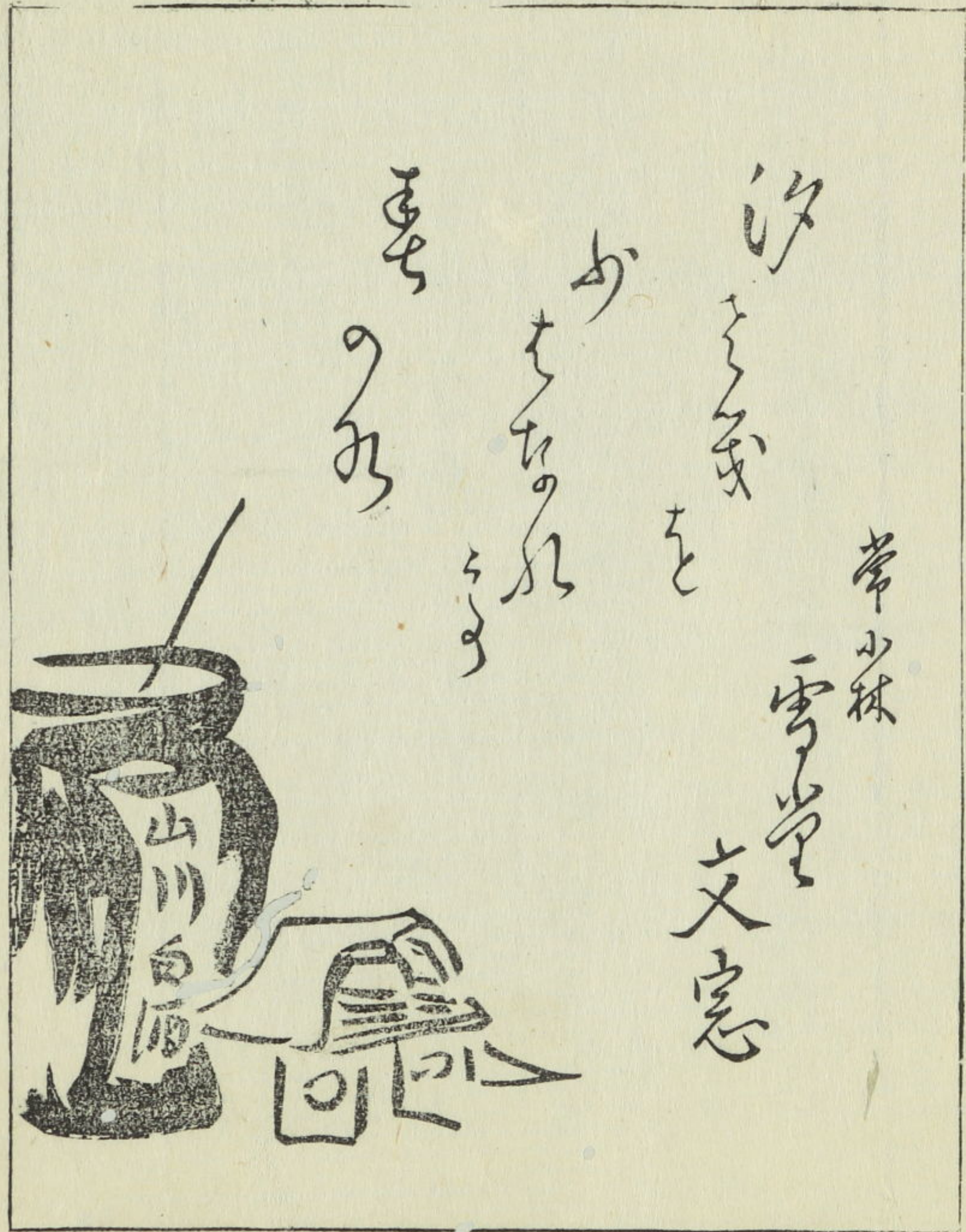
さ

春空園

梅子

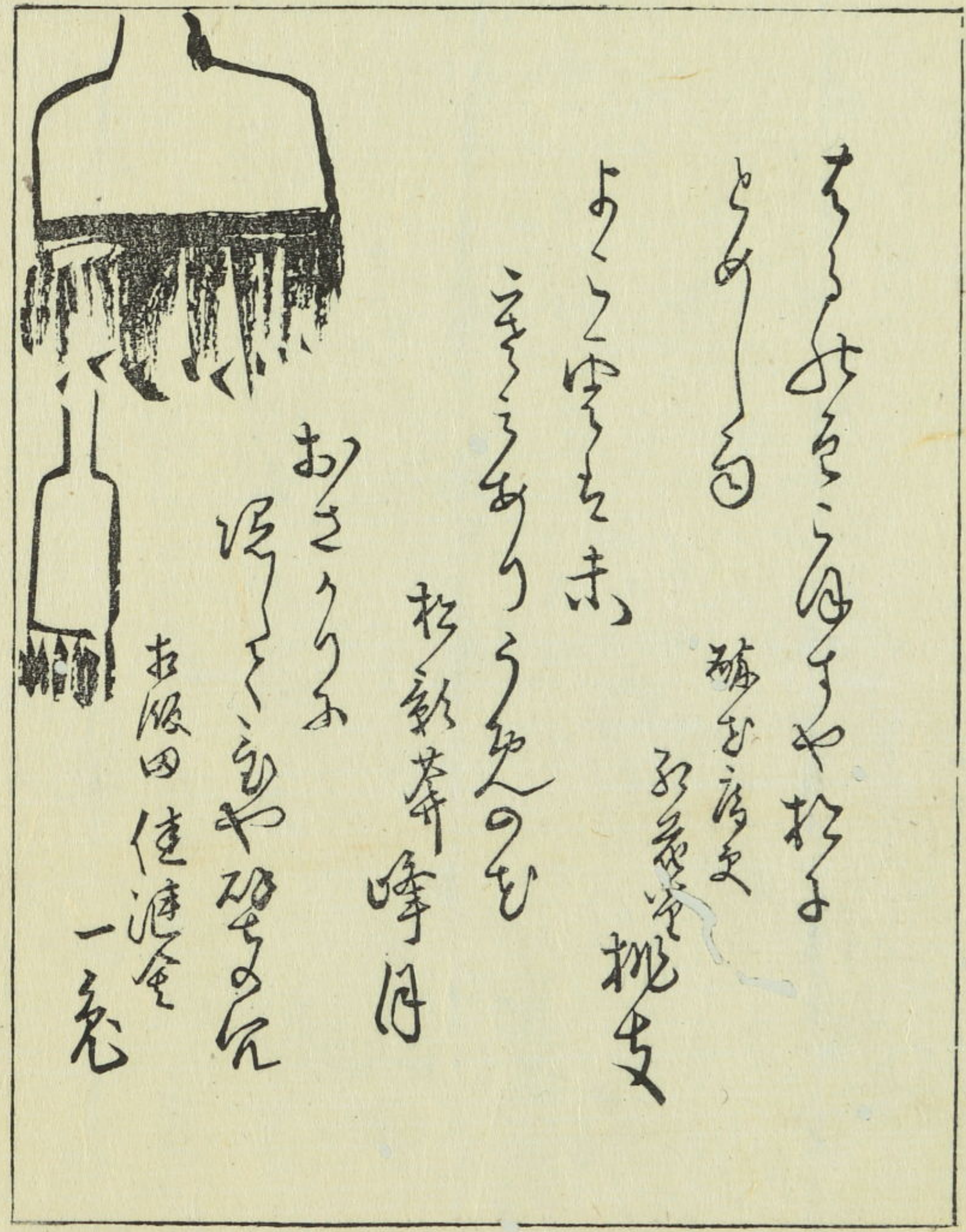
梅子甘





汐  
 さらさら  
 を  
 か  
 さらさら  
 のみ

常少林  
 雲山堂  
 文憲



さらさら  
 のみ  
 よろこぶ  
 さらさら  
 のみ

おさくら  
 松新茶  
 峰月  
 一光

廿八







大徳堂



なま〜おぬぬ

梅〜りふから〜

大徳堂

都朝

〜知〜り〜大〜

〜し〜る〜

大徳堂 孤仙

お〜の〜

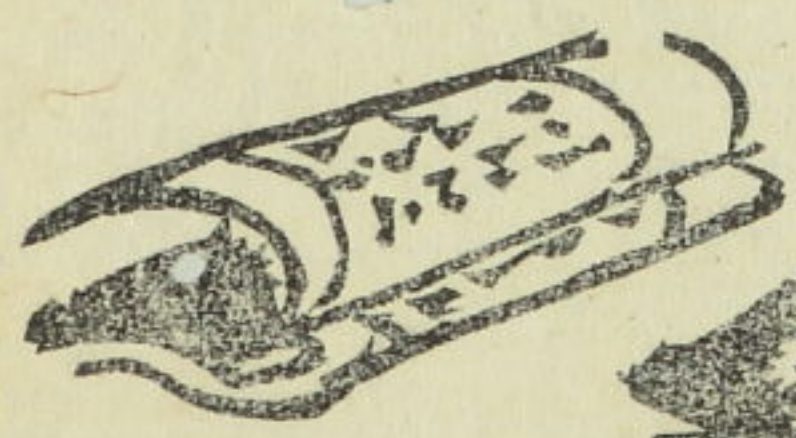
〜の〜

大徳堂 孤仙

〜の〜

〜の〜

大徳堂 志月





何となく物音

甲〜紅子の春

水明き

我世〜  
楓浦

〜の春〜

君の代を 埴海楼紫生

かきむらや芳如〜

あ〜  
槐橋園 有香



本麻と

春〜川〜

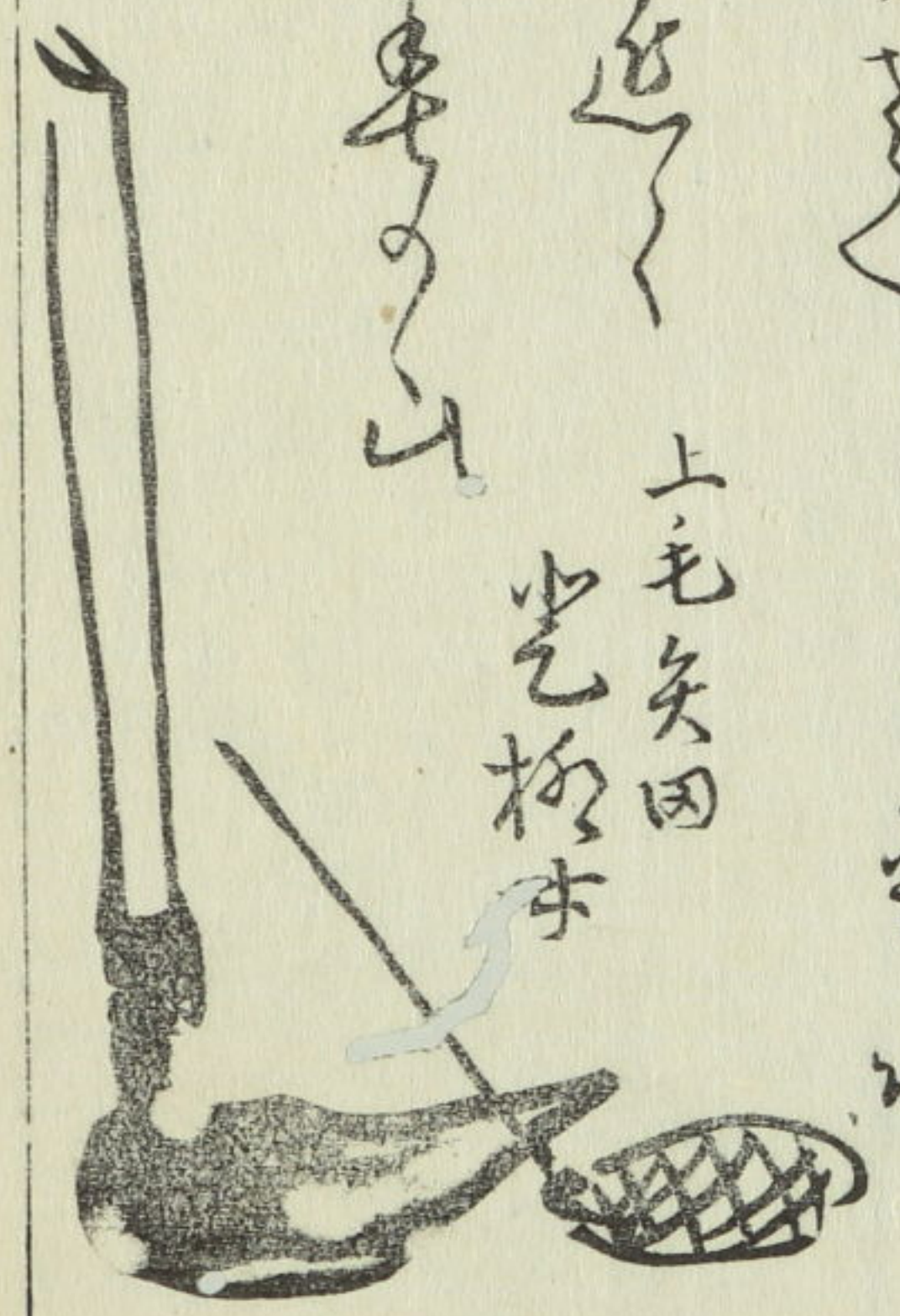
門田のあ〜  
南江

梅のきのうの夕陽

〜  
全響水

満ちり迄〜  
上毛矢田

〜  
光柳水





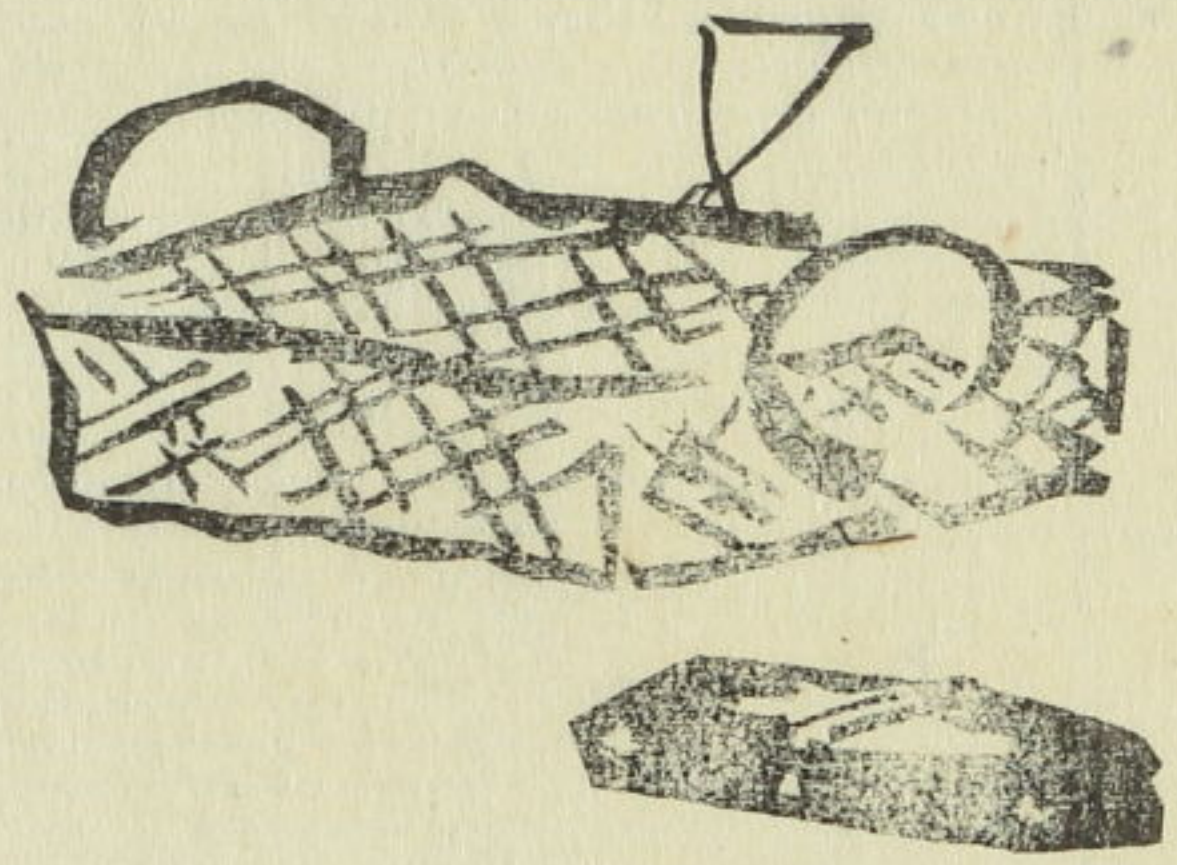
武中三行  
 十甫壽堂  
 一 樂山  
 少者乃路之  
 深 春之庭



雪の形を  
 雪の影を  
 雪の音を  
 雪の香を  
 雪の味を  
 雪の触を







古向舟連

神坂倉

雪柳

知念乃いんち

あんち梅忌

裾りや荷のあえ

鳥の春 貞母堂

桃逸

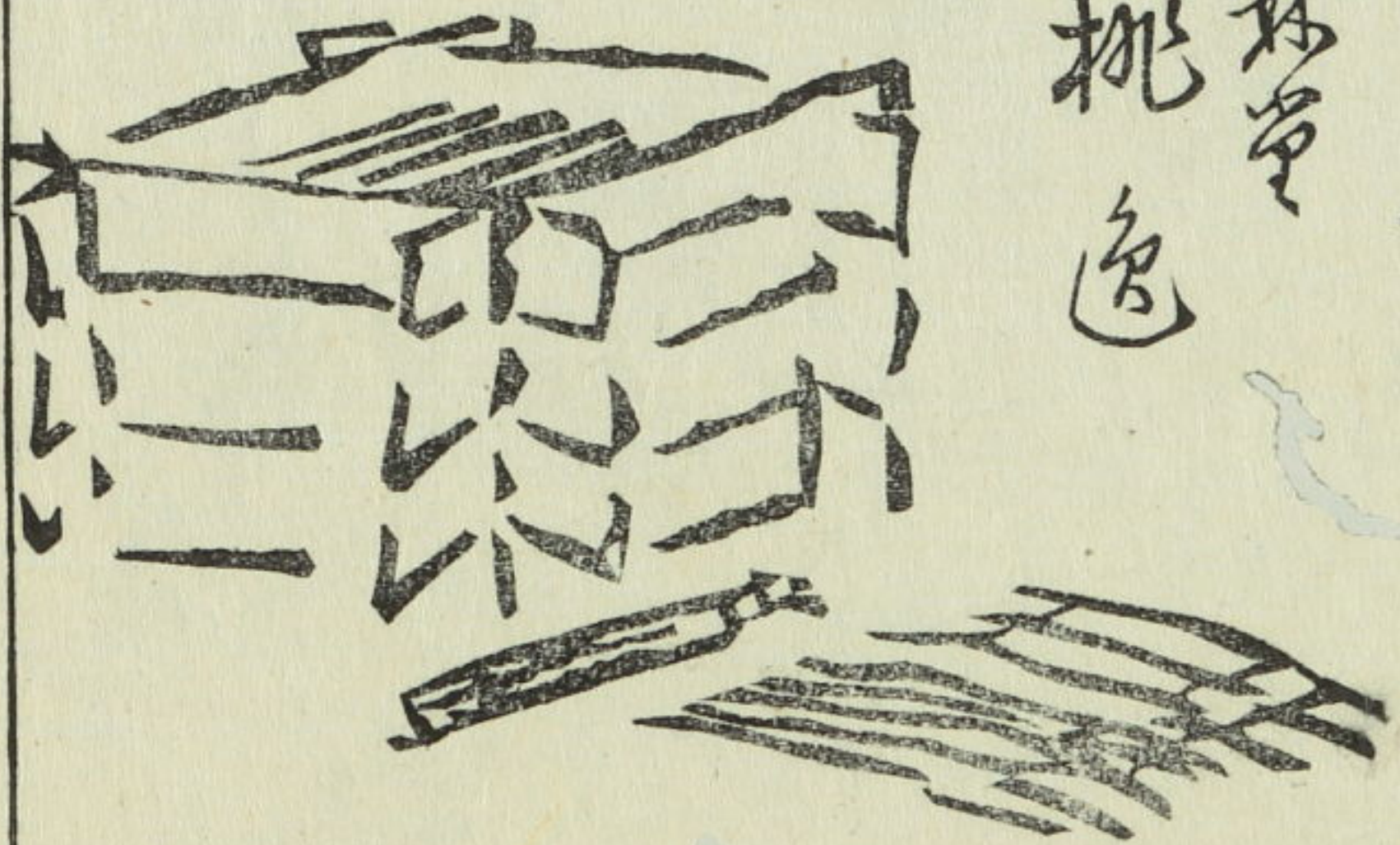
ねんを

さよ

あき

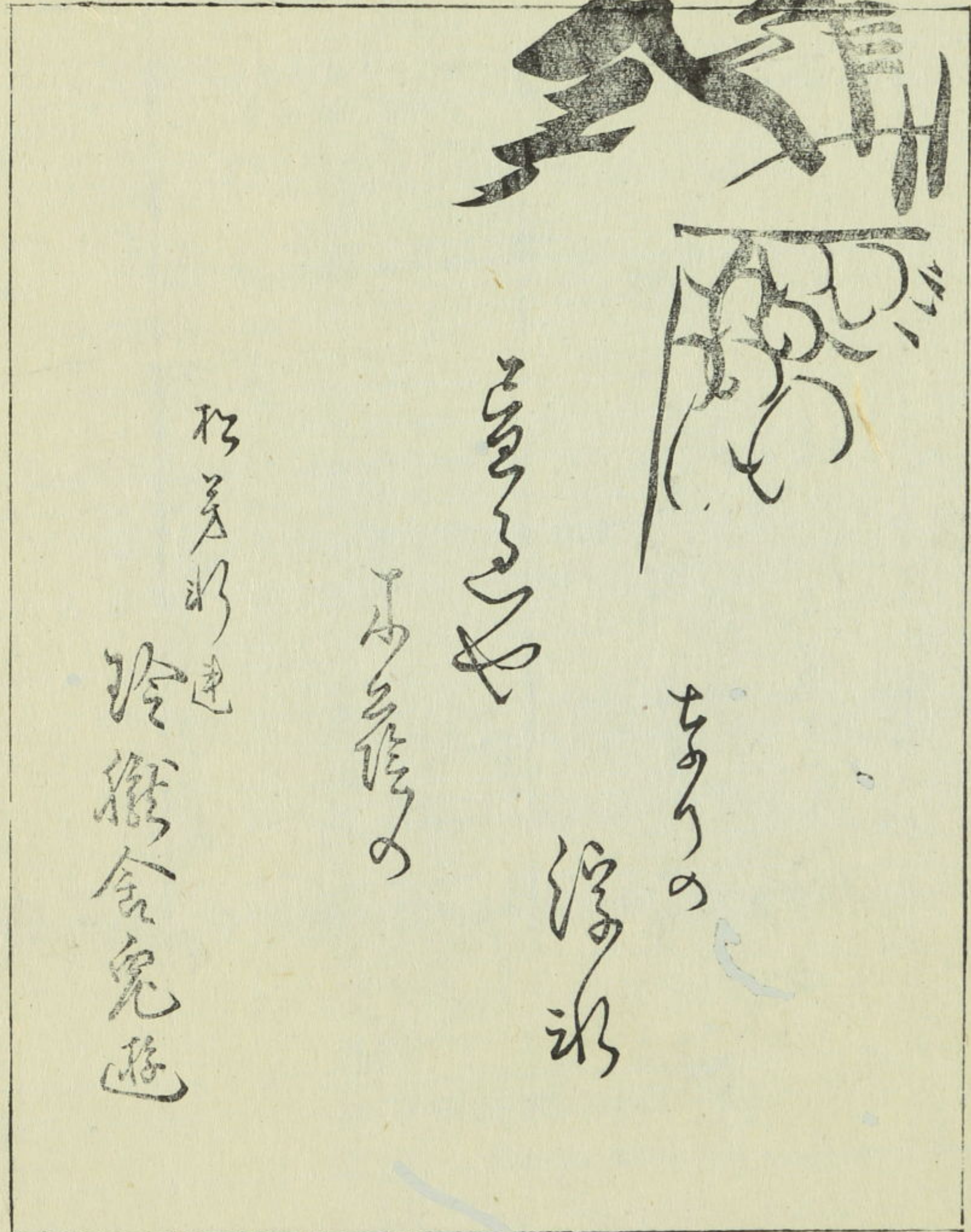
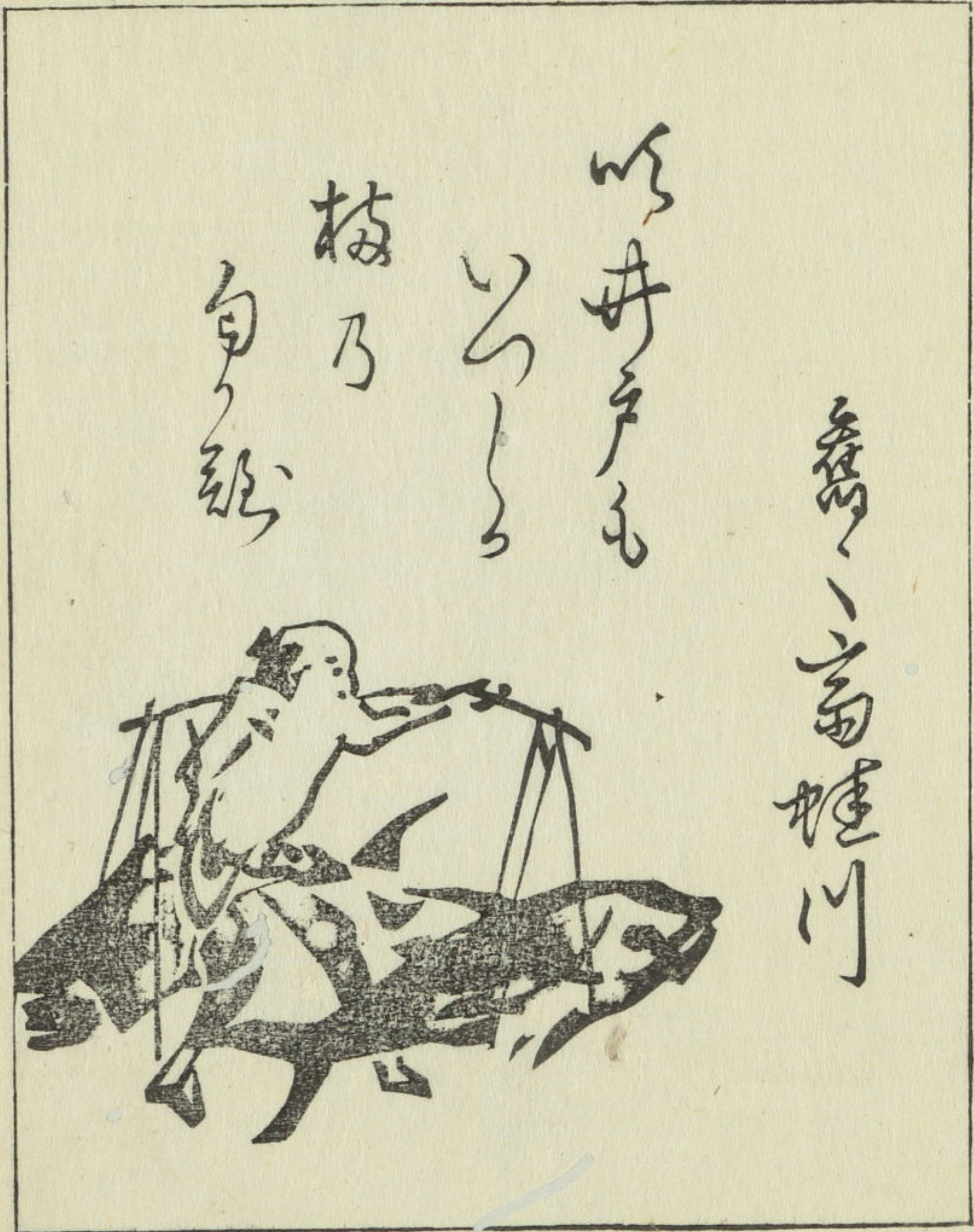
雪柳

我海

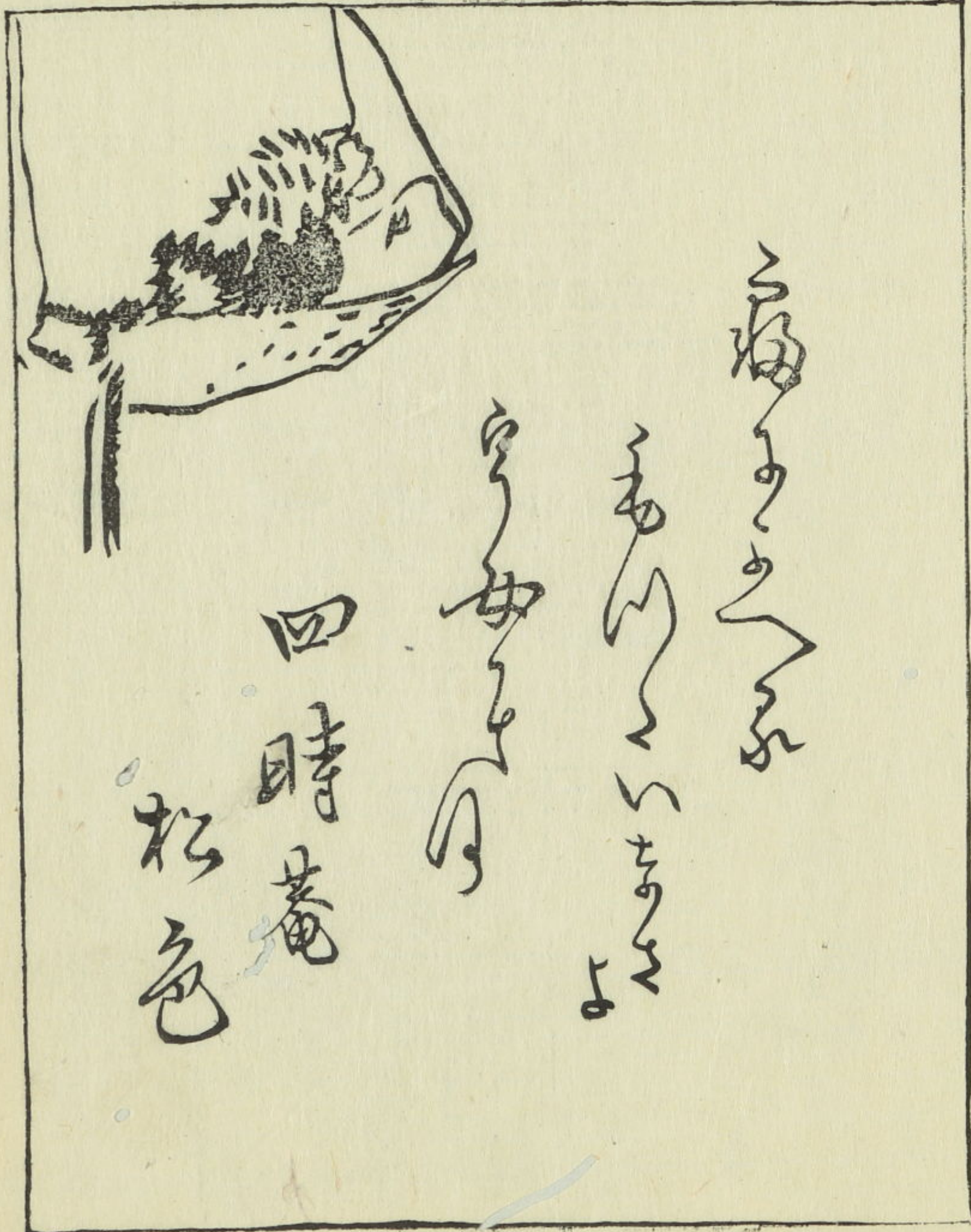


八三三

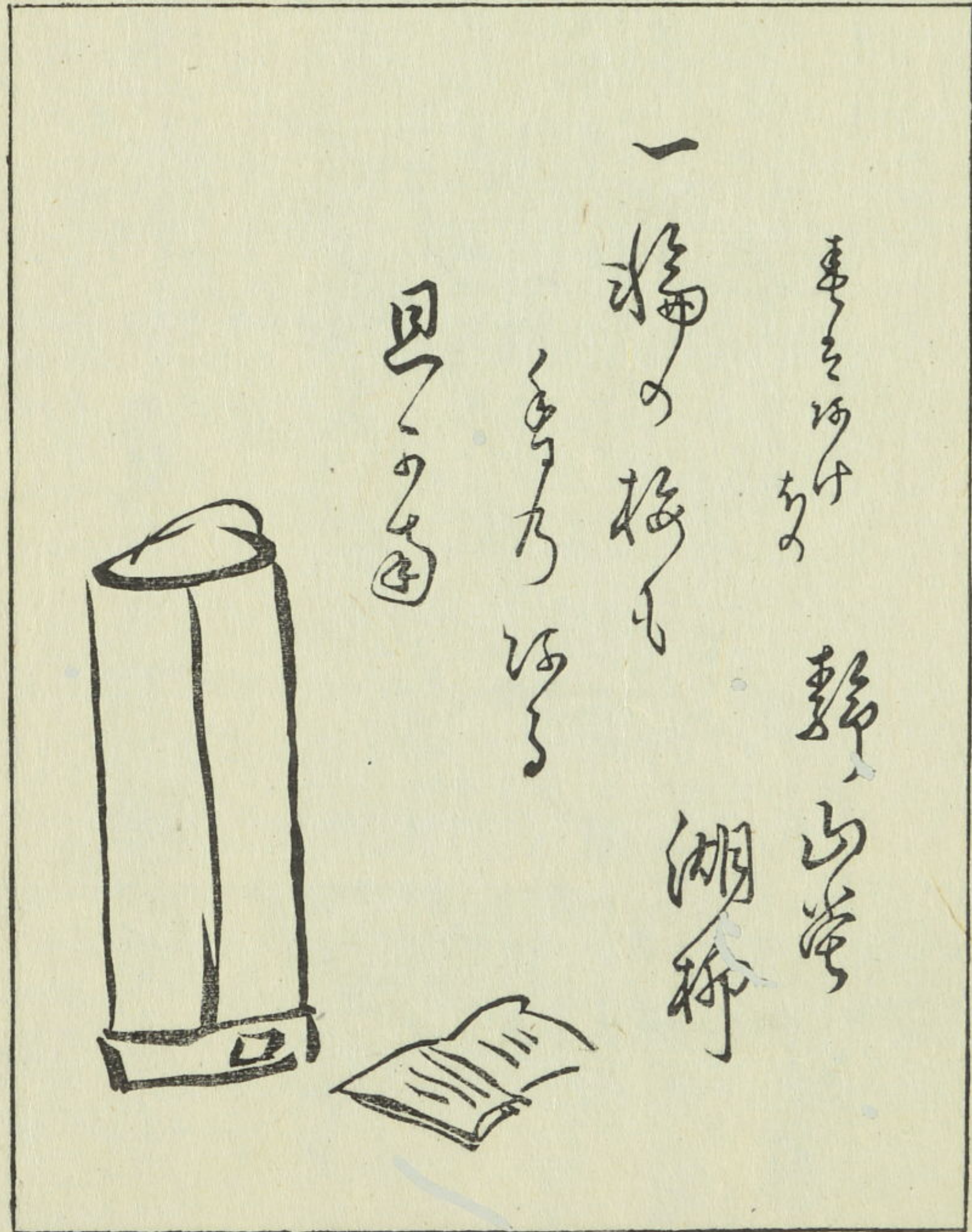








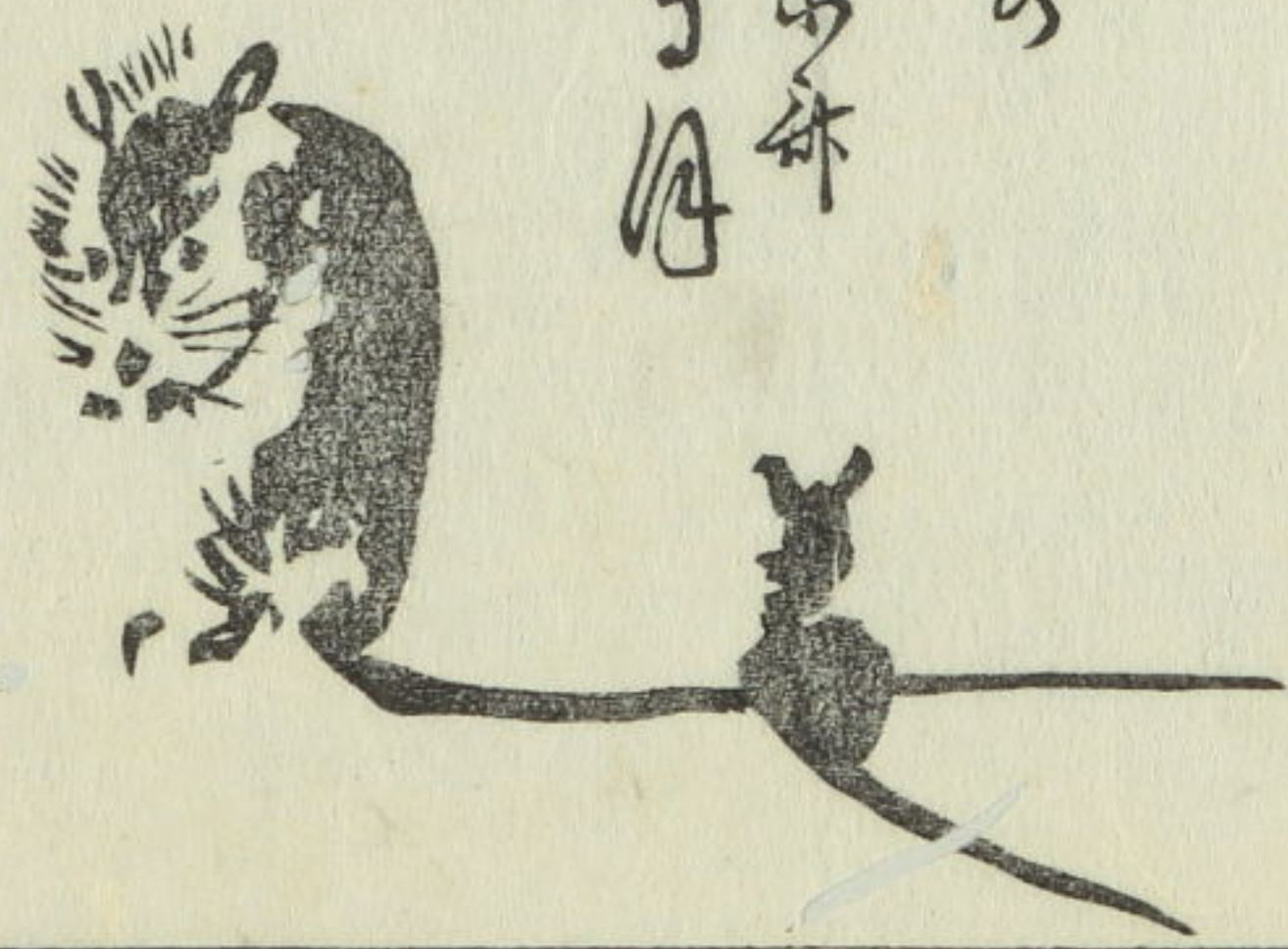
松色  
 四時菴  
 鳥の鳴き声  
 鳥の鳴き声  
 鳥の鳴き声



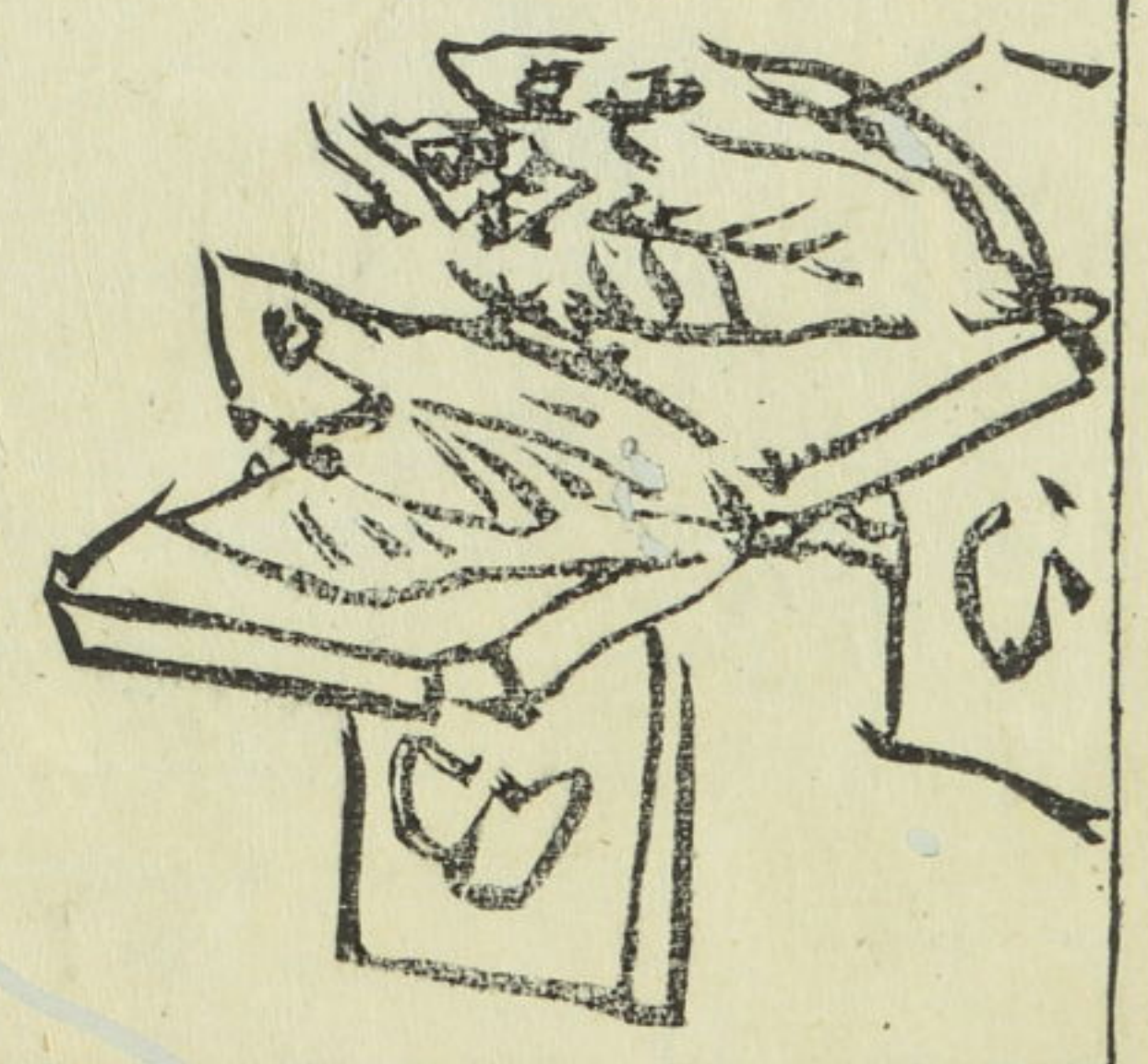
車を河に  
 一編の梅も  
 湖舟  
 鳥の鳴き声  
 鳥の鳴き声



花月  
 後乃々々々  
 詠やらららら  
 美多美多  
 月橋  
 床のやうきやう  
 杖の舟乃水  
 花月



母登山  
 一得  
 丁  
 月橋  
 花月





いさしきまのこゝろ

仙臺連

きよひや御代のみち

陽柳舎

桃笑

あはれみよのこゝろ

年始あはれみよのこゝろ

あはれみよ

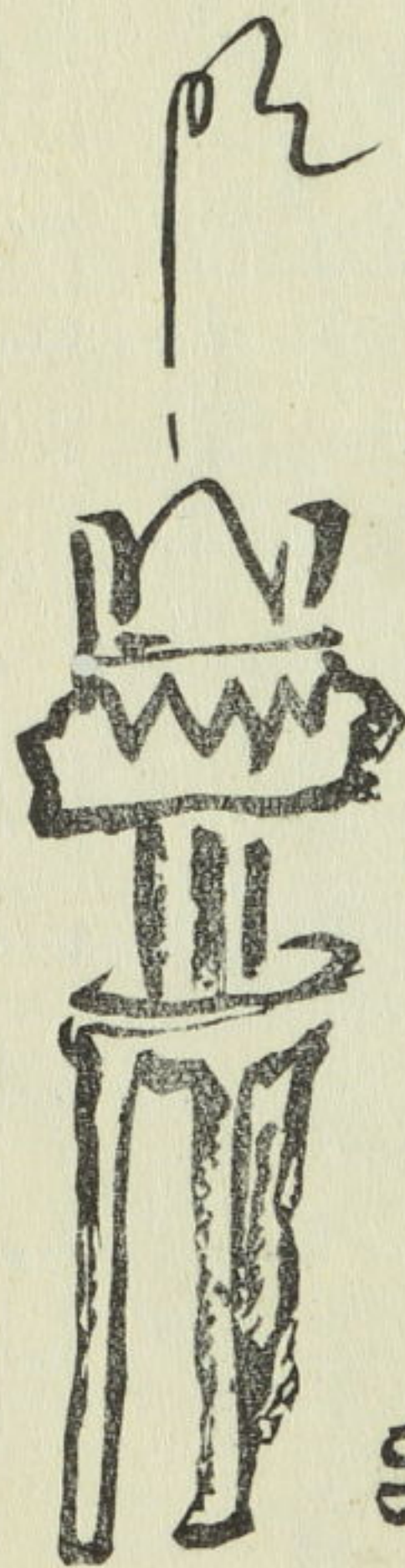
春風堂

あはれみよ

桃曉

あはれみよ

三



我甲子あはれみよ

あはれみよのこゝろ

仙臺連

桃真

あはれみよ

あはれみよのこゝろ

あはれみよのこゝろ

桃錦

あはれみよ

春風堂

あはれみよのこゝろ

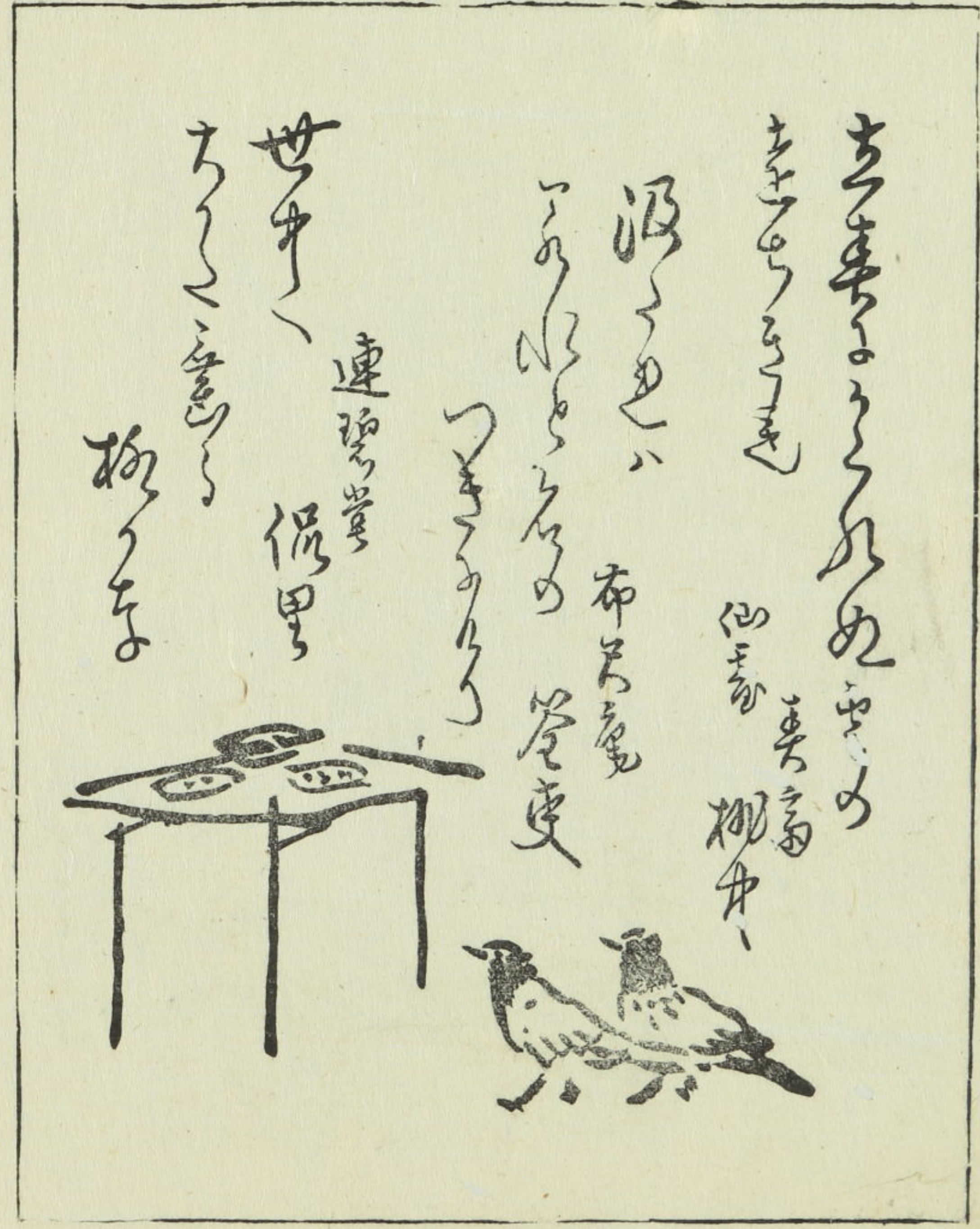
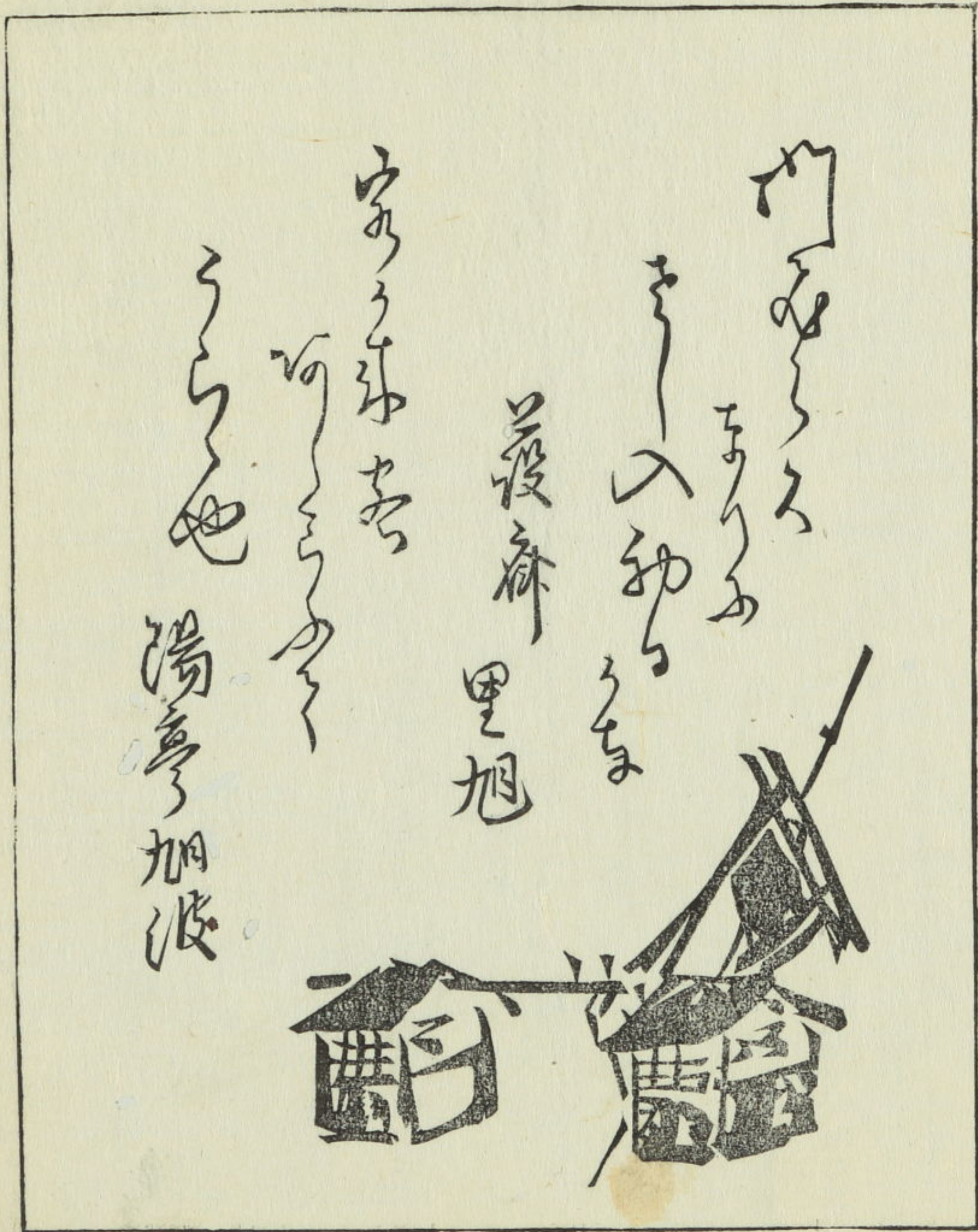
桃種













えりやうけり少く 春月波  
かゝる 後のころら一崎女

人のこゝろもせり 春寄堂

ちりのりりまのり 柏清

雪とくはくはん 三つ黄

ちさく 若葉稿 梅山



あゝらむひのまを  
おとさるる柳

松のそ葉あま



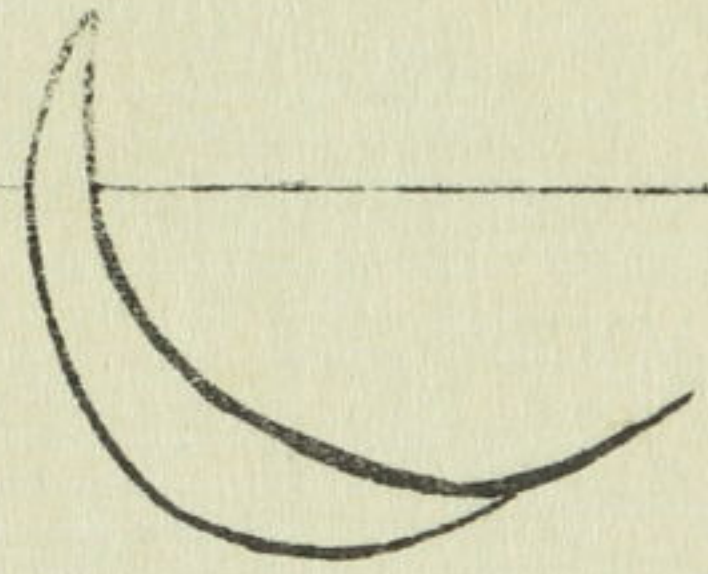
あゝらむひのまを 居野堂

眠るるるれ鞍のと 牛谷

ちさくあまの けりりり

伸くく候ふ 日有庵  
山友前





あつちのうらな 蘇月居

連

とちのうらな

とちのうらな

蘇月居

湖風

海神乃

忍痛

投げしつゝ河の柳心

しゝゝゝゝゝ

平気

こゝろ心ゆきゝ梅心

左眼斎一貞

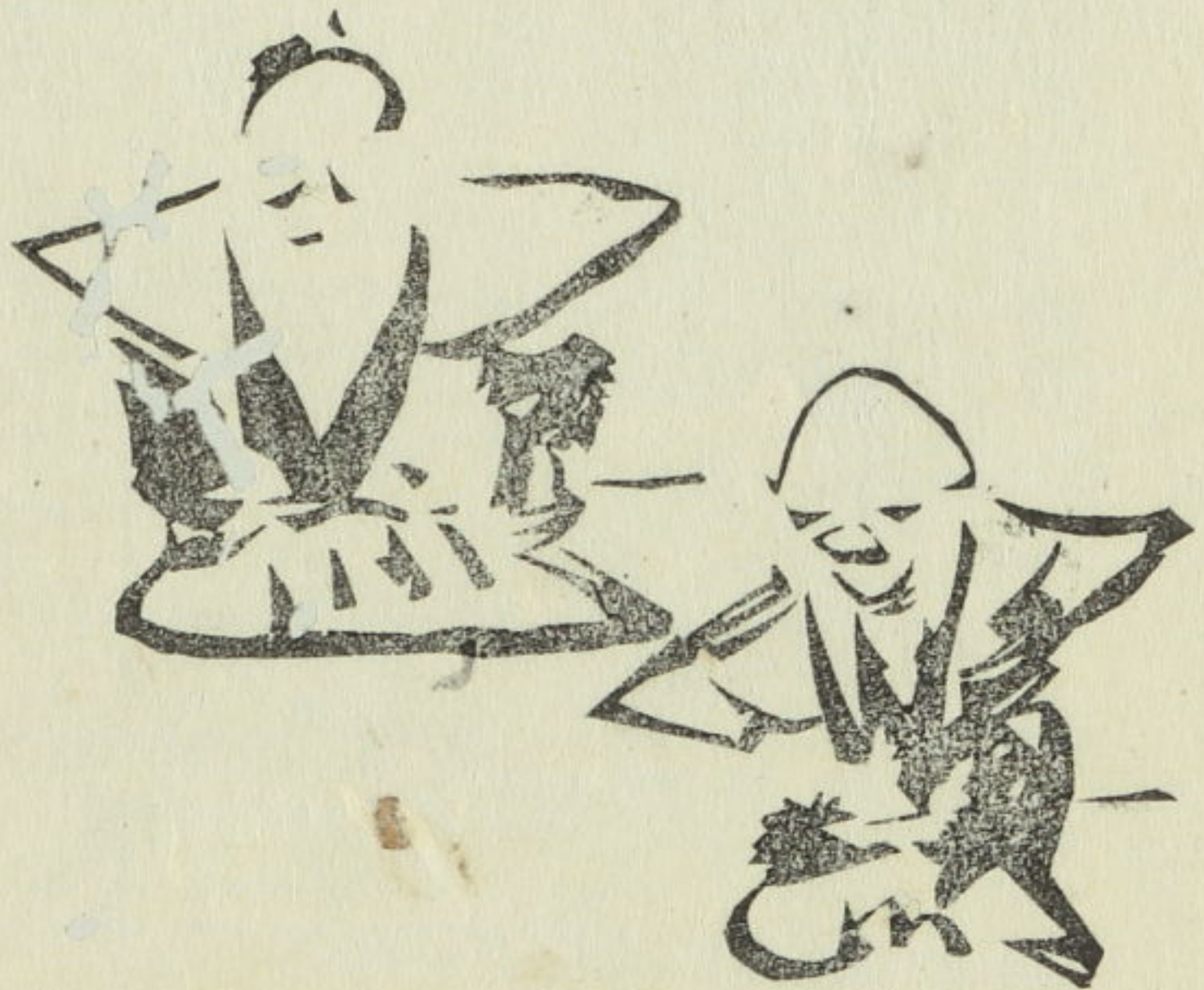
行

とちのうらな

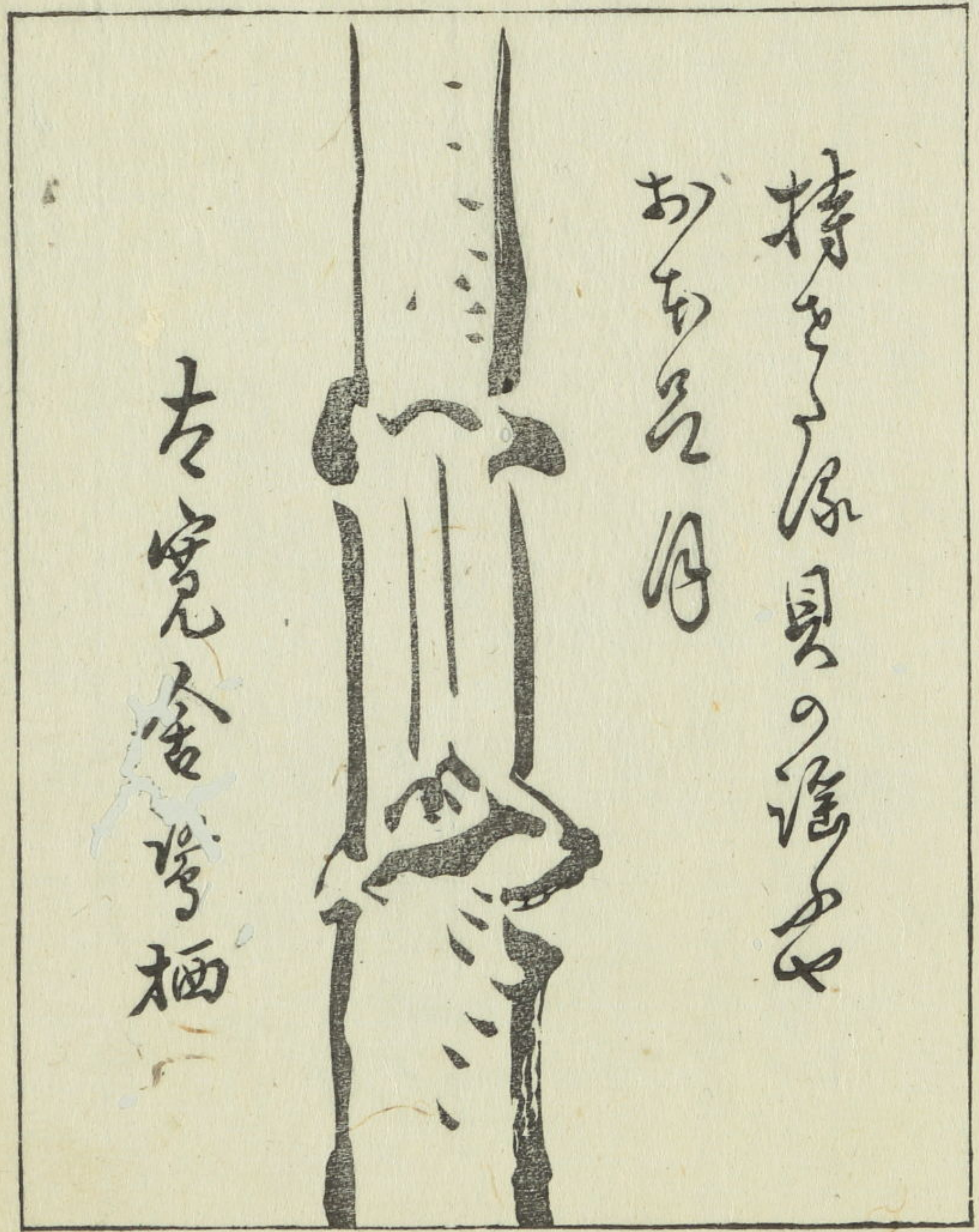
とちのうらな

とちのうらな

とちのうらな



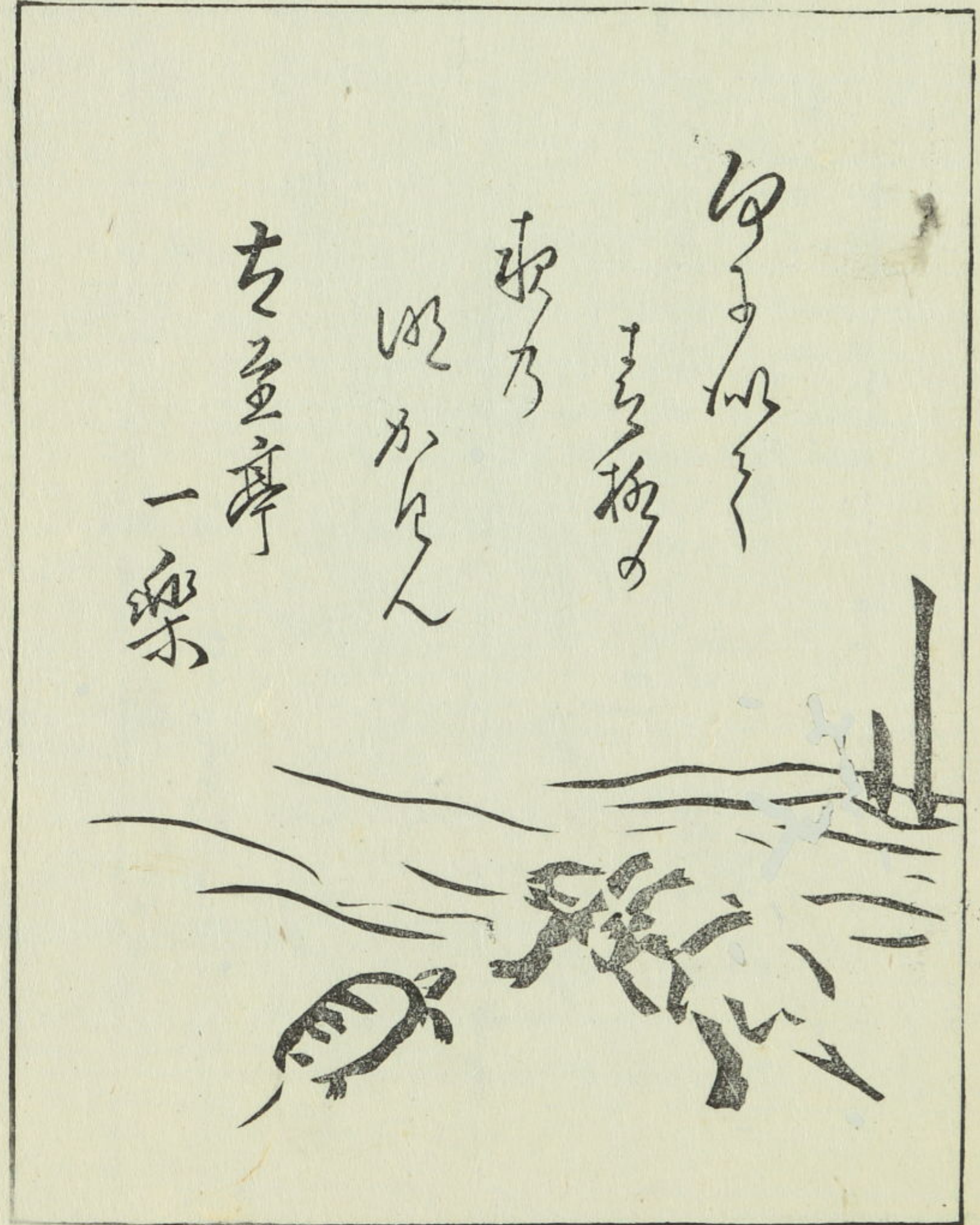




持てし道具の道具  
おのゝ月

古寛金塔栖

乙三



何の山々

古松の

水乃

水乃

古松の

一樂

乙三



見り先らるる可  
口まれて柳  
桃三宮支原



太皇太后主人佐桃隣子至孤月君凡六世其門  
戸之盛莫盛於君夫而予画此帖者已二十有  
餘年前後亦無聞茲則桃也華也所以煥  
赫于世也 出平山在也

除ふ初りをも初〜〜〜 後雪

〜〜〜をまき〜〜〜 後雪

〜〜〜をち〜〜〜とす〜〜〜 後雪

〜〜〜を〜〜〜とす〜〜〜 後雪

〜〜〜を〜〜〜とす〜〜〜 後雪

〜〜〜を〜〜〜とす〜〜〜 後雪

〜〜〜を〜〜〜とす〜〜〜 後雪

〜〜〜を〜〜〜とす〜〜〜 後雪

〜〜〜を〜〜〜とす〜〜〜 後雪



草の根もさかすかすの根にさかすか  
合 一 所

のりもさかすかすの根にさかすか

あつちの根にさかすかすの根にさかすか

門松もさかすかすの根にさかすか  
甲古市陽 斗 仙

あつちの根にさかすかすの根にさかすか

あつちの根にさかすかすの根にさかすか

あつちの根にさかすかすの根にさかすか  
合 席 松

あつちの根にさかすかすの根にさかすか

あつちの根にさかすかすの根にさかすか

あつちの根にさかすかすの根にさかすか  
天古市陽 松 雨

あつちの根にさかすかすの根にさかすか

あつちの根にさかすかすの根にさかすか

あつちの根にさかすかすの根にさかすか  
合 紀 古 章 雪

あつちの根にさかすかすの根にさかすか

あつちの根にさかすかすの根にさかすか

あつちの根にさかすかすの根にさかすか  
合 柳 使

あつちの根にさかすかすの根にさかすか

あつちの根にさかすかすの根にさかすか







云七本  
琴生

月影もあやまきつらぬうね  
ちりちり田舎やうらまふふん

床のききわつしんんんんんんんん

とととと一伸しんんんんんんんん

船をゆるあ陰のほやうめれん

くまのねやうんんんんんんんん

空をりんんんんんんんんんんんん

旅まゝのねやうねんんんんんん

とととととととととととととととと

鳥島

産生

樹まの席しんんんんんんんん

梅くうふんんんんんんんんんん

一とをのまんんんんんんんん

毎の糸方すめふねんんんんんん

まを配んんんんんんんんんん

くまのねやうんんんんんんんん

鏡まもろんんんんんんんんんん

うんんんんんんんんんんんん

まのねやうんんんんんんんん

不二丸

枕溪

猿島



新のきりのつや和を子移りたり

甲尻山 氏芝

志のきりしきりしめきりしきり

きりしきりしきりしきりしきり

人のきりしきりしきりしきり

全村山 桃系

追のきりしきりしきりしきり

新のきりしきりしきりしきり

信及町 飛角

大勢のきりしきりしきりしきり

新のきりしきりしきりしきり

美々の神子くらきりし我世帯

松橋

雲のきりしきりしきりしきり

海のおとせきりしきりしきり

上総津波 新文

河のきりしきりしきりしきり

早のきりしきりしきりしきり

美のきりしきりしきりしきり

上毛のきり 鳥分

杉のきりしきりしきりしきり

松のきりしきりしきりしきり



梅のつとむる本をうらむ人 梅華

全三波門 介九

さかすかす人さかす梅のつとむる

さかすかす人さかす梅のつとむる

さかすかす人さかす梅のつとむる

さかすかす人さかす梅のつとむる

さかすかす人さかす梅のつとむる

さかすかす人さかす梅のつとむる

さかすかす人さかす梅のつとむる

さかすかす人さかす梅のつとむる

明皇の御代にさかす梅のつとむる 江波 甲子

中興の御代にさかす梅のつとむる

仁徳の御代にさかす梅のつとむる

敏達乃刀にさかす梅のつとむる 天正 花抄

孝徳の御代にさかす梅のつとむる

天智の御代にさかす梅のつとむる

持統の御代にさかす梅のつとむる 文車

孝徳の御代にさかす梅のつとむる

天智の御代にさかす梅のつとむる

一

一



わらわらわりの花の結ひを女 上落 賀作

ねんねんねんねんねんねんねん

けしきけしきけしきけしきけしき

とくしとくしとくしとくしとくし 全 柳園

あけあけあけあけあけあけあけ

あけあけあけあけあけあけあけ

あけあけあけあけあけあけあけ 孝 燕眉

あけあけあけあけあけあけあけ

あけあけあけあけあけあけあけ

あけあけあけあけあけあけあけ 全 京門

あけあけあけあけあけあけあけ

あけあけあけあけあけあけあけ

あけあけあけあけあけあけあけ 一扇

あけあけあけあけあけあけあけ 柳年

両節

あけあけあけあけあけあけあけ 柳栗

あけあけあけあけあけあけあけ

あけあけあけあけあけあけあけ 山峰



新中けのほくつと梅のむらさきぬ  
 くらさ年とと余のほくつと梅のむらさきぬ  
 ぬ梅やねとと入紙の端のうさ  
 中くのさ 我やぬとと入紙の端のうさ  
 ねのうさ 四五梅のうさ  
 の新やまのむらさきとと入紙の端のうさ  
 うら梅のうさ 四五梅のうさ  
 おもひつとと入紙の端のうさ

四興

白梅  
 白梅  
 白梅  
 白梅  
 白梅

梅のうさの物終つとと入紙の端のうさ  
 おもひつとと入紙の端のうさ  
 常々入紙の端のうさ  
 さつとと入紙の端のうさ  
 ちのうさのうさのうさのうさ  
 佛座のうさのうさのうさ  
 梅のうさのうさのうさ  
 ちのうさのうさのうさ  
 ちのうさのうさのうさ

春雨堂

洞澤庵  
 心芳軒







梅の家 結くもくもく又一人  
雪むちと ちを 通る 梅く  
新の ち乃 伸く 何とく 梅く  
雪の 何とく 何とく 何とく 何とく  
大なるの 雪とく 中とく 何とく  
新の 何とく 何とく 何とく 梅く  
くかの 新とく やく 何とく 何とく  
何とく 何とく 何とく 何とく 何とく

車 輝  
玉 仙  
経  
月 身  
文 巡  
玉 翠  
亮 来  
編 竹

春興

門の 何とく 何とく 何とく 何とく  
十とく 何とく 何とく 何とく 何とく  
何とく 何とく 何とく 何とく 何とく  
何とく 何とく 何とく 何とく 何とく  
何とく 何とく 何とく 何とく 何とく  
何とく 何とく 何とく 何とく 何とく  
何とく 何とく 何とく 何とく 何とく  
何とく 何とく 何とく 何とく 何とく

支 石  
夢 梅  
桃 金  
白 麦  
梅 山  
文 石  
一 樂  
一 貞







春のやうに空しく梅を

いし甲のへ梅を並くし作

白梅や一をくさくさぬ

梅うきふまき色ぬあ

春のおやねをよけら

先立く月をのまやう

先梅のぬきとよし

晴向く新や藤乃う

梅居

竹常

葉治

松晴

水正

水架

水秀

水雄

梅くさぬのひや人の

歳暮

多浦くさの軒や海

掛をくさくさく

松風もくさく

未あくさく

やうのねや松

六尾

甲くさく

梅夕

枕栗

山峰

葉深

葉石

葉光

東之



素山を流るる水

白菊

静のふりや

静江

のりや

字月

かきつる

亮明

そ即ち

峨丈

婦を

有園

隣り

湖石

さきの

孤

あま

ま



